# 2012年　風来坊　　Country Walk

里歩き・山歩き　＆　山口・美祢・美祢の四季　2012

*Mutsu Nakanishi Home Page より*
*http://www.asahi-net.or.jp/~zp4m-nkns/*

*2013. 1 15.*

*By　Mutsuo　Nakanishi*

# 水行末　雲来末　風来末　　和鉄の道 風来坊

**鉄の「まばゆい輝き・閃光」と「黒光り・肌光」**

日本には「たたら製鉄」という鉄鉱石や砂鉄の塊から、
「硬くてねばい鋼」を直接作り出す日本古来の製鉄法がある。
ヒッタイトが人工鉄を発明した当初の姿を現代まで残し、
現在の製鉄法にも負けない高品質の鋼を作り出す技術に高め、
維持している日本独自の製鉄法である。

日本に「鉄」が伝来して、この「たたら製鉄」が行われるまで、約800年の長きにわたってたたら製鉄法の摸索が続き、その技術をさらに磨き高めながら 1500年続いてきた日本独自の製鉄技術。「鉄は国家なり」「鉄は産業の米」と「鉄」の力が強調されるが、一方で文化を育み、 そこに住む人たちの生活を豊かにし、現在に至る日本を作ってきた。

　そんな今、急速な社会変革の中で　この製鉄にともなう数々のドラマが忘れ去られ、日本各地の「たたら製鉄」遺跡もろとも消え去ろうとしている。

人里は慣れた里山の谷筋や川筋・海岸など製鉄関連遺跡周辺には、生産の痕跡とともに、それに携わった人々の賑わいや数々のドラマが、周りの美しい景色とともに埋もれ残り、日本の原風景といわれるすばらしい景色にも出会えます。
また、製鉄関連遺跡は日本各地　それこそどこにでもあり、好奇心を持って訪れば、すばらしい景色とともに数々の出会いがあるのも楽しみ。
そんな日本で繰り広げられたドラマ　そして　その痕跡の風景を少しでも残しておきたいと「和鉄の道・Iron Road」として日本各地を Country Walk しつつ集めています。

# 2012年　風来坊　Country　Walk　総　覧

## 里歩き・山歩き　＆　山口・美祢・長門の四季

風来坊 Country Walk【11】　里歩き・山歩き　2012

1. 【私蔵版　スライド動画】
   久しぶり　仲間が誘ってくれた　神戸　ジャズ　ライブ　2012.2.5.　12walk01.pdf
2. 【スライド動画】 知っているようで知らなかった京都東山界隈のお寺　walk　2012.2.21. & 2.22.　12walk02.pdf
   東寺の「弘法さん」・知恩院さん・祇園建仁寺の「竜」・清水寺
3. 2012 年　春の便り　From Kobe　＆　各地の仲間からの春便り　2012.3.25.　12walk03.pdf
   1. 神戸の春便り
      1. 神戸の春　満開の梅・海・菜の花の丘　3 月後半
      2. 神戸の自宅周辺も春の景色がどんどん変化しています　3 月 30 日
   2. 各地の仲間からいただいた春便り
      1. 西宮　H.S.さんからの便り　3 月 9 日　2. 秦野　T.S.さんからの便り　3 月 12 日
      3. 横浜　M.K さんから三渓園の梅便り　3 月 15 日　4. 神戸　H.O さんより　3 月 20 日
      5. マーレシアベナン　T.S さんからの便り　3 月 20･23 日
4. 【スライド動画】
   神戸桜　Walk 2012　「奥平野の舞桜」　神戸にも素晴らしい一本桜がありました　2012.4.10　12walk04.pdf
   神戸の基礎を築いた平清盛の都「福原京」を見下ろす一本桜
   奥平野浄水場・水の科学館「奥平野の舞桜」
5. 【スライド動画】
   神戸の春を楽しむ　原チャリ Walk　神戸丹生山　箕谷/淡河線　＆　雌岡山　2012.4.21.　12walk05.pdf
   1.新緑の中ミツバツツジが美しい神戸丹生山越　箕谷/淡河線　2.カタクリの咲く雌岡山にギフチョウが舞う
6. 【スライド動画】　京都　桜　Walk 2012　醍醐・宇治平等院・高野川堤・植物園夜　2012.4.12　.　12walk06.pdf
7. 【スライド動画】
   京都　洛北　春 Walk　上賀茂　深泥池　から　岩倉　円通寺へ　2012.4.13.　12walk07.pdf
   静寂な円通寺の庭園へ行きたくなって　深泥池から円通寺へ歩きました
8. 【スライド動画】　六甲　石楠花谷(森林植物園)の日本シャクナゲ　2012.5.8.　12walk08.pdf
9. 【スライド動画】　知っているようで知らなかった京都　伏見の街を歩く　2012.5.15.　12walk09.pdf
10. 【スライド動画】
    久し振りに九州へ　素晴らしいバラの街「ハウステンボス」を訪ねました　2012.5.27.　12walk10.pdf
    バラの街　ハウステンボス・西の要の軍港　佐世保・陶磁器の町　有田
11. 千種川流域に咲くひまわり畑と製鉄神「天目一筒神」を祭る「天一神社」を訪ねる　2012.7.18.　12walk11.pdf
    ひまわりの夏 2012　古代たたらの郷　佐用　西播磨佐用町（旧南光町）林崎
    1. 「ひまわりの夏 2012」 千種川沿いの河岸段丘一面を黄色に　佐用町林崎のひまわり畑
    2. ひまわり畑のすぐ近く東徳久間村の里山　製鉄神「天目一筒神」を祭る「天一神社」を訪ねる
12. 【スライド動画】 須磨　塩屋海岸の洋館　Walk
    - 梅雨の晴れ間　高倉山-旗振山から塩屋へ下る -　2012.7.9.　12walk12.pdf
13. 【スライド動画】 丹波焼の郷「立杭」山野草愛好家では有名な「伝市窯」Walk　2012.7.10.　12walk13.pdf
14. 【スライド動画】 祇園祭 2012　宵山　＆　巡行の朝　鉾町を歩く　2012.5.27.　12walk14.pdf
    1. 2012 祇園祭　宵山鉾町 walk　2. 2012 祇園祭　巡行の朝　鉾町を歩く
15. 【スライド動画保存版】
    かつては「尼の喧嘩祭」として有名な尼崎貴布禰神社夏祭り〔宵宮〕　2012.8.1.　12walk15.pdf
    50 数年ぶり だんじりと暴れ太鼓の宮入

（ 次頁につづく ）

16.【スライド動画】 **わが家の 2012 年夏　朝顔帳** 12walk16.pdf

17.【スライド動画】 **涼を求めて 布引谷へ　滝道を歩く** 2012.8.15. 12walk17.pdf

18.【スライド動画】 2012 秋 西神戸・播磨に小さい秋を探して【1】

**豊かな稔りを迎えた 初秋の西神戸田園 Walk** 2012.9.7. 12walk18.pdf

残暑と初秋の爽やかな風が交錯する 9 月上旬 美しい空に惹かれ、 秋を見つけに西神戸の田園 Walk

19.【スライド動画】 2012 秋 西神戸・播磨に小さい秋を探して【2】

**「彼岸花の里 播磨多可町」今年も千ヶ峰・妙見山の麓に彼岸花を訪ねました** 2012.9.27. 12walk19.pdf

1. 小野市天神 国道 175 号線脇の田園の畦を飾る彼岸花　2. 多可町中区間子 妙見山の麓 彼岸花の里
3. 多可町加美 岩座神集落 千ヶ峰の山懐 棚田を飾る彼岸花　4. 多可町加美 杉原川沿い田園の彼岸花

20.【スライド動画】

**京都北山ドライブ 花脊峠・佐々里峠を越えて 由良川源流へ** 12walk20.pdf

北山の森・大悲山 峰定寺・美山「かやぶきの里」を訪ねる 2012.9.17.

1. 花脊峠から 花背 大悲山峰定寺へ　2. 佐々里峠 京都北山の最奥部日本海側と瀬戸内側を分ける分水界
3. 由良川源流 美山町芦生から美山町かやぶきの里へ　4. 美山町北 美山かやぶきの里
5. 夕暮れ時 由良川沿いを西へ 和知 IC から綾部 IC をへて 舞鶴自動車道を神戸へ

21.【スライド動画】 2012 秋 西神戸・播磨に小さい秋を探して【3】

**播磨のコスモスの里 加古川市志方** 2012.10.12. 12walk21.pdf

22. 映像資料【スライド動画】 **旧別子銅山跡の産業遺産が眠る別子山**

紅葉に彩られた念願の「別子山銅の道・銅山越」Walk 2012.10.27. 12walk22.pdf

1. 新居浜から旧別子銅山跡日浦登山口 国領川を溯って大永山トンネルを抜け南側へ
2. 旧別子銅山跡をたどって銅山越へ
3. 銅山越から東平を経て新居浜へ

23. 映像資料【スライド動画】

**私の阿蘇谷「阿蘇黄土」を訪ねる 古代の製鉄原料???** 2012.11.1.& 11.2. 12walk23.pdf

阿蘇谷にベンガラの原料・「阿蘇黄土」を訪ねました　また、日本一美しいダム 豊後竹田白水ダムへも

ベンガラ原料の「阿蘇黄土・渇鉄鉱」 これが日本での製鉄の開始と関係していないか???

1. 私の阿蘇谷 渇鉄鉱阿蘇黄土と古代鉄概説　2. 菊池渓谷から阿蘇谷・阿蘇山ドライブ
3. 阿蘇谷狩尾に「阿蘇黄土」を訪ねる　4. 帰りは日本一美しい白水溜池堰堤へ

## 山口・美祢・長門の四季【10】2012

1. 2012 初夏の山口美祢【1】

【スライド動画&写真】 **私の心に残る風景 初夏 美祢の田園風景** 2012.5.25.～5.29. 10mine01.pdf

誰にも 記憶にとどめておきたい心の風景がある　美祢の初夏は そんな私の心に残る風景

2. 2012 初夏の山口美祢【2】

【スライド動画&写真】 **森に包まれた美祢湖 初夏の野の花 walk** 2012.5.26. 10mine02.pdf

3. 2012 初夏の山口美祢【3】

【スライド動画&写真】 **初夏の秋吉台カルスト 野の花 walk** 20012.5.26 10mine03.pdf

アザミなど 初夏の野草を見たくて 久し振りに

カルスト台地内の散策路を 展望台から若竹山・剣山までぶらぶら歩きました

和鉄の道・iron road　風来坊 Country Walk

# 水行末　雲来末　風来末　和鉄の道 風来坊

## 風来坊 Country Walk【11】　里歩き・山歩き 2012

1. 【私蔵版　スライド動画】
   **久しぶり 仲間が誘ってくれた 神戸 ジャズ ライブ**　2012.2.5.
2. 【スライド動画】 **知っているようで知らなかった京都東山界隈のお寺 walk**　2012.2.21. & 2.22.
   東寺の「弘法さん」・知恩院さん・祇園建仁寺の「竜」・清水寺
3. **2012 年 春の便り From Kobe & 各地の仲間からの春便り**　2012.3.25.
   1. 神戸の春便り
      1. 神戸の春 満開の梅・椿・菜の花の丘　3 月後半
      2. 神戸の自宅周辺も春の景色がどんどん変化しています　3 月 30 日
   2. 各地の仲間からいただいた春便り
      1. 西宮 H.S.さんからの便り　2. 奈良 T.S.さんからの便り
      3. 横浜 M.K さんから三渓園の梅便り　4. 神戸 H.O さんより
      5. マーレシアペナン T.S さんからの便り
4. 【スライド動画】
   **神戸桜 Walk 2012 「奥平野の舞桜」 神戸にも素晴らしい一本桜がありました**　2012.4.10
   神戸の基礎を築いた平清盛の都「福原京」を見下ろす一本桜
   奥平野浄水場・水の科学館「奥平野の舞桜」
5. 【スライド動画】
   **神戸の春を楽しむ 原チャリ Walk 神戸丹生山 箕谷/淡河線 & 雌岡山**　2012.4.21.
   1.新緑の中ミツバツツジが美しい神戸丹生山越 箕谷/淡河線
   2.カタクリの咲く雌岡山にギフチョウが舞う
6. 【スライド動画】 **京都 桜 Walk 2012 醍醐・宇治平等院・高野川堤・植物園夜**　2012.4.12
7. 【スライド動画】
   **京都 洛北 春 Walk 上賀茂 深泥池 から 岩倉 円通寺へ**　2012.4.13.
   静寂な円通寺の庭園へ行きたくなって 深泥池から円通寺へ歩きました
8. 【スライド動画】 **六甲 石楠花谷(森林植物園)の日本シャクナゲ**　2012.5.8.
9. 【スライド動画】 **知っているようで知らなかった京都 伏見の街を歩く**　2012.5.15.
10. 【スライド動画】
    **久し振りに九州へ 素晴らしいバラの街「ハウステンボス」を訪ねました**　2012.5.27.
    バラの街 ハウステンボス・西の果の軍港 佐世保・陶磁器の町 有田
11. **千種川流域に咲くひまわり畑と製鉄神「天目一箇神」を祭る「天一神社」を訪ねる**　2012.7.18.
    ひまわりの夏 2012 古代たたらの郷 佐用 西播磨佐用町(旧南光町)林崎
    1. 「ひまわりの夏 2012」 千種川沿いの河岸段丘一面を黄色に 佐用町林崎のひまわり畑
    2. ひまわり畑のすぐ近く東徳久間村の里山 製鉄神「天目一箇神」を祭る「天一神社」を訪ねる
12. 【スライド動画】 **須磨 塩屋海岸の洋館 Walk**
    - 梅雨の晴れ間 高倉山-旗振山から塩屋へ下る -　2012.7.9.
13. 【スライド動画】 **丹波焼の郷「立杭」山野草愛好家では有名な「伝市窯」Walk**　2012.7.10.
14. 【スライド動画】 **祇園祭 2012 宵山 & 巡行の朝 鉾町を歩く**　2012.5.27.
    1. 2012 祇園祭 宵山鉾町 walk　2. 2012 祇園祭 巡行の朝 鉾町を歩く
15. 【スライド動画保存版】
    **かつては「尼の喧嘩祭」として有名な尼崎貴布禰神社夏祭り[宵宮]**　2012.8.1.
    50 数年ぶり だんじりと屋台太鼓の宮入
16. 【スライド動画】 **わが家の 2012 年夏 朝顔帳**
17. 【スライド動画】 **涼を求めて 布引谷へ 滝道を歩く**　2012.8.15.
18. 【スライド動画】 2012 秋 西神戸・播磨に小さい秋を探して【1】
    **豊かな稔りを迎えた 初秋の西神戸田園 Walk**　2012.9.7.
    残暑と初秋の爽やかな風が交錯する 9 月上旬 美しい空に惹かれ、秋を見つけに西神戸の田園 Walk
19. 【スライド動画】 2012 秋 西神戸・播磨に小さい秋を探して【2】
    **「彼岸花の里 播磨多可町」今年も千ヶ峰・妙見山の麓に彼岸花を訪ねました**　2012.9.27.
    1. 小野市天神 国道 175 号線脇の田園の畦を飾る彼岸花　2. 多可町中区間子 妙見山の麓 彼岸花の里
    3. 多可町加美 岩座神巨石 千ヶ峰の山麓 棚田を飾る彼岸花　4. 多可町加美 杉原川沿い田園の彼岸花
20. 【スライド動画】
    **京都北山ドライブ 花背峠・佐々里峠を越えて 由良川源流へ**
    北山の森・大悲山 峰定寺・華山「かやぶきの里」を訪ねる　2012.9.17.
    1. 花背峠から 花背 大悲山峰定寺へ　2. 佐々里峠 京都北山の最奥部日本海側と瀬戸内側を分ける分水界
    3. 由良川源流 美山町芦生から美山町かやぶきの里へ　4. 美山町北 美山かやぶきの里
    5. 夕暮れ時 由良川沿いを西へ 和知 IC から綾部 IC をへて 舞鶴自動車道を神戸へ
21. 【スライド動画】 2012 秋 西神戸・播磨に小さい秋を探して【3】
    **播磨のコスモスの里 加古川市志方**　2012.10.12.
22. 映像資料【スライド動画】 **旧別子銅山跡の産業遺産が眠る別子山**　2012.10.27.
    紅葉に彩られた念願の「別子山銅の道・銅山越」Walk
    1. 新居浜から旧別子銅山跡目浦登山口 国領川を遡って大永山トンネルを抜け南側へ
    2. 旧別子銅山跡をたどって銅山越へ
    3. 銅山越から東平を経て新居浜へ
23. 映像資料【スライド動画】
    **私の阿蘇谷「阿蘇黄土」を訪ねる 古代の製鉄原料???**　2012.11.1.& 11.2.
    阿蘇谷にベンガラの原料・「阿蘇黄土」を訪ねました また、日本一美しいダム 豊後竹田白水ダムへも
    ベンガラ原料の「阿蘇黄土・湯鉄鉱」これが日本での製鉄の開始と関係していないか???
    1. 私の阿蘇谷 湯鉄鉱阿蘇黄土と古代鉄概説　2. 菊池渓谷から阿蘇谷・阿蘇山ドライブ
    3. 阿蘇谷狩尾に「阿蘇黄土」を訪ねる　4. 帰りは日本一美しい白水溜池堰堤へ

1.

## 久しぶり　仲間が誘ってくれた　神戸ジャズ　ライブ　2012.2.5.

「ジャズの街　神戸」一度是非と思いながら　一人ではよう行かなかったジャズライブ。
大学時代の仲間が誘ってくれて、神戸のライブハウスにジャズを聴きに久しぶりに出かけました。　仲間の友達が主宰するバンドが出演しているという。

ジャズはあまりよく知らず、雰囲気が味わいたくて神戸でのライブに行くのは　十数年ぶり
幾つか聴いたことのあるナンバーもあって　本当に感激で　上機嫌で帰ってきました。

昔　フェニックスやサンフランシスコの街で仕事仲間が連れて行ってくれたこと寒い雪の東室蘭のライブハウスのことそして　最後に演奏された「わが心のジョージア????」には　レイチャールズの映画やアトランタ旅行を重ねたり。かつて　いっしょに仕事した仲間を思い浮かべ、懐かしいライブの雰囲気に浸っていました。
また、みんな　どうしているかなあ・・・・・・・と。

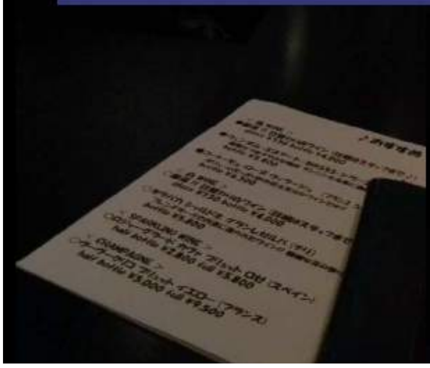
もう　随分長く　忘れていた世界での楽しさ　でした。
ありがとう　また、機会があれば　誘ってください。

2012.2.5.夜　ジャズライブから帰って

April Winds with 三田裕子 ジャズライブ
2月5日
Great Blue
グレートブルー


April Winds with 三田裕子
2012.2.5.

April Winds with 三田裕子 ジャズライブ
2月5日
APRIL WINDS
with 三田裕子
Great Blue
ECC
ライブハウス
グレートブルー
TEL・FAX (078)231-0071
April Winds with 三田裕子
2012.2.5.



Blue

Blue

「ジャズの街　神戸」一度是非と思いながら　一人ではよう行かなかったジャズライブ。
大学時代の仲間が誘ってくれて、神戸のライブハウスにジャズを聴きに久しぶりに出かけました。　仲間の友達が主宰するバンドが出演しているという。

ジャズはあまりよく知らず、雰囲気が味わいたくて神戸でのライブに行くのは　十数年ぶり
幾つか聴いたことのあるナンバーもあって　本当に感激で　上機嫌で帰ってきました。

昔　フェニックスやサンフランシスコの街で仕事仲間が連れて行ってくれたこと寒い雪の東室蘭のライブハウスのことそして　最後に演奏された「わが心のジョージア????」には　レイチャールズの映画やアトランタ旅行を重ねたり。かつて　いっしょに仕事した仲間を思い浮かべ、懐かしいライブの雰囲気に浸っていました。
また、みんな　どうしているかなあ・・・・・・・と。

もう　随分長く　忘れていた世界での楽しさ　でした。
ありがとう　また、機会があれば　誘ってください。

2012.2.5.夜　ジャズライブから帰って

2.　【写真アルバム】　**久しぶりに京都のお寺の中をゆっくりと**

**東寺の「弘法さん」・知恩院さん・祇園建仁寺の「竜」・清水寺　2012. 2.21. & 2.22.**

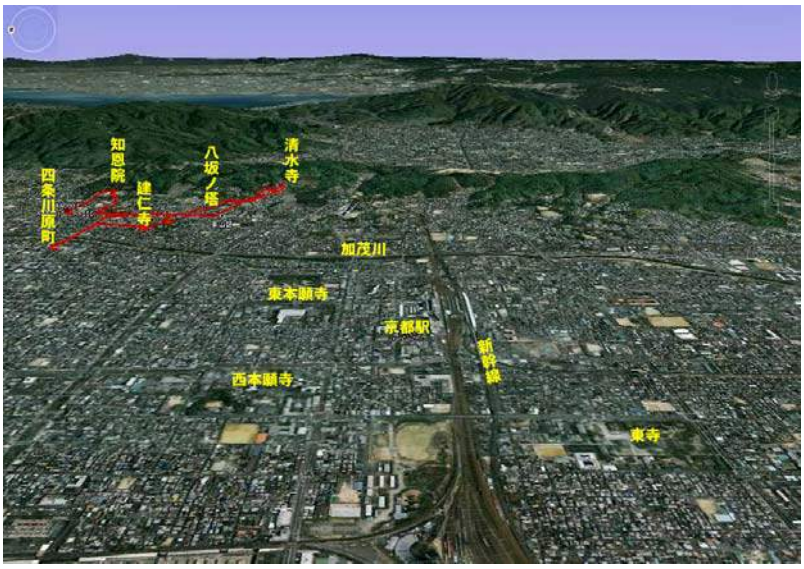
東寺　五重塔

知恩院三門

建仁寺　法堂

清水寺　舞台

1. 東寺の弘法市
   京都の縁日　毎月２１日　京都の人は親しみをこめて「弘法さん」と呼ぶ　東寺の弘法市
   昔とは比べ物にならぬ露天・人の賑わいと聞く。かつては　骨董市・盆栽市に食べ物の露天など
   年寄りがゆったりと露天を覗き、思わぬ掘り出し物を見つける市と思っていましたが・・・・




2. 知恩院の三門と大鐘楼
   京都のお寺の入り口にそびえる山門　天竜寺と知恩院どちらも「三門」と書く。
   なぜ・・・　また、どちらが　大きいのだろうか・・・・
   もうひとつ、除夜の鐘で有名な大鐘楼　どこにあったっけ????　三門前は通るが中は良く知らない。
3. 建仁寺の「竜」
   祇園の街中にあるが、いつ通っても静かな建仁寺ここのお堂にすごい竜の天井画が奉納された。
   製作過程をTVで見たが、その迫力　天井画になって　あの迫力は　どうなっただろうか・・・・
4. 清水寺にある古代東北　蝦夷の首長アテルイ・モレの石碑
   京都で一番東北・そしてやさしさを感じる寺が清水寺。
   その舞台の下に古代東北　蝦夷の首長アテルイ・モレとこの寺の建立者　征夷大将軍坂上田村麻呂の心の交流を示す石碑ある。私は何度も訪れて良く知っているのですが、京都育ちの家内は知らないという

良く知られたお寺で　京都人ならば、「いつもその辺通って、よく知っている」というでしょう。でも　其の中身は・・・・・何度か訪れたことがある。でも、京都育ちの家内も私も話していて、寺の中の様子になるとからっきし　自信がない。
今度　京都に出かけた折に　一度ゆっくり歩いて　東山界隈のお寺の中を歩こうと・・・・・・・・・

2 月 21・22 日　家内の実家のチェックとちょっと用があって　京都へ行く機会に久しぶりに東山界隈のお寺を車じゃなしにWalking しようと。２１日京都の町に入って、いつもは車ばかりが目立つ東寺界隈が露天と人並みで大賑わい。はっと気がついて、「２１日は弘法さん」これはラッキー　今の弘法市を見る良い機会。　家内は和服リフォームの古い着物地の露天を目ざとく見つけて　眼を輝かせている。また、所用を済ませた 22 日　久しぶりに京都東山界隈のお寺をのんびりと門前に立ち並ぶみやげ店に立ち寄って試食したりの行き当たりばったりの街歩き。別に用のない一日　ゆったりと境内を歩き、お寺の木造建築の緻密さ・美しさに見入ったり、お堂に入って仏様や庭やお目当ての天井画を見たり、お坊さんの講話も聞きました。
時間を気にしながらのスピード見学になる車とはちょっと違った感覚のゆったりとした東山界隈の寺散策を楽しみました。

そんな京都東山界隈の知っているようで知らなかったお寺の境内 walk を写真アルバムにまとめました。

## ◎　東寺と弘法市

東寺前

弘法市の賑わい

東寺食堂

東寺（教王護国寺が正式名称）は平安京遷都（延暦１３年・７９４年）の際に正面入り口の羅生門を挟んで延暦１５年（７９６年）に東西に建立された寺院の一つで 、現在は東寺しか現存していない。
寺が本格的に活動を始めたのは、空海が唐より帰朝後、東寺を真言宗の根本道場とし、弘法信仰が広まると共に隆盛したといわれ、弘法大師信仰の強いお寺である。

- ◆ 南大門から一直線に並ぶ伽藍は荘厳で、特に京都駅近くに遠望される五重塔は京都のイメージシンボルになっている。兵火等で創建時の建物は失われたが、現在の伽藍は奈良時代の伝統的な伽藍配置をふまえて、秀頼/家光時代に再建されたもの。多数の国宝、重文を有することで知られており、ことに密教美術の宝庫として有名である。
- ◆ 弘法大師の命日である 3 月 21 日に､東寺の御影堂で行われる御影供の参拝者を目当てに露店が出るようになったのが､「弘法市」の始まり。
  現在では 1200～1300 店を越える露天が境内にぎっしり建ち並び､新旧いろいろな食べ物の店を始め､古道具､古美術､骨董､古着､着物や帯､小物をはじめ､カレンダーや文具アクセサリーなど何でも売られていて､数多くの人でにぎわう。京都の人　誰もが知る一番馴染みの深い縁日である。

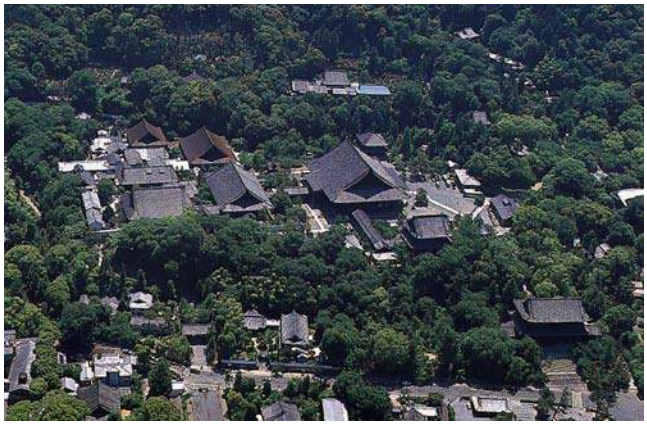
## ◎　知恩院　三門

知恩院三門

知恩院　遠景

知恩院　三門

知恩院は、全国に 7000 余の寺院を擁する浄土宗の総本山。法然上人が浄土宗を開創し、念仏の教えを説いた寺であり、また、建暦二年（1212）入寂した地で、現在高台に法然上人の御廟がある。本殿は御影堂と称し法然上人像を祀る。



- ◆ 境内は 73000 坪を誇り、江戸時代の元和 7 年(1621)に二代将軍徳川家忠が三門を建立。また寛永 16 年(1639)に徳川家光公が御影堂を建立するなどし、現在の寺が形づくられた。
- ◆ 知恩院へ来て、まず対面するのが高　さ 24 メートル、幅 50 メートル、木造の門としては日本最大級の三門（国宝）である。近世初期の建物である三門を始め、経蔵・大方丈・小方丈　　など重要文化財も多い。

## ◎　建仁寺の竜と俵屋宗達「風塵雷神図」

建仁寺方丈

境内

建仁寺　法堂

臨済宗建仁寺派の大本山。1202 年（建仁 2）栄西禅師が建立した京都最初の禅寺で、1586 年（天正 14）ごろ、安国寺恵瓊により再興され、京都五山第 3 位の格式を持った。勅使門（重文）は、銅板葺、切妻造りの四脚門で、扉に矢痕があるところから矢の根門とも呼ばれる。方丈（重文）は、銅板葺、単層入母屋造で、文禄年間（1592-96）に安芸の安国寺から移築したもので、白砂を敷きつめた枯山水庭園がある。

また、建仁寺は俵屋宗達作の最高傑作国宝「風神雷神図」を所蔵し、立派な龍「雲龍図」と「双龍図」がある。

俵屋宗達　国宝　風神雷神図

「雲龍図」は海北友松によって桃山時代に描かれた方丈襖絵で、とても迫力のある襖絵の龍である。

もうひとつの「双龍図」は、平成 14 年（2002 年）創建 800 年を記念して小泉淳作画伯によって　2 年の歳月をかけて描かれた法堂（はっとう）の畳 108 枚分の大天井画。　これもまた大迫力である。

なお、龍は仏の教えをたすける八部衆の一つといわれ、住職が上がって仏法を大衆に説く法堂（はっとう）の天井に数多くの龍 が描かれている。建仁寺法堂は今回天井に竜が描かれるまで、天井画が描かれたことはなかったという

方丈襖絵　海北友松作「雲龍図」

法堂天井画　小泉淳作作「双龍図」

## ◎ 清水寺　古代東北の雄アテルイとモレの碑

清水寺　正面

清水寺　舞台

北天の雄　阿弖流為・母禮之碑

「清水の舞台」で有名な清水寺は７７８年（宝亀９年）延鎮上人により開創され、その後、坂上田村麻呂が帰依し、堂塔伽藍を整備したという。本尊は十一面千手千眼観世音菩薩。

蝦夷征伐の征夷大将軍　坂上田村麻呂坂村麻呂を知っている人は多いが、敵となった蝦夷の首長阿弖流為・母禮の名や阿弖流為・母禮の碑が坂上田村麻呂ゆかりの清水寺にあることを知る人は少ない。

◆ 清水寺の寺伝によると、「木津川の北流に清泉を求めてゆけ」との霊夢を受けた延鎮上人が音羽山麓の滝のほとりで、草庵をむすんで永年練行をしていた行叡居士から観世音菩薩の威神力を祈りこめた霊木を授けられ、その木で千手観音像を彫作し、居士の旧庵にまつったのが清水寺の起こりとされている。
その翌々年、坂之上田村麻呂が妻の安産のために鹿を求めて入山して清水の源をたずねた田村麻呂が、出会った上人から殺生の非を諭され、自らの行いを悔い、鹿を弔らつて下山し、妻室と共に深く観世音に帰依するようになり、清水寺に仏殿を寄進し、ご本尊に十一面千手観音を安置した。
その後、上人は田村麻呂と協力して地蔵尊と毘沙門天とを造像してご本尊の両脇士とし、本堂を広く造りかえ、今の清水寺の元を築いたと伝えられる。
また、現在の清水の舞台は、江戸時代の寛永 10 年（1633 年）に徳川家光の寄進によって再建されたもの。

◆ この舞台の下の崖の縁にアテルイ・モレの石碑（「北天の雄　阿弖流為（あてるい）・母禮（もれ）之碑」）がある。
岩手県奥州市地域を本拠地とした蝦夷（えみし）の首長・阿弖流為（アテルイ）と母禮（モレ）の名前である。
二人は平安朝廷の東北平定政策に対して勇敢に戦ったが、郷土の犠牲に心を痛め、征夷大将軍・坂上田村麻呂の軍門に下りました。将軍は両雄の武勇、器量を惜しみ朝廷に助命嘆願しましたが、許されず処刑された。
石碑は平安建都 1200 年を期して 1994（平成6）年に有志により建立さた。

◆ 山口の童謡詩人金子みすずの詩をモチーフにどこか哀愁を帯びた童子を手がけるなど　そのやさしいまなざしを描く風の画家中島潔氏が 5 年以上の歳月をかけて金子みすずの代表作「大漁」はじめ、襖絵 46 枚を清水寺に奉納した。本年 1 月末大阪でその襖絵 46 枚が襖ごと展覧された展覧会が大阪で開催され、見に出かけたところでした。

八坂ノ塔

知恩院境内　石段上から見る山門

祇園八坂神社石段下

# 京都東山界隈のお寺散策　写真アルバム　　2012. 2.21. & 2.22.

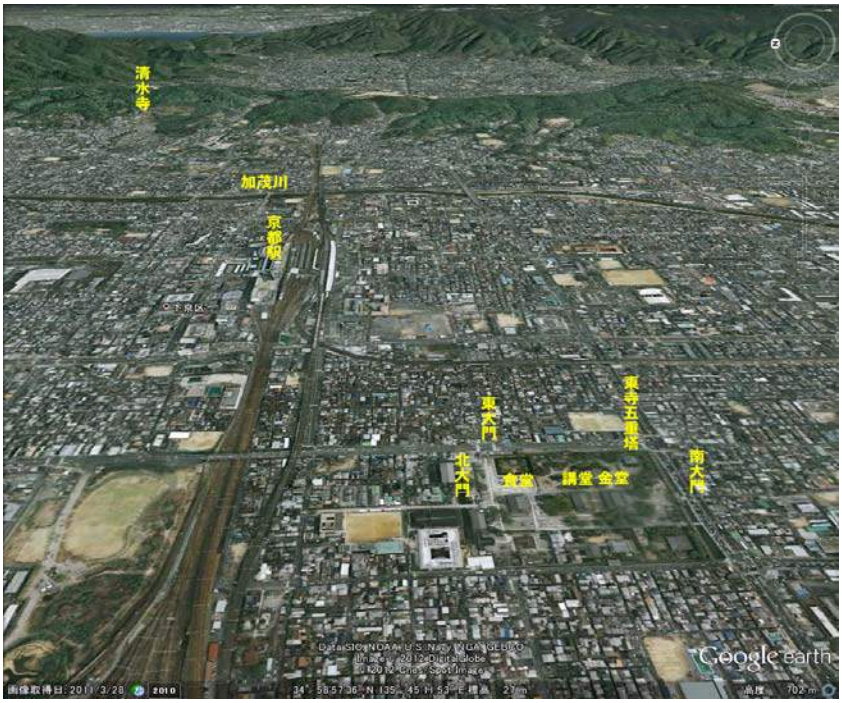
## 東寺の弘法市・知恩院・祇園建仁寺の竜・清水寺

### 1.　東寺の弘法さん　　2012.2.21.

弘法さんへ向かう人の波でぎっしりの東寺正面　　2012.2.21.

東寺　正面　　南大門から金堂前へ　　弘法市の露店　　2012.2.21.

東寺の弘法さんが、こんなに人で一杯になっているとはびっくり。また、立ち並ぶ露店も境内の中はもとより、東寺正面から東門にかけての塀に沿う歩道そして北門の参道にもびっしりで、1000 を超える店の数だという。




家内は「弘法さんへは　小さい頃　盆栽を買いによう母に連れてきてもらった」と言い、家内が二つ返事で飛び込んだお目当ては和服リフォームに使う古い着物地を手に入れること。

一方　私は目的なしの野次馬ですが、　もう季節的にしまいになるスグキを樽から出して売る洛北の農家(漬物屋)を見つけて思わず飛びつきました。

また、「新品やで　わしが作った帽子や」と言うので、安い帽子もひとつ。　「おっちゃん　うまいこと作るなぁ・・・・」というと「わしはプロや。　みんな帽子の問屋へ持っていくやつや」と。バザーか骨董市のイメージで話かけると、弘法市はプロが出している常連店が多い。

家内もリフォーム用の反物をかかえてご満悦。こんだけあれば　作り出があるなぁと・・・・。

本当に弘法さんに来たのは何十年ぶりかですが、病み付きになりそう。「次　また京都に来るときは 21 日にしょう」と。

正面金堂前　　2012. 2. 21.

金堂の西側から十一面観音の札所 食堂への参道で

和服の古着や着物地　そして　和服をリフォームした洋服・小物を売る露天のなんと多いこと　さすが京都

家内もそうですが、和服のリフォーム　ブーム

食堂・北門周辺で

東大門から北大門・食堂への参道で

たい焼

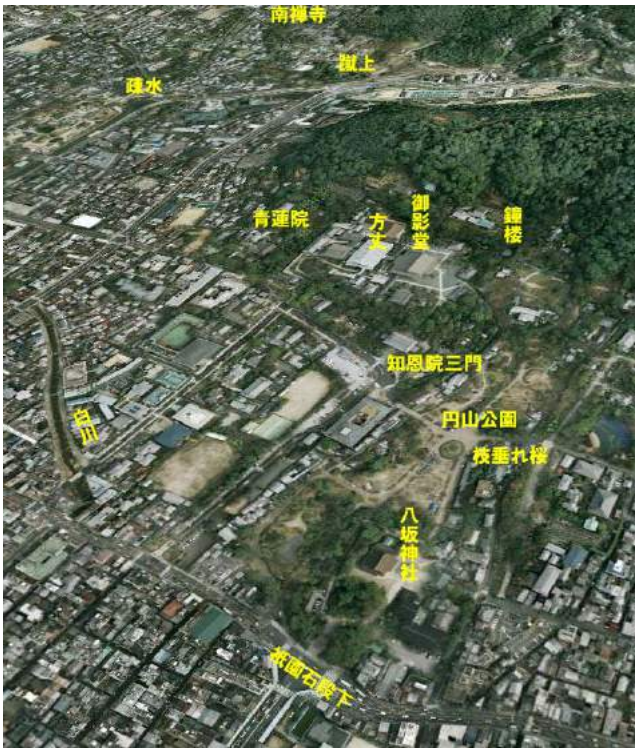
## 2.　知恩院の三門と鐘楼　　2012. 2. 22.

知恩院　三門

除夜の鐘で知られる知恩院　大鐘楼

知っているようで　しっかりとは見ていない知恩院　　京都の人は愛着を込めて「知恩院さん」と呼ぶ

東大路通りの祇園石段下から100m ほど北側からまっすぐ東山へ向かって緩やかな坂道を上ってゆけば、正面に大きな知恩院の三門。坂を南に下れば、円山公園から八坂神社である。三門の向こうには東山の西斜面山腹に広い境内があり、一番奥に除夜のどでかい鐘で有名な知恩院の鐘楼がある。




「 知恩院さんと南禅寺　三門はとどちらが大きいやろか???
　知恩院は三門と書く。南禅寺は山門 or 三門どっちだろう???
　鐘楼はどこにあったっけ??
　そういえば知恩院の三門　写真では奥に急な階段が写っているが、記憶ないなぁ」等々。
　話していると知っているようで　知らないのである。

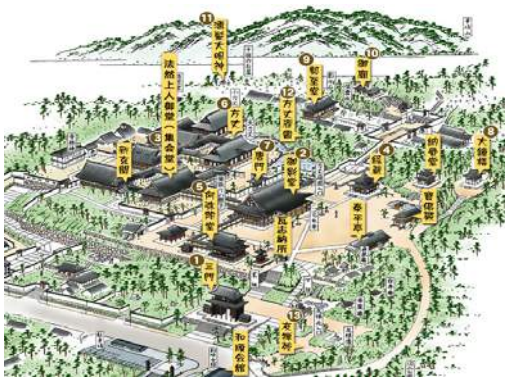
南禅寺三門　高さ約22m　知恩院三門は高さ約24m
三門とは　空門・無相門・無願門の三境地を経て仏国土に至る門、三解脱門を表すとされ、初期の寺院の門構えは南面する正門、東西二つの副門から構成されており、これを称して三門と呼んだという。
時代が下ると左右に脇門が付属する大門の形となり、さらに大門のみとなったが、三門の呼び方は残ったとされる。　また、南禅寺も三門と呼ぶそうである。

境内では今　御影堂や方丈など主要建物の屋根の吹替え修理など大掛かりな足場が組まれ、境内の整備中でしたが、暇に任せて　知恩院の境内の奥鐘楼まで登って　祇園石段下へゆっくり歩きました。

三門から急な階段を登った上に主要建物がある。その中心が元祖法然上人の御影をまつる御影堂。今修理中ですっぽり塀で囲まれていました。そして　山すそ奥に鐘楼がありました。

下の三門と御影堂など知恩院の主要建物がある上段境内を結ぶ急な階段

鐘楼へ登る道から見た左　経堂　右奥　御影堂



除夜の鐘で有名な知恩院の大鐘楼

知恩院に隣接した梅林では花が咲き出していました

知恩院の境内から三門へ降りて　そこから　円山公園を通り抜けて八坂神社へ
円山公園の今年の枝垂れ桜はどうだろうか・・・・・
まだ　枝には花芽がよくわからない。これからだ。
「今年も綺麗な花をつけてくれよ」と声をかけて　八坂神社の境内へ境内へ下ってゆく。
花はまだこれからである。

円山公園の枝垂れ桜
まだまだこれから　今年はどんな花を咲かせるだろうか･･･

祇園石段下

八坂神社

## 3. 建仁寺　龍の天井画

祇園のど真ん中にある建仁寺 長いこと行かないなぁ。京都五山に数えられる禅寺で、周りの喧騒から隔絶された静かな寺で、ここに 2 年の歳月をかけて描かれた天井画がある。その製作過程がテレビで放映され、その労苦と出来栄えに是非とも見たかった天井画。薄暗い天井に浮かび上がる龍。凄い迫力にでした。

建仁寺法堂の天井画　　小泉淳作作「双龍図」

もうひとつこの寺には有名な国宝第一号　俵屋宗達の「風塵雷神図」がある。
龍の迫力もさることながら、俵屋宗達の屏風を前に語ってくれた建仁寺のお坊さんの講和にいたく感銘を受けましたので、ご紹介。

俵屋宗達の国宝「風神雷神図」には宗達の署名印がないと言う。
　禅宗の「禅」の心とは　見返りを求めぬ心にあると言う。
　俵屋宗達も　禅の心を知り、自分の描いた絵に自分を求めず
　署名印を押さなかったという。

禅宗には　「死はない」と言う。
「　50 生　人間の一生 50 生で　まためぐり合うと言う。
　したがって､今日出会った人も 15000 年前からの繋がり。
　お帰りなさいと言う。
　今回の東日本大震災で　数多くの人が旅立っていったが、
　いつの日にか　めぐり合える。
　また、新しく生まれた赤ちゃんに
　お帰りなさい　めぐり合えましたね　」と声をかけ、喜びにかえると言う

方丈襖絵　海北友松作「雲龍図」

建仁寺法堂の天井画　　小泉淳作作「双龍図」

お茶屋など古い京都　祇園の風情が色濃く残る建仁寺から花見小路への道　祇園界隈

## 4. 清水寺　古代 東北の雄 アテルイとモレの碑

清水寺　正面

清水寺　舞台

北天の雄　阿弖流為・母禮之碑

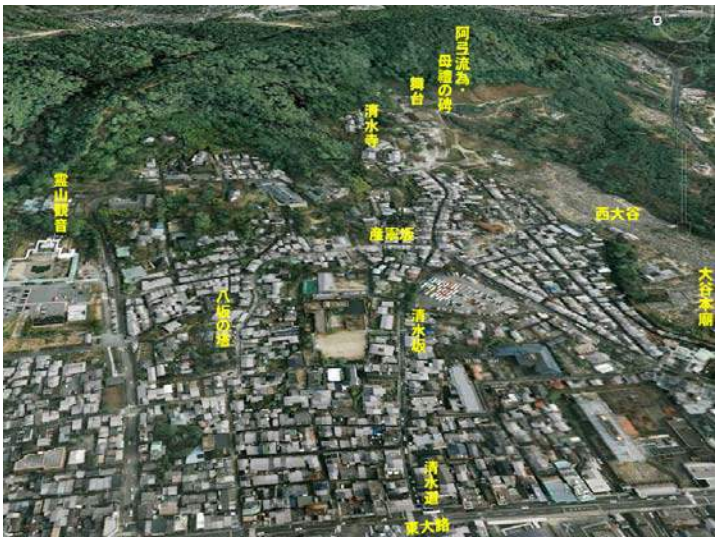
「 あの高嶺 鬼すむ誇り　その瀬音 久遠の賛歌
この大地 燃えたついのち　ここは 北上
－ 北上市市民憲章より 」

東北の人達は自分達のルーツとして　蝦夷の首長 阿弖流為に強い愛着と親しみを持っている。
関西にいて東北を一番感じさせてくれる寺が清水寺。
私は　この阿弖流為・東北が好きで　京都へゆくと、時折　ぶらっと この清水寺を訪ねます。

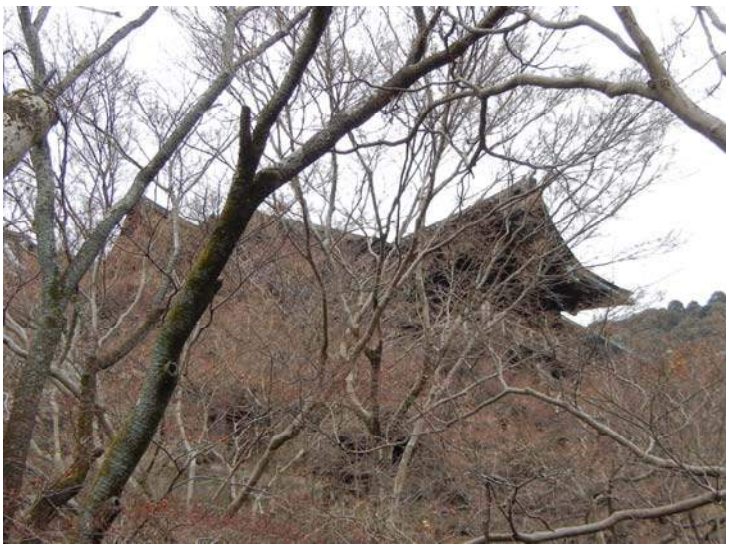
清水寺は蝦夷征伐の大将軍　坂上田村麻呂ゆかりの寺で、敵となった蝦夷の首長阿弖流為・母禮　両雄の武勇、器量を惜しみ、朝廷に助命嘆願。しかし、許されず処刑されてしまった。この阿弖流為・母禮の碑が清水寺の舞台のすぐ下の崖縁の小さな広場に建っている。
昨年は東日本大震災が起こり、東北の人達の心のよりどころとしてこの「あの高嶺 鬼すむ誇り　その瀬音 久遠の賛歌　この大地 燃えたついのち」を意識していました。また、金子みすずの詩やこの金子みすずの詩をモチーフにちょっとさびしげな顔をしてたたずむ子ども達を数多く描く風の画家 中島潔氏の絵にも同じような親しみを感じています。

その中島潔氏がみすずの代表作「大漁」さらに 5 年の歳月をかけて制作された襖絵 46 面を清水寺（成就院）に奉納され、今年 1 月大阪でそれらを展覧する中島潔「生命の無常と輝き」展が大阪で開催され、見ることが出来ました。
自分の抱く清水寺のイメージにぴったりで、ひとり喜んでいます。

そんなことで、最近　家内ともこの東北のアテルイ・金子みすずなどを話題にすることが、多く、
京都へ今度行く機会に清水寺の阿弖流為・母禮の碑をぜひみたいという。



清水の舞台を清水寺の奥院への道から眺める



清水の舞台の下の小道にある阿弖流為・母禮の碑

清水の舞台の下を谷に面して道がつづく、この道の脇に阿弖流為・母禮の碑がある　写真右中央

風の画家 中島潔が描く「生命の無常と輝き」展

京都・清水寺成就院に奉納 襖絵全46点集結

# 郷愁誘う未来の古典

「風の画家 中島潔が描く『生命の無常と輝き』」展が2月1日、大阪市中央区の大阪高島屋7階グランドホールで開幕する。人気画家、中島潔さん(68)＝写真＝による日本画など約100点。中でも5年の歳月をかけ、2010年に京都・清水寺成就院に奉納した襖絵全46点（面）は、壮大なスケールと細密な筆で三つの世界を描き出し、圧巻の出来栄えを示す。【渡辺亮一】

中世の昔から、名刹の障壁画（襖絵、天井画など）を手がけることは、絵師にとって栄達を意味した。それらの仕事から、狩野永徳「花鳥図襖」（京都・大徳寺聚光院）のように、日本美術史に残る傑作が生まれた。

格式ある寺を飾る絵は、当代一流の日本画家が描く。その原則は現代も崩れていない。故・東山魁夷は奈良・唐招提寺の障壁画を、故・加山又造は京都・天龍寺の天井画を任せられた。そういう意味では、正規の日本画教育を受けていない中島さんが清水寺の襖絵に挑み、老若男女に訴求する作を完成させたのは、画期的なニュースと言ってよい。

中島さんは高校卒業後、肉体労働をしながら独学で絵を学んだ。郷愁を誘い、風の気配を感じさせる画風で抜群の人気を誇る。「40年以上にわたるキャリアの集大成。すべての思いを込めた」（中島さん）のが成就院の襖絵。「かぐや姫」▽「風の故郷（春・初夏・夏・秋・冬）」▽「大漁」――という三つの画題から成る。このうちの「風の故郷」には、画家が子供時代に見た古里・佐賀の風景が織り込まれている。春「花別れ」、初夏「にわか雨」、夏「向日葵」、秋「紅葉」、冬「雪の音」。季節の移ろいの中に、人生の無常、哀楽、生命の輝き、絆、愛など、さまざまなキーワードを溶け込ませ、深遠な宇宙を現出させている。

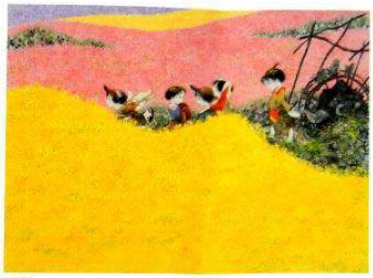
「にわか雨」は琳派の装飾美と、余白の美を対比、同居させた意欲作。「表現したかったのは怖さや恐れ。自然など、さまざまなもの（こと）に対する怖さがないと人は暴走してしまう。怖さを知ることで、人は人のありがたさや、自然の恵みが分かる気がします」

「大漁」は童謡詩人、金子みすゞの同名の詩を絵画化したもの。無数のイワシが8枚の襖を埋め尽くす。めでたい題だが、一人立ち尽くす少女の表情は悲しみに満ちている。イワシにとって大漁は死を意味するからだ。イワシの目は白銀色に統一されている。「月の光が反射しているイメージです。死、別れは次へのステップ。イワシたちが月に帰ってほしいという思いを込めました」（中島さん）。

「かぐや姫」とも呼応する世界が広がっている。画家の代表作にして、後世、古典になる可能性を秘めた襖絵は一見の価値がある。

毎日新聞　2012年1月31日（火）夕刊より

清水寺成就院襖絵「大漁」



「花かずら」

「白梅」

— "Inochi no Mujo to Kagayaki"　Fusuma paintings Arts by Nakashima Kiyoshi　Jojuin, Kiyomizu-dera Temple, Kyoto —

京都 清水寺 成就院奉納襖絵

## 風の画家 中島潔が描く「生命の無常と輝き」展

"風の画家"と呼ばれる中島潔の作品は、NHKの番組「みんなのうた」に取り上げられたのをきっかけに、多くの人々に親しまれてきました。「こどもの感性を常に持ち続けること、それが私の絵描きとしての原点です」と語る中島潔の絵の中には、小さいいのちの輝きがいつも風のように流れています。母の死をきっかけに、18歳でふるさと佐賀を飛び出し、温泉掘りや印刷所、広告会社などではたらきながら絵を描き続けてきた中島潔。28歳（1971年）で単身パリに渡り、画家になる決心をしてから、今年で41年になります。2010年には、5年の歳月をかけて描きあげた、集大成ともいえる清水寺成就院の襖絵を完成させました。46面に及ぶ作品からは、これまでの歩みをさらに進め、新たなる画境へと向かう強い思いを感じ取ることができます。本展では、清水寺成就院の襖絵と41年にわたる代表作を合わせ約100点を展示し、中島潔の優しく切ない独自の世界をご紹介します。

「明るい方へ」

「峰」

「背ちょうけ」

［中島潔画伯サイン会開催］

◎2月1日(水)午後2時

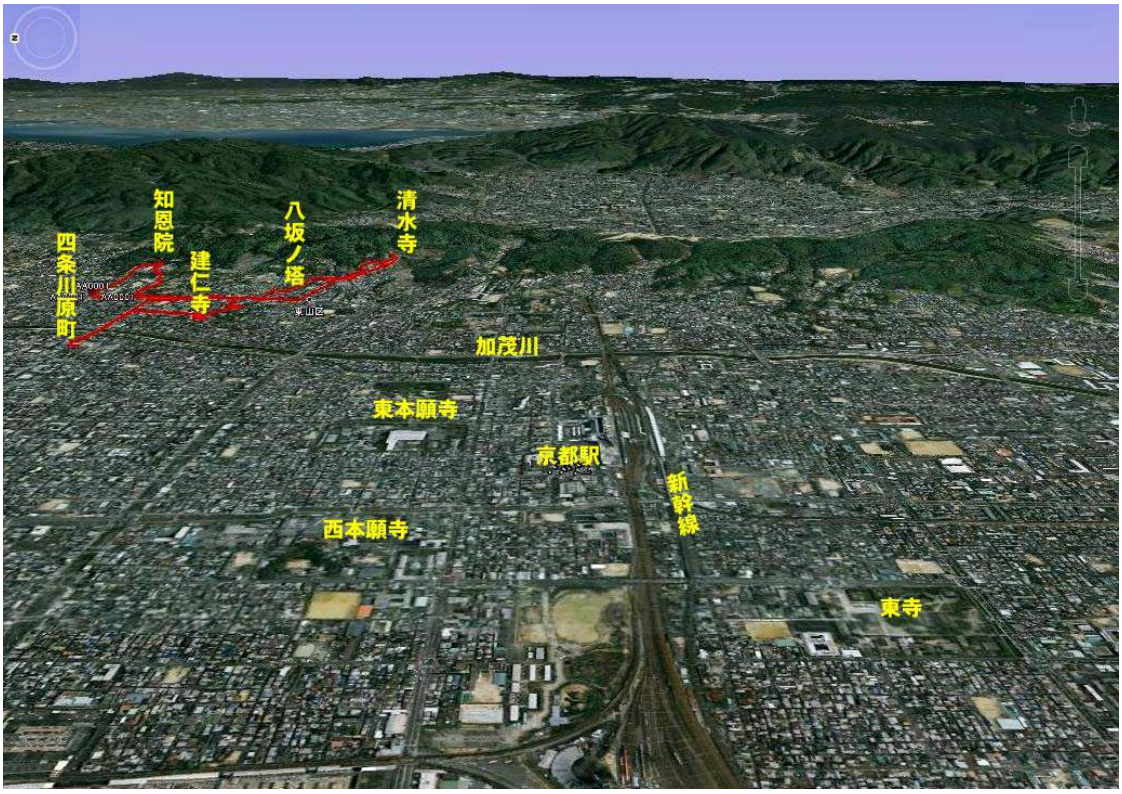
◎7階グランドホール特設コーナー

※関連書籍、額絵などお買上げのお客様先着70名様限り。※詳細は売場係員におたずねください。

Takashimaya OSAKA

www.takashimaya.co.jp

清水寺の門前から北へ産寧坂を下って行くと八坂の塔が見えてくる



# 3. 2012 年　春の便り　　各地の仲間から貰った春便り

菜の花満開の西神戸運動公園の丘で　一番下の孫もこんなに元気　一つになりました　　2012.3.24.

3 月も続いた寒さの中　遅れていた春もやっと確かなものに

神戸では　イカナゴ漁が最盛期　もう「くぎ煮」も終わって　ほっと一息　最近は　近畿一円でイカナゴのくぎ煮ブームだとか・・

梅も満開を迎え、庭先にも春の花が咲き出しました。

寒さもなんのその　今年は高校卒業 50 年　100 名を越える同窓生が元気に集まり、飲んで食べて歌って　若かりし頃を思い出しながら、故郷を楽しみました。 3 人の孫　一番上の孫がこの 4 月中学生　二人目が小学校 2 年　そして一番下が　よちよち歩きを始めました。 風邪引いた　登校いややややなど　色々ありましたが、毎日のように電話や訪ねてくれるのがうれしい春の訪れです。

各地からいただいた便りとともに 2012 年春の訪れのスナップをお知らせします

2012.3.25.　神戸より　by Mutsu Nakanishi

春の息吹き　西神戸神出　雌岡山

東播磨　太中弥生遺跡の梅

母校の同窓会　尼崎で

明石海峡の春を彩るイカナゴ漁

春の梅　須磨網敷天満宮で

アスリートの歓声が聞こえる西神戸運動公園の丘では菜の花満開になりました　　2012.3.24.

【神戸の自宅周辺も春の景色がどんどん変化しています　2012.3.30.】

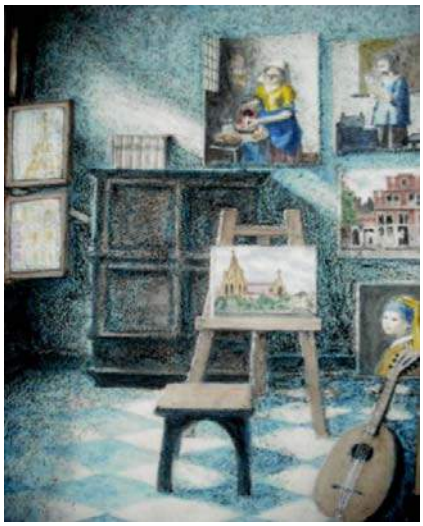
山は春色　これからどんどん変化してゆく　耳を澄ますと谷のせせらぎの音　ウグイスの鳴き声も
自宅横の若草山から　2012.3.30.

ピンクの桜草が咲きだしたのを皮切りに　庭先に一斉に春の草花が咲きだしました　2012.3.30.
遅れていた水仙も　また　毎年たのしみなツタンカーメンのマメの花も
左下の春のハクボク画は孫娘がhome pageにと描いてくれました。掲載料もバッチリ持って帰りましたが・・
この孫娘も　この春　中学生　本当に早いものです

西神戸　性海寺奥の山裾の畦にある秘密の土筆の群生地　遅れていた土筆が　今年もあっという間に両手に一杯　2012.3.28.
私は食さないのですが、家内の春一番の好物で　ここは取って置きの場所です

西神戸　雌岡山　南東山腹にある梅林で　梅と一緒に足元には黄色のタンポポがさいていました　2012.3.28.

## ◎ 西宮 H.S さんからの便り　3 月 9 日



フェルメール（イーゼルに夙川の教会と遠くに甲山）とノーマン・ロックウェル（床に甲山大師の山門と階段）のパロディにしたものをいたずら描きしました。

## ◎ 神奈川県秦野 T. S. さんからの便り　3 月 12 日

自宅前の丹沢山塊は今年は本当に雪化粧が多くて
又　その丹沢降しなる冷たい風の所為で　この秦野の
地も朝晩の冷え込みは半端では有りませんが
季節は正直と見えまして　昨日　近所でフキノトウが出
ているのを見つけまして　寒さの中にも春は近いな～と
感じ取りました。

## ◎ 横浜 M.K さんから 横浜 三渓園の梅便り　3 月 15 日

今年は梅の開花も遅く、横浜も昨日で７～８分咲きでした。

横浜　三渓園の梅　　2012. 3. 15.

## ◎ 神戸 H.O さんより　3 月 20 日　動画「花の命」 Click : La vida de las flores

みなさんこんにちは、久しぶりに遊び心の写真動画「花の命」が送られてきましたので転送させてもらいます。

EACH FLOWER IS FILMED FOR TWO DAYS AND PHOTOS ARE COLLATED　WITHIN 7 MINUTES TO GET THIS EFFECT

それぞれの花は二日間　7 分以内でコマ撮り撮影して合成

## ◎　マーレシア　ベナン　T.S さんからの便り　　3 月 23 日

日本は、これから素晴らしい季節になりますね、充分楽しんで下さい。
南国ペナンには、春秋冬がなく、一年中夏ですので、
季節感がありません。
添付のペナンを御覧下さい。
世界は広い。
世界遺産の街のペナンは極楽の都市。遊びに来て下さい、大歓迎
〔ペナン島:　人口　約 70 万人
　マレー人 40％ 中国人 40％ インド人 10％　西洋人他 10％〕
　　メール交換を続けている美祢の仕事仲間　T.S さん
「ペナンも世界遺産　随分街もかわったでしょう　写真送って」のリクエストに
　　ペナンの紹介写真を送ってもらいました。
　　昔よく行った夜店屋台の熱気と南国の果物の数々が　頭にありありと ガルーパがないなぁ・・・と
　　久しぶりに見るペナンの街　懐かしい写真の数々に本当にサンキューです。

貿易の中継点として重要な役割を果たし、イギリス植民地の面影と多民族・多文化社会が残されている事が評価され、世界遺産に登録

リゾートの海岸

リゾートのホテル

ペナンヒル(720 ) ロープウェイ

パヤ島 :ペナンからフェリー1.5hr

イスラム教寺院・モスク

キリスト教 セント・ジョージ教会

インド人のヒンズー教寺院

極楽寺:春節寺の灯篭

寝釈迦寺

中国人の寺

インド人街

フォート・コンウォーリス砦

1885 年創立 Eastern & Oriental Hotel

釈迦の日の花車

7 月日本人会盆踊り 3 万人位

インド人の祭 : タイプーサン

**大東酒楼の飲茶 毎週の土か日曜日の朝に、奥さんと二人で飲茶を食べに行きます** 2011. 3. 20. のメールより

街の大東酒楼の飲茶 2011. 3. 20. のメールより

フォッカーセンター：安い食事所

夜 店

Suckling Pig 子豚の丸焼き

ドリアン

マンゴースチン

ランブータン

ライチ

4. 【スライド動画】　神戸桜 Walk 2012　神戸にも素晴らしい一本桜がありました　2012.4.10 .

神戸の基礎を築いた平清盛の都　福原京を見下ろす一本桜

# 奥平野浄水場•水の科学館「奥平野の舞い桜」

2012.5.5.　1205hirano00.htm　by Mutsu Nakanishi

神戸　清盛の福原京を見下ろす奥平野浄水場・水の科学館にある一本桜「奥平野　舞桜」　2012.4.10.

神戸は今　平清盛ブームに沸くというが　ちょっといまいち。でも、清盛の福原京があった平野には街全体に赤い旗が翻る。その山裾の丘の上に「神戸の市街地・平野の街を見下ろす素晴らしい一本桜がある」と聞いて、今年は　この神戸の一本桜「奥平野舞桜」を見に行こうと楽しみで満開になるのを待ちかねて訪ねました。また、ゆっくりと歩くことのなかった清盛の都「福原京」平野の街。舞桜の見学とあわせ、雪御所のあった天王川沿いや祇園神社など福原京ゆかりの地を walk。スライドアルバムに整理しましたので、神戸 2012　桜 Walk をごらんください。

この春 清盛の都　福原京が眠る平野の街は桜の花に包まれていました　2012.4.10.

神戸の市街地に連なる六甲連山の山裾　いつも　良く通る道筋の高台に、浄水場・水の科学館があり、桜が美しいと聞いていたのですが、入ったことがありませんでしたが、今が盛り　元気一杯放射状に満開の花をつけた枝を広げ、バランスの良い素晴らしい姿をした一本桜　まさに「舞桜」添え木もなく、今が盛りの姿にもほれぼれでした。

また、平野の街には　清盛の痕跡はほとんど何も残っていないのですが、清盛の邸宅「雪御所」があった天王川の堤など、平野の街も満開の桜に包まれて愉しい桜Walk を楽しみました。

清盛が改修し、今日の神戸隆盛の基礎となった大輪田泊(現在の兵庫の港)そして、福原京も正確な位置はよくわかって居らず、今も発掘調査がつづいていて、そのうちに　ベールをぬぐ時が来るでしょう。

2012.4.10.　by Mutsu Nakanishi

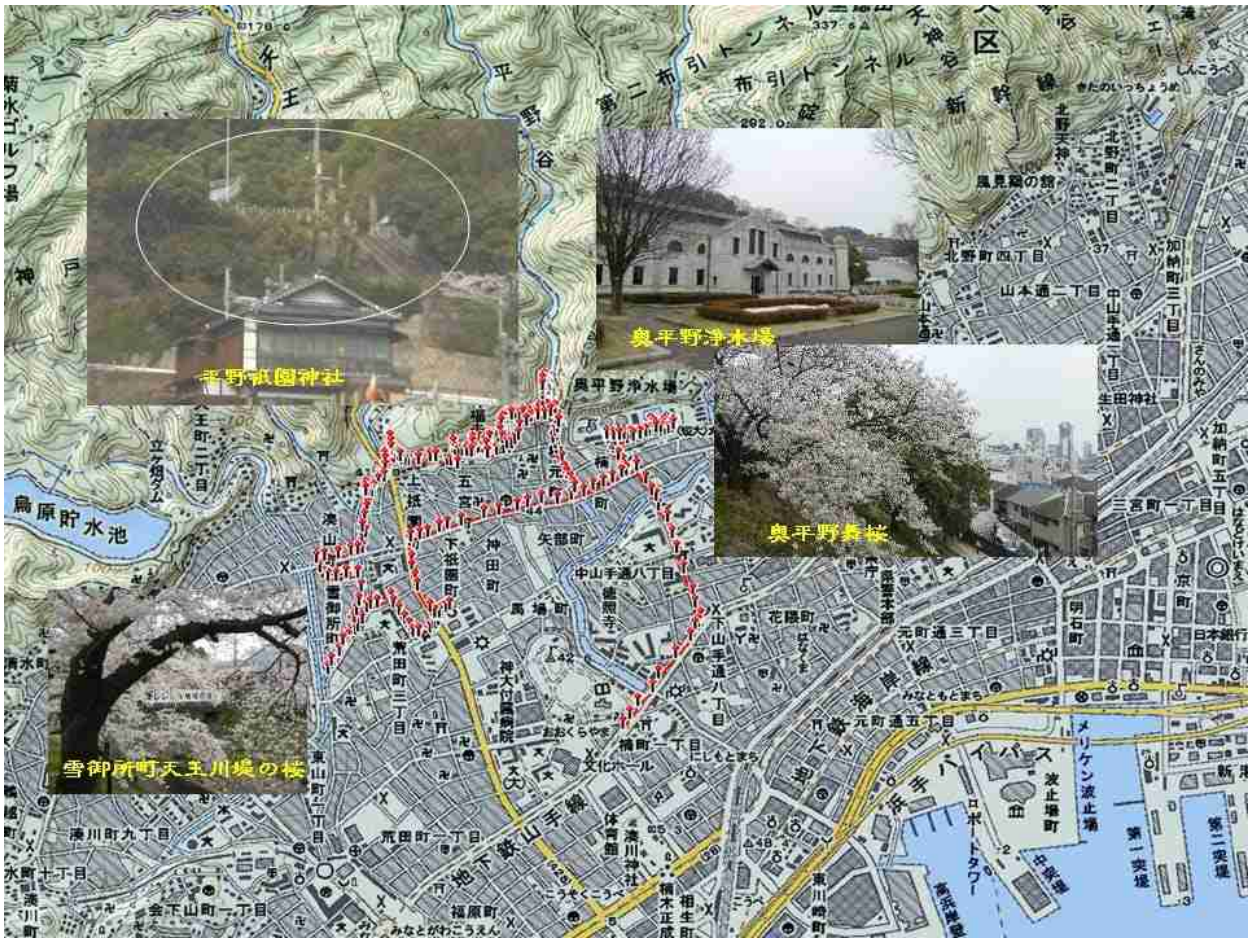
清盛の福原京　平野の街をすっぽり包み込む桜　　2012.4.10.

奥平野浄水場の広場から　神戸の街を見下ろして立つ奥平野舞桜　　2012.4.10.

今回は　清盛が改築した大輪田泊へは行かなかったのですが、また　神戸発展の基礎となった兵庫の港。
この歴史を是非紹介したいのですが、別途又の機会に。
なお、この兵庫の港界隈の景色については下記資料に記していますのでご参考まで

**【大輪田の泊 参考　】**「和鉄の道・Iron Road」【鉄のモニュメント】
「浮きドック」・神戸兵庫の港界隈 walk　2011.9.15.
http://www.infokkkna.com/ironroad/2011htm/2011iron/11iron11.pdf

新神戸駅
奥平野浄水場
祇園神社
雪御所跡
三宮
県庁
兵庫県
神戸
平野
祇園遺跡・
雪御所遺跡
福原京推定地
兵庫区
神戸駅
大輪田泊
推定地
兵庫港
和田岬
神戸は今　神戸の基礎を築いた　平清盛ブーム
その清盛の福原京があった平野の山裾の丘の上に
平野の街を見下ろす一本桜があると聞く。
神戸の一本桜「奥平野舞桜」を訪ねました。
また、雪御所のあった天王川沿いや祇園神社など
福原京ゆかりの地をwalk　2012.4.10.

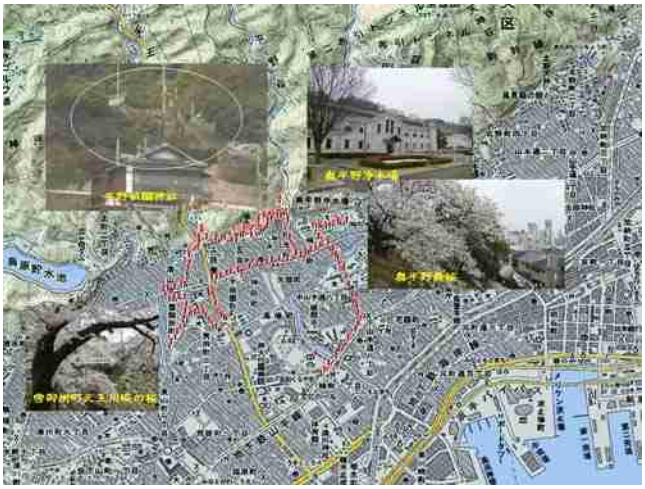

平野祇園神社
奥平野浄水場
奥平野舞桜
雪御所町天王川堤の桜
烏原貯水池
奥平野浄水場
神戸電鉄
山陽電鉄
メリケン波止場
ポートタワー
第一突堤
第二突堤

# 神戸にも素晴らしい一本桜がありました　神戸桜 Walk2012

神戸の基礎を築いた平清盛の福原京を見下ろす一本桜

奥平野貯水池・水の科学館「奥平野 舞桜」　2012. 4. 10.

この春 清盛の都　福原京が眠る平野の街は桜の花に包まれていました　2012. 4. 10.



神戸市街地の山すそを平野の交差点から東へ北野まで続く山本通りを約800mまど東へ歩いた左手　横谷町の山裾の丘の上に神戸水道の浄水・配水の要　奥平野浄水場・水の科学館がある。神戸の市民に親しまれている桜の名所でもある。

東西に広がる諸施設・建物の南側　市街地を一望できる広場の南端の垣に沿って並ぶ桜の中に　ひときわ大きく姿の美しい桜「奥平野の舞桜」がある。

奥平野浄水場入り口周辺

奥平野浄水場内にある水の科学館　2012. 4. 10.

奥平野 昇桜に出会いました　2012. 4. 10.

奥平野　舞桜　2012. 4. 10.

奥平野貯水池より　兵庫の彼方面の遠望　2012. 4. 10.

奥平野　舞桜　斜面の下から見上げる　実に美しいバランスの取れた姿　2012. 4. 10.

奥平野　舞桜　斜面の下から見上げる　2012. 4. 10.

奥平野　舞桜　斜面の下から見上げる　2012. 4. 10.

奥平野浄水場の上方の山から眺める　2012. 4. 10.

奥平野浄水場の[illegible]りロの向こうに神戸の町並み　2012. 4. 10.

奥平野浄水場の入口へ降りる桜並木　2012. 4. 10.

## 【福原京】ふくはらきょう

平安時代末のわずかな期間、現在の神戸市兵庫区に置かれていた都。
平清盛は、1180年6月にこの地へ遷都したが、実質的な都の造営はおこなわれず、同年11月に再び京都へ戻った。
1183年に平氏が都落ちした際、福原は焼き払われた。

雪見の御所石碑

平野の交差点から西へ200mほど、商店が並ぶ通りを歩くと湊山小学校がある。その一角に、「雪の御所」という石碑が建つ。
かつてこの付近では瓦などが見つかっていて、清盛が住んだ雪の御所があった場所だと言われている。

荒田八幡神社

神戸大学病院の正面あたりで有馬道から西へ折れると、荒田八幡神社がある。 神社の境内だけが、まわりの家々より3mばかり高く、周囲は石垣に囲まれている。ここが平清盛の異母弟、平頼盛の山荘があったとされる場所である。
神社の横は公園になっていて、山荘をうかがわせるものは何もないけれど、かつてはこのあたりで笠懸流鏑馬がおこなわれたと記され、相当広い屋敷であったことだろう。

平野祇園神社

荒田八幡神社から有馬道を北へたどると、間もなく六甲山の山すそである。ここが平野の交差点で、そこからさらに登ったところに、平野祇園神社がある。社伝によるとこの神社は、9世紀に姫路の広峰神社から、京都の八坂神社へ分霊する途中、その神輿が泊まった場所に建てられたという。
急な階段を上り詰めた境内からは、尾根の間に切り取られた町並みと、その先の海が見える。
平清盛は大和田泊を修築する前、この神社の裏山にあった潮音山上伽寺で、潮騒を聞きながら構想を練ったという。

平野商店街　平野文差点の東側　2012. 4. 10
平野の商店街には源氏の旗が飾り付けられている

平野商店街　平野文差点　2012. 4. 10
平野の商店街には源氏の旗が飾り付けられている

有馬街道　平野文差点　2012. 4. 10
この周辺一体に平家一門の邸宅が立ち並んでいたという

平野商店街　平野文差点の西　天王川にかかる橋　2012. 4. 10

有馬街道　平野文差点から南にさがた地点　2012. 4. 10

**平氏一門の邸宅が並んでいた平野交差点周辺　　2012. 4. 10.**

左手工事現場周辺が平家に関係する邸宅跡が出土した祇園遺跡第14次調査地点で
交差点のところの壁にには　現地調査説明資料が掲示されていました。

# 祇園遺跡第14次調査

20111103
祇園遺跡現地説明会資料
神戸市教育委員会　文化財課

**はじめに**

今から840年ほど前の治承4(1180)年、『山槐記』という貴族の日記に、平清盛について「近年摂州平野の勝地を占め、遁世退老の幽居となす」と書かれています。

摂州平野とは、摂津国八部郡平野、現在の神戸市兵庫区上祇園町周辺のことをさしていると考えられます。清盛はこの「平野」に築いた屋敷から、都の政治への指令をだす一方、すぐ南に位置する宋（中国）との貿易の拠点である大輪田泊の経営に力を注いだとされています。

このように生み出された都市は、やがて清盛による遷都、新京「福原京」（和田京）建設計画へと続いていきます。

祇園遺跡位置図

祇園遺跡は、この「平野」の地にひろがる遺跡で、まさに「福原京」の中枢部にあたる場所といえます。

**祇園遺跡について**

祇園遺跡は、六甲山系から注ぎ込む天王谷川によって形成された扇状地の頂部に位置しています。

平成６年度に実施した第２次調査と、その後の第５次調査において、12世紀後半から末頃にかけての貴族の邸宅に伴うと推定される庭園遺構が発見され、注目を集めました。出土した多量の土器や瓦は、京都で使われていたものも含まれていました。さらに、日宋貿易を物語る陶磁器も見つかっています。

祇園遺跡の南に拡がる楠・荒田町遺跡では、神戸大学医学部附属病院構内において、平安時代後半の大規模な二重壕が見つかっており、これも平家関連の遺構と考えられています。さらに同時代の建物や溝の跡なども確認しています。

第14次調査地点位置図（1/5,000）

## 【参考】福原京発掘

丘陵裾のこのあたり一帯に、平家に関係する建物群が広がっていたと考えられます。

**調査概要**

発掘調査によって、弥生時代中・後期の竪穴建物、平安時代後期の掘立柱建物およびこれに伴うと考えられる柵列、井戸、溝などが見つかりました。

平安時代の建物群は、柱を直接地面に埋め込む構造で、掘立柱建物と呼んでいます。調査区内で、３棟を確認しました。

建物1の規模は、南北５間（10.7m）、東西３間（6.0m）以上です。その西側に並ぶ建物2は、南北４間（8.6m）、東西５間（11.8m）で東側に半間の庇（ひさし）もしくは縁（えん）が付きます。その北側の建物3は南北３間（5.8m）、東西４間（8.4m）以上です。

柵列は、南北方向の11.1mで、建物1と建物2の間を区切っています。

これらの建物と柵列は、おそらく同時に存在していたものと考えられます。

井戸は２基見つかっており、ともに上部は壊されて井戸枠などが抜きとられています。井戸1の掘形は直径約３mほどで、廃棄するときの祭祀に使用した大量の土器類が出土しました。それらの多くは土師器の皿や瓦器の椀・皿ですが、白磁の碗や合子、烏帽子の破片なども含まれていました。

また、井戸2の掘形は直径２mほどで、こちらは大きな石を大量に入れて埋め戻しています。焼けた石材や、建物の礎石も含まれています。

建物2と3は、ともに井戸を埋め立てた上に建てられています。

調査区の一番南の端でみつかった区画溝1は幅0.8～1.0m、深さ0.4mほどで、断面形がU字形で、珍しい白磁の水注や土師器の皿、須恵器の甕、瓦器の椀などが出土しました。この溝は、邸宅内の区画溝と考えられます。

弥生時代中・後期の竪穴建物は、現在5棟を確認しています。なかでも調査区の南端にある竪穴建物1は直径８mと比較的大型で、炭化材や焼土がみられることから、火災にあって焼失したものと考えられます。

**今回の調査成果**

今回の調査で見つかった平安時代後期の遺構は、12世紀後半から12世紀末に属するもので、福原遷都前後の時期に限定されています。また遺構はすべて一軒の邸宅に伴うものと考えられます。

建物建設以前の井戸内から出土した土器などの内容を見ると、この地域の有力者のものであったと考えられます。その井戸を埋めて建てられた建物や溝は、方位をそろえています。

このことから、当地域が12世紀後半に都市計画がなされ、さらに北120mで見つかっている園池や遺物との関係から、今回見つかった邸宅は、平家に関係する貴族層に仕える地元の有力者のものであった可能性が高いと言えます。

今回の発掘調査および現地説明会の機械にあたっては、株式会社TMと株式会社長田組の協力を得ました。

朝日新聞 2012年4月24日

大輪田泊跡（神戸市兵庫区）

# 清盛の港 一瞬の都

週刊まちぶら

関西ワイド

## 【参考】 大輪田泊

朝日新聞
2012. 4. 24. 朝刊

記者ナビ

伝説埋もれる街

## 平清盛の邸宅　雪御所

平野交差点の南西側　天王川と石井川の合流点までの逆三角地形の場所は平清盛の邸宅　雪御所があった地点で、雪の御所町の地名が残る。

現在　天王川土手には桜のトンネルが続く桜の名所

平野交差点の北へ天王川沿いに行くと直ぐかつての湯屋跡といわれる湊山温泉がある

湯山温泉街を流れる天王川の上流側の山の中腹に平野祇園神社が見える　2012. 4. 10.

平野祇園神社　2012. 4. 10.

平清盛が大輪田泊の改修(波浪を避けるための人工島経ケ島築造)に取り掛かった際この裏山にあった湯山上流寺で計画を練ったと言い伝えられている。

平野祇園神社　2012. 4. 10.

平清盛が大輪田泊の改修(波浪を避けるための人工島経ケ島築造)に取り掛かった際この裏山にあった湯山上流寺で計画を練ったと言い伝えられている。

平野祇園神社から眺める平野の市街地　2012. 4. 10.

神社の横を登ってゆく有馬街道

祇園神社の石段

平野祇園神社から眺める平野の市街地　2012. 4. 10.

平野の山際を街を眺めながら歩く　2012. 4. 10.

平野の丘の上　山腹沿いの集落の狭い道を東へ歩くと大きな禅寺「祥福寺」の前へ出る

平野の町並み　そして　奥平野 舞桜　を上から眺めたくて、祇園神社の横から東へ山腹に沿って東へ集落の中を歩きました。神戸は山が急峻なため、海から山へ幾筋も道が伸びるが、東西の道はほとんど狭いジグザグの生活道路のみで谷に出会うと山に入ったり、海側へ下ったり、ずたずた。 そんな昔からの生活道路が祇園神社の横から、 山腹の中腹を東の北野に向かって延びていました。 そんな静寂な道の途中に大きな禅寺　祥福寺がありました

## 神戸にも素晴らしい一本桜がありました　神戸桜 Walk2012

この春 清盛の都　福原京が眠る平野の街は桜の花に包まれていました 【おわり】

「神戸 鳥平野鳥桜」鳥平野貯水池・水の科学館　2012. 4. 10.

「神戸 鳥平野鳥桜」　鳥平野貯水池・水の科学館　2012. 4. 10.

「神戸 鳥平野鳥桜」　鳥平野貯水池・水の科学館　2012. 4. 10.

神戸 福原京　平野 雲桜町町を流れる天王川堤の桜　2012. 4. 10.

神戸 福原京　平野 雲桜町町を流れる天王川堤の桜　2012. 4. 10.

かつての福原京　平野の町並みを見下ろすかの様に建つ平野秋葉神社　2012. 4. 10.

# 5. 神戸の春を楽しむ　原チャリ Walk　2012.4.21

新緑の中ミツバツツジが美しい神戸丹生山越箕谷/淡河線　&　カタクリの咲く雌岡山にギフチョウが舞う

1. 箕谷/淡河線　岩谷から見る山田の里の春景色
2. 箕谷/淡河線　岩谷峠周辺のミツバツツジ
3. 淡河の里　　レンゲの田圃と笠松峠周辺のミツバツツジ
4. 神出　雌岡山のカタクリ
5. カタクリが咲く雌岡山斜面にギフ蝶が舞う
6. 雌岡山　神出の里の春色 レンゲ畑

西神戸の里山で春の楽しみ　今年は雌岡山でカタクリの蜜を吸うギフチョウに出会いました

毎年一番に春を見に行く里山箕谷／淡河線 神戸箕谷の岩谷を埋める樹木は芽吹き、日に日に色を変えてゆく。
そして山越えの道には新緑とミ ツバツツジが美しい。 「神戸に春が来た」と思える一瞬
また、直ぐ南 菜の花とレンゲ咲く田園に囲まれ た雌岡山にはカタクリが咲き、かつて蝶が舞ったカタクリの育成地にチョウを蘇らせようとする取組でカタクリの花に取り付くギフチョウを見るこ とができました。
静かで春色の里山が消えてゆく中、ゆったりと した時間が流れるこんな風景を残してほしいものである。

神戸　里山の春 walk　2012.4.21.
神戸丹生山　山越 箕谷/淡河線 & 雌岡山

丹生山を山越えする箕谷／淡河線にみる春景色

雌岡山山腹　カタクリの育成地　　カタクリの蜜を吸うギフチョウ

神出　雌岡山・雄岡山南の田圃で　　南の西盛へ道　志染町三津田の集落で

神出　雌岡山・雄岡山南の田圃で　　丹生山の麓　山田の集落で

春を楽しむ　原チャリwalk　2012.4.21.

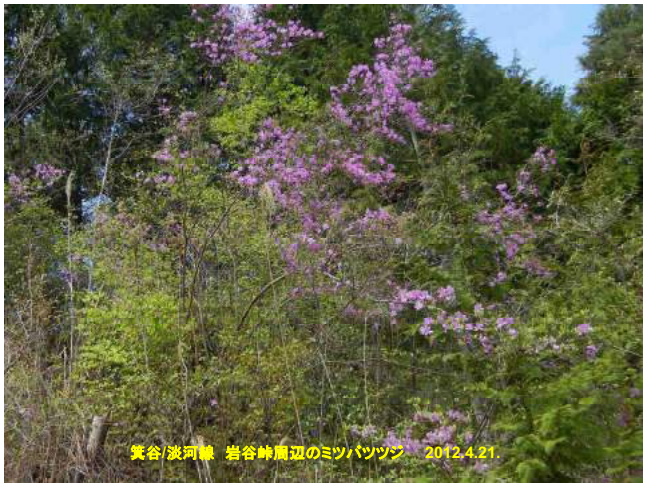
神戸丹生山越　箕谷/淡河線

＆ カタクリの咲く雌岡山にギフチョウが舞う

1. 箕谷/淡河線　岩谷越しに見る山田の里の春景色
2. 箕谷/淡河線　岩谷峠周辺のミツバツツジ
3. 淡河の里　レンゲの田圃と山越え笠松峠周辺のミツバツツジ
4. 神出　雌岡山のカタクリ
5. カタクリが咲く雌岡山斜面に　ギフ蝶が舞う
6. 雌岡山　神出の里の春景色

箕谷/淡河線　岩谷峠周辺のミツバツツジ　2012.4.21.

箕谷/淡河線　岩谷峠周辺のミツバツツジ　2012.4.21.



箕谷/淡河線　岩谷峠周辺のミツバツツジ　2012.4.21.

箕谷/淡河線　岩谷峠周辺のミツバツツジ　2012.4.21.

箕谷/淡河線　岩谷峠周辺のミツバツツジ　2012.4.21.

淡河の里から眺める丹生山の山並み　2012. 4. 21.

南の押部谷 西盛りへ山越え　笠松峠周辺で　2012. 4. 21.

淡河川沿いを西へ　志染町戸田の集落で　2012. 4. 21.

南の押部谷 西盛りへ山越え　笠松峠周辺で　2012. 4. 21.

南の押部谷 西盛りへ山越え　志染町三津田の集落で　2012. 4. 21.

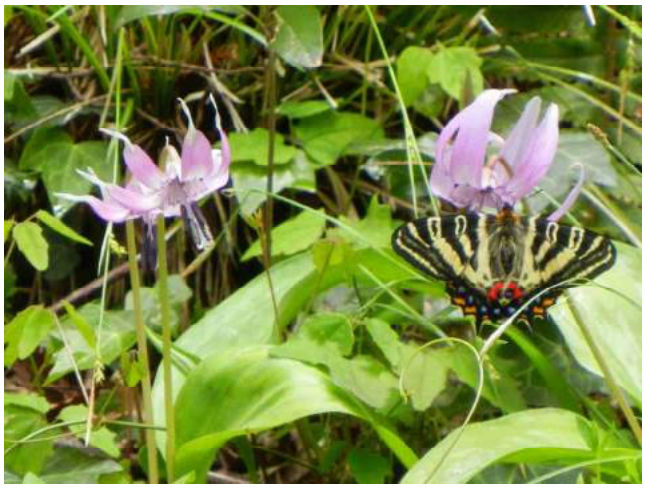
神が坐す神話の山　雄岡山
来臨鳴尊、奇稲田姫命がこの地「神出」に降臨し、御子の大己貴命(大国主命)を生んだと伝わり、
雄岡山にはこれらの神を祭る神出神社を祭る。
雄岡山・雌岡山周辺は　古代　金属精錬・加工に携わったという忍海族が住んだ「押部谷」
雌岡山からは「金」　雄岡山からは「水晶」が出ると神出の古老たちはいう
また　この周辺には古代　日本最大の神出古窯群跡が広がっている

南の押部谷 西盛りへ山越え　笠松峠周辺で　2012. 4. 21.

雄岡山　神出神社の参道　頂上直ぐ下の北西山腹斜面にカタクリの群生地(育成地)がある　2012.4.21.

押部谷西盛から眺める雄岡山　　2012. 4. 21.

雄岡山 神出神社の頂上直ぐ下の北西山腹斜面にカタクリの群生地(育成地)がある　2012.4.21.



神話の里 「神出」
カタクリが咲く雄岡山斜面に
ギフ蝶が舞う　2012. 4. 21.

雌岡山　神出神社の参道を降る　2012.4.21.

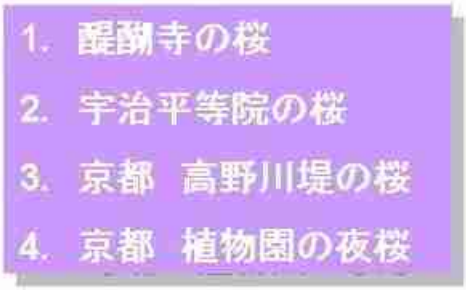
南東側　神出東・押部谷から眺める雌岡山　2012.4.12.

南東側　神出東・押部谷から眺める雌岡山　2012.4.12.

雌岡山の南東側　神出東・押部谷の田圃で　2012.4.12.

## 6. 【スライド動画】　京都　桜 Walk 2012　　2012.4.12.

2012.5.5.　1205kyosakura00.htm　by Mutsu Nakanishi



京都に居ながら、京都の桜の名所　醍醐の桜も宇治平 等院の桜も記憶にないと家内がいう。
4 月 12 日　すっぽり予定がない一日。
京都市内の桜の名所はさけて、京都の桜をゆっくり歩 いて楽しもうと家内と二人でぶらぶら出かけました。
また、近くの高野川の堤　松ヶ崎の疎水分流　そして　 夜ライトアップされた植物園の夜桜にも。
また、久しぶりの平等院・醍醐寺の桜　やっぱり名所 の桜で、人出も多いのですが、さわやかな気分。
また、高野川の土手・松ヶ崎疎水の分流もこんなに美 しかったのか・・・と再認識。
桜の美しさは訪れた時期と同時に自分の気分で随分 かわるなぁ・・・・とも。
一日桜を眺めながらの京都 Walk。 うれしい桜の写真がいくつも撮れました。

### 京都　桜 walk　2012　　2012.4.12.

◎　京都醍醐　醍醐寺の桜　さすが桜の名所　人も多かったですが、素晴らしい桜
境内の淡い桜のトンネルから透けて見える茶席の赤　こんな桜もいい

◎　宇治平等院の桜　宇治橋から眺める桜満開の土手　初めてでした
家内が言うには、十円玉の鳳凰は雄・雌　両方があって　よくあてっこで遊んだというのですが・・・・
それよりも　池越しの平等院の正面　枝垂桜の向こうにぼんやり　仏様が見えたのには感激。

久しぶりの平等院「昔行った・見た」はどうもあてにならない。もっと赤が美しかったように思うのですが・・・・・
印象の違いの大きなポイントは午後の逆光の中で平等院を眺めたこと次回は午前中に・・・・
知らないついでに宇治のソフトクリームは抹茶を降りかけてくれ、それが良いマッチング。
素晴らしい春の宇治でした桜の中の宇治　今回はじっくり平等院を拝観しました

**◎　京都市内　下鴨を流れ下る高野川の桜 ＆ 松ヶ崎疎水分流の桜**

下鴨神社の南側　出町で西の加茂川と東の高野川が合流して京都市内を流れ下る鴨川
周囲の景観とあいまって　加茂川堤の桜並木の美しさは良く紹介されているのですが、
高野川の堤の桜も捲けず劣らずでした

**◎　京都府立植物園の夜桜**

周囲が闇にかくれ、桜だけが奥行きのある姿でライトアップされ、桜が一番きれいに見えるのかもしれない。　何度も　デジカメでその姿を捉えようとするのですが、ことしもまたピンボケでも　それはそれで風情ありです。

神戸の一本桜「舞桜」と古都の桜　　イメージが次々と膨らむ晴らしい姿に強い印象を受け た今年の桜 walk。
満足でした。

京都　桜 Walk　2012.

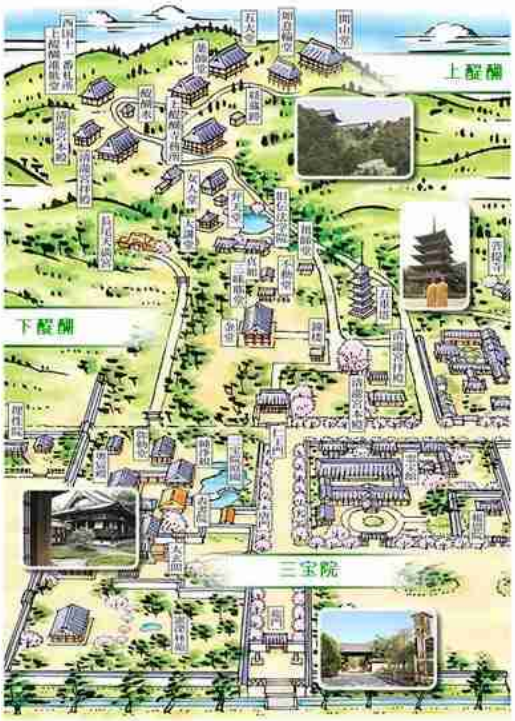
2012.4.12.

京都に居ながら、京都の桜の名所醍醐の桜/宇治平等院の桜も記憶にないと家内がいう。

4月12日 すっぽり予定がない一日。

京都の桜をゆっくり歩いて回ろうと家内と二人でぶらぶら。

1. 醍醐寺の桜
2. 宇治平等院の桜
3. 京都 高野川堤の桜
4. 京都 植物園の夜桜




京都　桜の名所

醍醐寺　2012. 4. 12.

醍醐寺発祥の地・修験の地　「上醍醐」へは

今回宇治へ行きたくて、よう登りませんでした

醍醐寺三宝院の桜

2012. 4. 12.

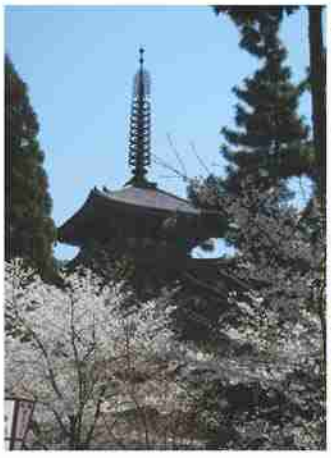
醍醐寺　三宝院の桜　　2012. 4. 12.

醍醐寺　三宝院の桜　　2012. 4. 12.

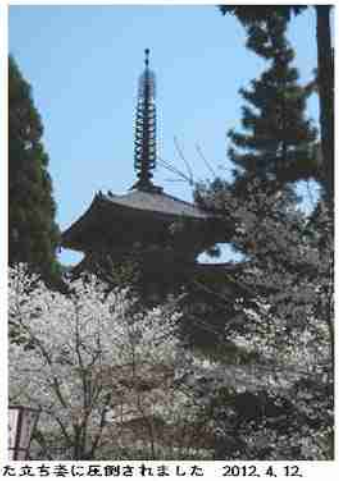
醍醐寺　三宝院の桜　　2012. 4. 12.

醍醐寺　三宝院

醍醐寺　総門の桜　仁王門への参道　2012. 4. 12.



醍醐寺　境内で　　2012. 4. 12.


醍醐寺　五重塔　その堂々とした立ち姿に圧倒されました　2012. 4. 12.

京阪六地蔵周辺

2012.4.12.

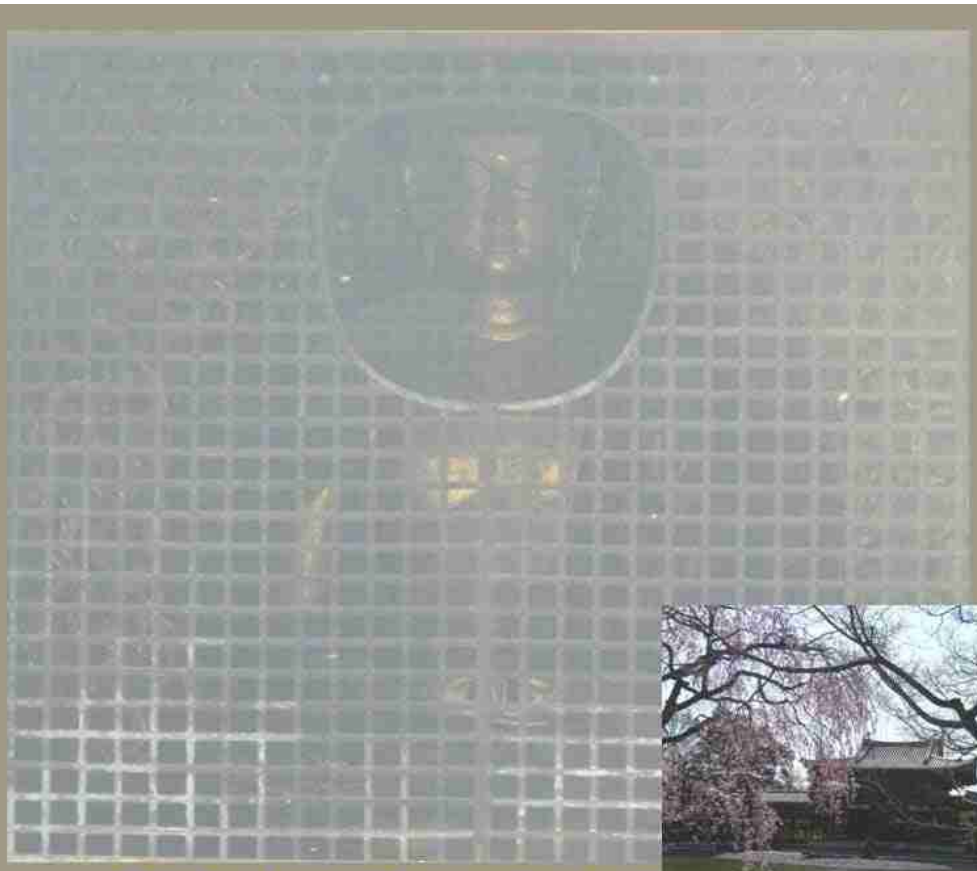
# 桜の宇治　平等院

2012.4.12.

宇治橋から上流側の眺望　2012. 4. 12.

宇治橋のたもと　平等院表参道　入口　20120. 4. 12.

訪れたのが午後だったため、逆光で記憶にある柱の赤がほとんど見えず。 また、正面から拝める阿弥陀さんも暗くて目を凝らさないとよくみえません。 でも 久しぶりでうれしい。



鳳凰堂のご本尊　定朝作　阿弥陀如来像　2012.4.21.

阿弥陀如来坐像

像高278.8cm
髪際高242.1cm
木造、漆箔
鳳凰堂の本尊阿弥陀如来像は、日本の仏像作家を代表する仏師定朝によって平安時代後期、天喜元年〈1053〉に造られたものです。その構造技法は日本独自の寄木造りの完成した技法を示します。また表現の上でも日本独自の様式、いわゆる和様の完成を見せる点がたいへんに重要です。頬がまるく張った円満な顔。伏目がちですが意外に大きな眼は拝む者を静かに見つめ、その表情はかぎりないやさしさにあふれています。胸を張いて背をわずかにまるめた姿勢には無理がなく、いかにも自然で、どこにも硬い緊張感がありません。

雲中供養菩薩像(全体)

木造、彩色・漆箔・切金

鳳凰堂中堂母屋内側の長押(なげし)上の小壁(こかべ)に懸けならべられている52体の菩薩像。この群像も定朝工房で天喜元年(1053)に製作されたものです。

南北二つのコの字形に本尊阿弥陀如来坐像を囲んでならんでいます。南北半数ずつに分けて懸けられ、各像には北側分は1から26までの、南側分は1から25までの番号を、背面壁からはじまり側面壁をへて正面壁にいたる順につけています。南側の最後にある1躯は、他の51躯が国宝指定を受けた後に堂外から発見されたものであり、番外とされています。

各像はいずれも頭光(輪光)を負い、飛雲上に乗ってさまざまの変化にとんだ姿勢をとります。5躯は比丘形(僧形)で、他は菩薩形です。比丘形の5躯はいずれも坐像で、3躯は合掌し、2躯は印を結んでいます。菩薩形の像は多くが坐像で、それらはいろいろな楽器を演奏したり、あるいは持物をとったり、合掌したりしています。菩薩形像のうち6躯は舞い姿の立像です。

各像のゆったりとしたやわらかな肉どりや、穏やかな顔だち、自然な衣文などは本尊阿弥陀如来像に共通しています。

雲中供養菩薩像

雲中供養菩薩

雲中供養菩薩全体

雲中供養菩薩全体

楽器

南4号像

南21号像

南1号像

僧形

南12像

持物

南3号像

南10号像

南2号像

北25号像

舞う像

南20号像

北9号像

久しぶりの平等院

「昔行った・見た」はどうもあてにならない。

もっと赤が美しかったように

思うのですが・・・・・

印象の違いの大きなポイントは午後の逆光の中で平等院を眺めたこと

次回は午前中に・・・・

知らないついでに
宇治のソフトクリームは抹茶を降りかけてくれ、ソレガイイマッチング。

素晴らしい春の宇治でした

桜の中の宇治　今回はじっくり平等院を拝観しました

2012.4.12.

高野川堤の桜　御蔭橋付近　　2012. 4. 12.

高野川堤の桜　御蔭橋付近　南の出町側を向いて　　2012. 4. 12.

高野川堤の桜　御蔭橋付近　北の修学院側を向いて　　2012. 4. 12.

京都　桜 Walk　2012.

2012.4.12.

おわり

京都に居ながら、京都の桜の名所醍醐の桜も宇治平等院の桜も記憶にないと家内がいう。

4月12日　すっぽり予定がない一日。

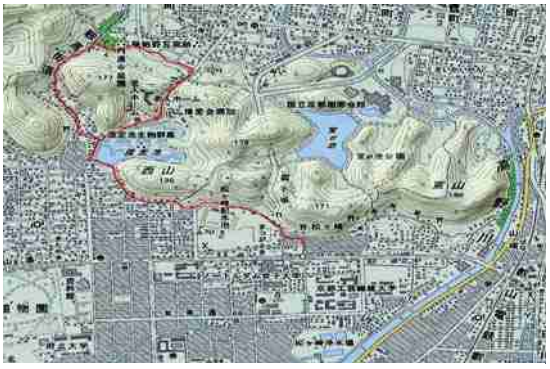
京都の桜をゆっくりめいて回ろうと家内と二人でぶらぶら。

1. 醍醐寺の桜
2. 宇治平等院の桜
3. 京都　嵐野川堤の桜
4. 京都　植物園の夜桜

7.

# 京都 洛北　春 Walk　2012.4.13.

## 静寂な円通寺の庭園へ行きたくなって　深泥池から円通寺へ歩きました



天然記念物の水生植物群　深泥池（上段）と比叡山を借景とした静寂の枯山水の庭　円通寺　2012. 4. 13.

桜満開でにぎわう京都。一日桜見物に歩いた次の日　喧騒を離れ、ゆっくりと緑の中を歩きたくなって、上賀茂深泥池から岩倉円通寺へ歩きました。

昨日　高野川越しに上賀茂の山をみて、水生植物群の深泥池からふと山の北側にある円通寺の横を抜けてゆく静かな洛北の街道　鞍馬街道を思い浮かべたのが発端。

岩倉の里の開発が進んだ今　隠れ里岩倉幡枝の里にある円通寺はどうなっているのだろうか‥‥。

静寂の中の枯山水の庭の縁に座って眺める借景の比叡山　そして　深泥池界隈にも興味がある。

時間の空いている午前中　円通寺に座って比叡山を見ようと。

高野川から眺める上賀茂の山々　山の裏が岩倉　今はベットタウンである

昔は雑草が生い茂る泥池だった深泥池も住宅地に囲まれたきれいな池に整備され、その縁を鞍馬街道の新道が深泥池の集落に入らずに岩倉へ向かい、傍らには桜満開の水辺の公園も。山を越えると岩倉幡枝の集落。

今はきれいに整備された住宅が立ち並ぶ住宅地。かつての集落はどこだったのか・・・・・と。

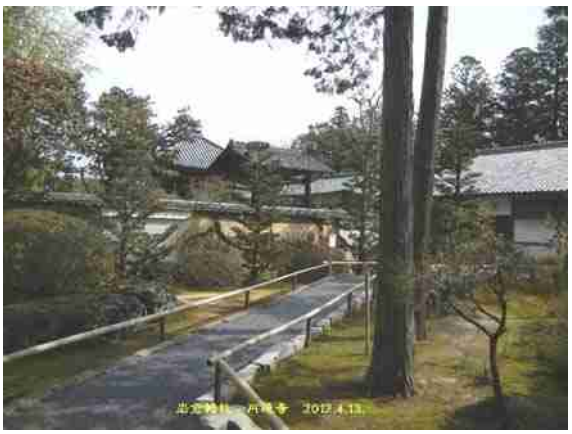
円通寺のある幡枝の集落はこの新道より少し西に入った山際の静かなところ。今もひっそり　ほっとしました。

振り返ると山裾を両側に広げた美しい比叡山。　この景色は前と変わらない。

深泥池　南側より

深泥池　北側の浮島外周より

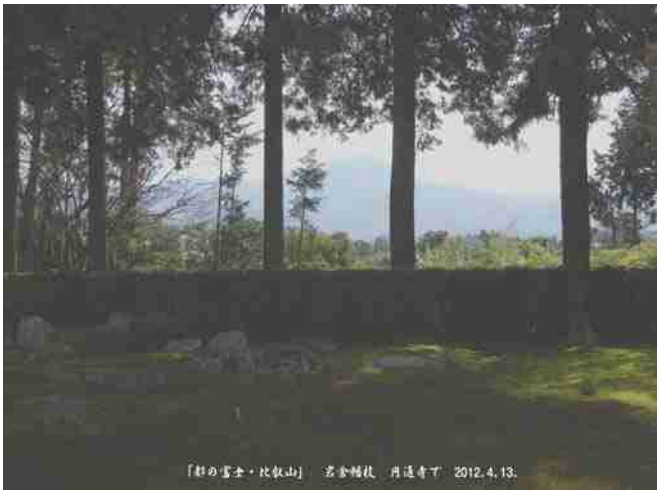
新しく整備された円通寺の山門をくぐって寺の中へ。静寂の中　作業をされていた住職さんに声をかけて　本堂に上がって　円通寺の庭へ。樹木に囲まれ、苔むした枯山水の庭。正面の大きな樹木越しに比叡山が薄く見える。　風の音と時折鳥の声がきこえるのみ　昔と変わらぬ静寂の中　懐かしい景色が独り占めでした。
柱にもたれて　庭をながめていると　ゆったりと静かな声で円通寺の解説テープが流れてくる。ゆったりとした空間の中ででで聞く円通寺の成り立ち。なにか心地よい。　寺の解説　心地よいと感じるなんて　なかったなぁ・・・・・・と。
ついでに　この比叡山の姿「都の富士」というのだそうだ。　京都では西に愛宕　東に比叡とはよく言うが、都の富士の呼び名をはじめて聞きましたが、ここで見る比叡山の姿はやっぱり　美しい。



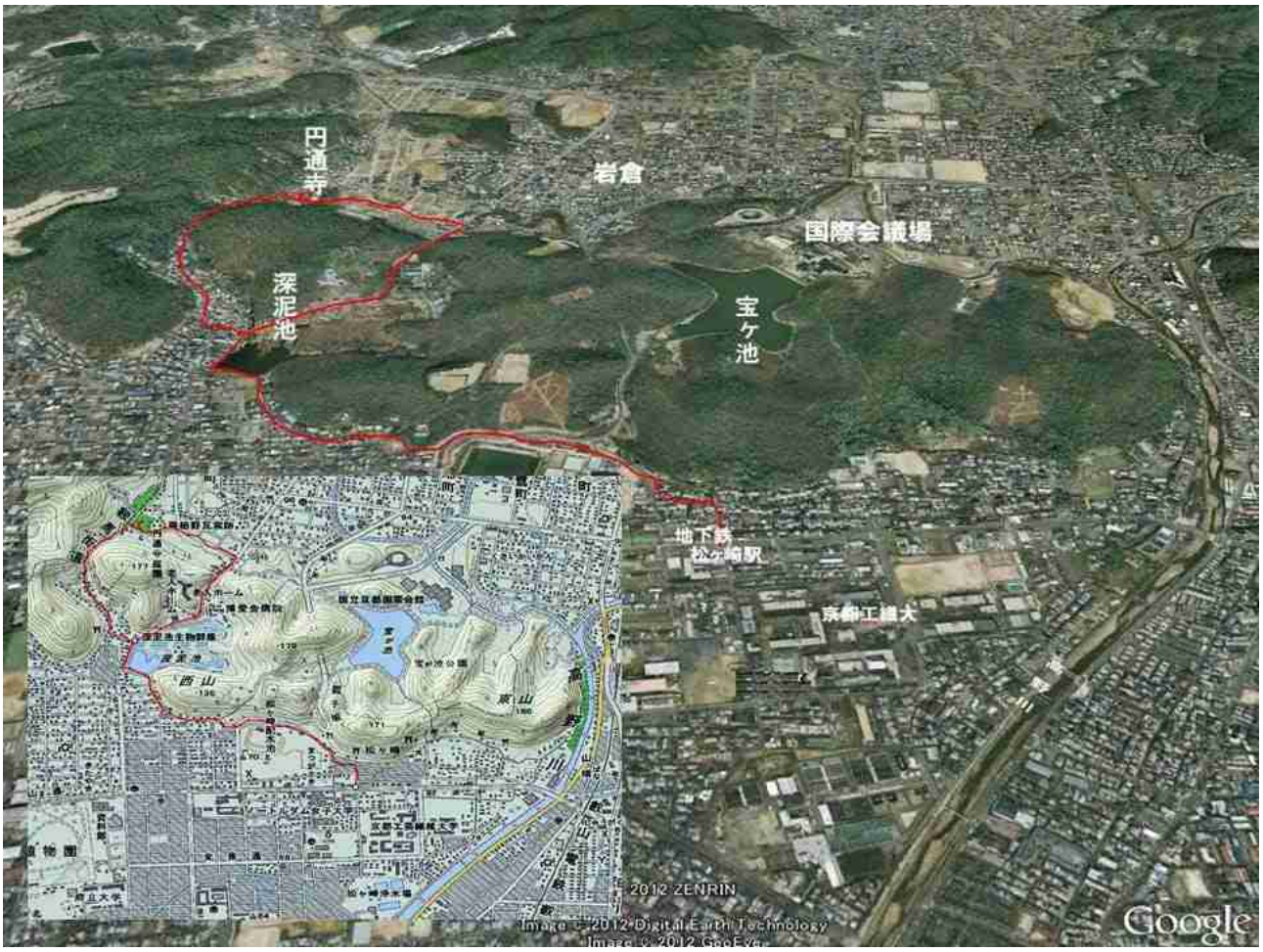
園通寺と枯山水の庭園から見る比叡山

約 1 時間ほど円通寺にいて、帰りは円通寺の直ぐ西側を通る鞍馬街道の旧道を通って、深泥池の集落を抜けて帰ってきました。　午前中　約 3 時間ちょっとの洛北散歩　かつてのイメージがそのまま残っていた円通寺の庭と比叡に出会えました。
まだ残る京の田舎 Walk。記すより映像とスライド動画にまとめました。

園通寺の庭と都の富士　そして何の変哲もない深泥池
皆さんにいかが映るでしょうか・・・・



岩倉幡枝の集落から峠を越えて深泥池の集落を抜けて続く旧鞍馬街道　2012.4.13.




深泥池界隈の春　深泥池から山越して　岩倉の円通寺へ　2012.4.13.

国指定天然記念物

# 深泥池生物群集

昭和2年6月14日指定　昭和63年12月24日名称変更

深泥池（みぞろがいけ）は、面積約9ヘクタール、周囲約1.5キロメートルの大きさで、市街地に接する場所に位置しているにもかかわらず、現在でも氷河時代以来の動植物が生息する大変貴重な池です。

非都盆地は、気候的には暖温帯に属しますが、この深泥池には、東日本北部の冷温帯に成立するはずの高層湿原が残っているため、西日本に残る数少ない高層湿原として、昭和2年（1927）に深泥池水生植物群落として国の天然記念物に指定されました。また、その後の調査で動物についても稀少なものが多く生息していることが判明し、昭和63年（1988）には、昆虫等の動物も含めた深泥池生物群集に名称が変更されました。

National Designated Natural Monument

## Mizoroguike Lake and its Wild Life

Designated June 14, 1927
Classification Altered December 24, 1988

Mizoroguike Lake covers approximately 9 hectares and has a total circumference of 1.5km. In addition to having an important position in the city it also holds significant value as having been a natural habitat for plants and animals since the ice-age.

While the basin formation of Kyoto city is located in a warm temperate zone, Mizoroguike Lake sustains a cool temperate zone similar to upper marshland in North-eastern Japan. As this type of lake is very unusual in Western Japan Mizoroguike Lake was designated as a National Natural Monument in 1927, because of its aquatic plant life colony. Since then studies have shown that the lake is also a habitat for rare creatures. As a result of these studies its designation was accordingly altered in 1988 to include other creatures, such as insects, living in the lake area.

### ◆深泥池の浮島

深泥池の不思議のひとつに浮島があります。池の中央に広がり、池全体の3分の1を占めています。この浮島の下には水の層があって、水面に浮いていることが確認されています。

浮島は水温や水質の関係で、有機物の分解が遅く、植物の遺体が分解されずに堆積し、その上にミズゴケや種々の植物が成育しています。また、池の底には分解せずに流入で泥炭となったミズゴケが堆積していますが、その分析の結果、浮島は約14万年前から存在していたことが判りました。

この浮島は季節により上下に変動しています。夏は浮かび上がり、冬は沈んで冠水します。冬に冠水する平坦部中（シュレンチ）にはミツガシワやカキツバタ等が成育し、冬に冠水を受けないやや高い部分（ビュルチ）にはアカマツ・ネジキ等の樹木が成育しています。

### ◆深泥池の植物

深泥池に生育する植物の多くは、高層湿原に由来するものであるため、本来は北方系の植物であり、中には、ホロムイソウのように世界的な分布の南限である種類も成育しています。

浮島に成育する代表的な種類としては、アセスゲ（花色：白色、花期：4月）、ミツガシワ（白色、4月）、カキツバタ（淡紫色、5月中旬）、トキソウ（淡紅色、5月後半～6月初）、イヌノハナヒゲ（赤褐色、7月～10月）、サワギキョウ（青紫色、8月後半～10月）や、モウセンゴケやミミカキグサといった食虫植物があげられます。

また、浮島周囲の水面（開水面といいます）には、ジュンサイ（紅紫色、6月下旬）、ヒメコウホネ（黄色、6月～10月）や食虫植物のタヌキモ（黄色、7月～9月）が成育しています。

### ◆深泥池の動物

深泥池に生息する動物の代表は昆虫です。中でも、トンボ類は約60種類確認されています。

また、全国的にも珍しい種類を含むものとしては、ゲンゴロウやアメンボの仲間があげられます。

他にも、ヒメコウホネを幼虫の餌とするミドロミズメイガ、ミツガシワの花の蜜を吸うハナアブやマカリモンハナアブ等のハナアブ類があげられます。

昆虫以外では、水中で生活するミズグモを代表とするクモ類、マガモ、ヒドリガモ等の水鳥を代表とする鳥類が多く、特に冬場のカモ類は岸辺から肉眼でもよく観察することができます。

### ◆深泥池を守るために

深泥池では、動植物や、その動植物が生きていくために必要な水質を保護するため、禁止事項を定めていますので、ご協力いただきますようお願いいたします。

動植物を保護するための禁止事項
- ○池や浮島への立ち入り
- ○植物の採取、動物の捕獲
- ○釣り（または釣りのための餌き餌）
- ○外から動植物を池に持ち込むこと
- ○その他、動植物の保護に支障のある行為

水質を保護するための禁止事項
- ○ゴミの投棄
- ○施設に係ること
- ○焼却
- ○その他、水質の保護に支障のある行為

調査等のために池に立ち入る場合は、文化財保護法に基づく手続きが必要となります。詳しくは京都市文化財保護課（TEL:222-4112）にお問い合わせ下さい。

空から見た深泥池（昭和五十年撮影）

ミツガシワ

秋の深泥池

カキツバタ

マガモ（♂）

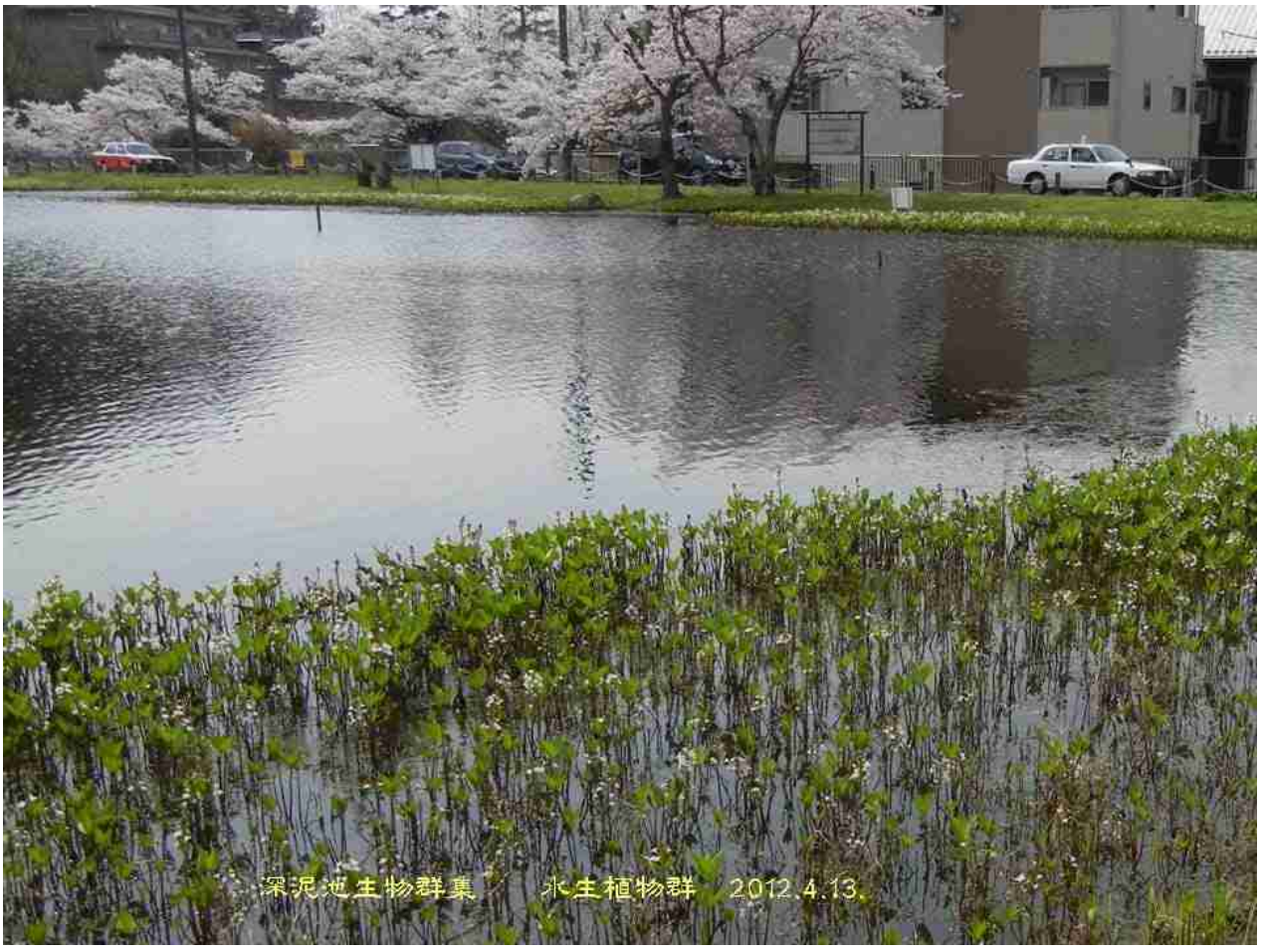
ヒメコウホネとタヌキモ

春の深泥池

南側から深泥池　全景　2012.4.13.

深泥池　南側端　2012.4.13.

深泥池　西端　岩倉へ抜けてゆく鞍馬街道新道　2012.4.13.


深泥池生物群集　水生植物群　2012.4.13.

深泥池生物群集　水生植物群　茅原　2012.4.13.

深泥池生物群集　水生植物群　2012.4.13.

西北側 鞍馬街道新道からの深泥池　浮島外周帯　2012.4.13.

天然記念物　深泥池　2012.4.13.

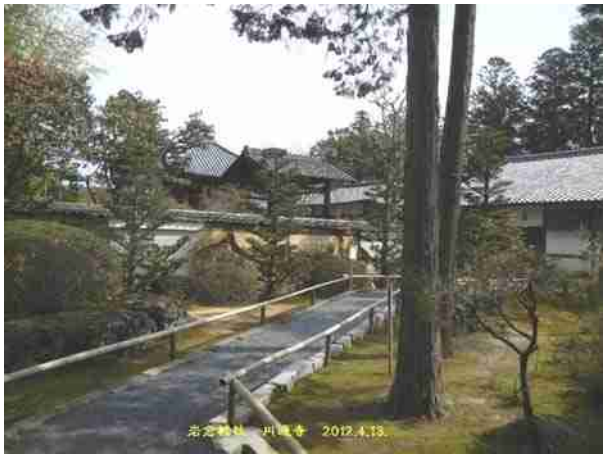
鞍馬街道新道の峠を越えて　両通寺の前る沿倉轎杖へ　2012.4.13.

鞍馬街道新道の峠に掛かる地点　振り返ると左手に広大な葦原が広がっている　2012.4.13.

鞍馬街道新道　南の上賀茂 深泥池と北 沿倉 轎杖の峠　2012.4.13.

鞍馬街道新道　深泥池と鯖枝の峠 鯖枝側　2012.4.13.

志賀越道　戸津寺　参道　2012.4.13.

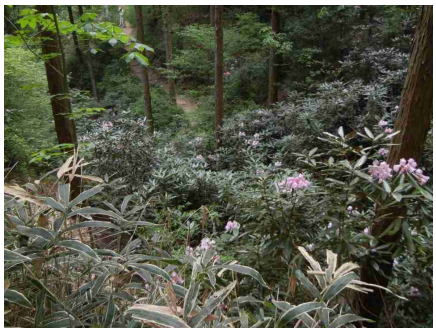

志賀越道　戸津寺　2012.4.13.

岩倉幡枝の集落から峠を越えて深泥池の集落を抜けて続く旧鞍馬街道　2012.4.13.

# 8. 六甲森林植物園　　石楠花谷　2012.5.8

連休が終わった午後「新緑が美しい六甲の石楠花がもう盛りを過ぎようとしている」との花便り
白に淡い紅がさす日本石楠花　西洋石楠花の強さはないが、美しい新緑の季節を飾る大輪の花が
石楠花谷を埋めつくす。　昨年は出かけた時期もあわなかったのですが不良。
今年はどうかと気にしながら出かけましたが、素晴らしい日本石楠花に出会えました。

2012.5.8.



六甲森林植物園 石楠花谷 2012.5.8.

ツクシシャクナゲ

六甲森林植物園　石楠花谷　2012.5.8.

石楠花谷　ホソバシャクナゲの道　2012.5.8.

## いろいろなシャクナゲのちがい

| | アズマシャクナゲ | ツクシシャクナゲ | ホソバシャクナゲ |
|---|---|---|---|
| 花 | 花は淡紅色の漏斗形で広く開き、先は5裂する。雄しべは10個 | 花は濃紅色で直径4～5cm漏斗形で、7裂する。雄しべは14個 | 花は紅紫色で直径3～4cm漏斗形で、5裂する。雄しべは10個でやや花冠より短い。 |
| 葉 | 葉は長楕円状被針形で8～15cm。裏面は灰褐色の軟毛が圧着する。 | 葉は倒被針形で長さ8～20cm。裏面に褐色の長い綿毛が密生する。 | 葉は狭倒被針形で長さ10～15cm。裏面に褐色の長い軟毛が多い。 |
| 分布 | 本州（岩手・山形県～長野・静岡県） | 本州（紀伊半島）・四国・九州 | 本州（静岡県西部～愛知県東部） |
| 花期 | 4月中旬～4月下旬 | 4月下旬～5月上旬 | 5月上旬～5月中旬 |

スライド　おわり

9.

## 知っているようで知らなかった「 京都 伏見 」

# 伏見港・伏見の街を歩く　2012.5.15

**5 月 15 日　葵祭が中止になった雨が降ったり止んだりの一日　思いついて　京都伏見の街を歩きました**

京都の一番南の端「京都　伏見」　周辺はよく通るのですが、知っているようで知らない歴史の街

京阪電車が淀川に沿って京都に向かい、桂川・宇治川・木津川の合流点淀を過ぎて、中書島へ入るとまた　いつもの疑問がわいてくる。ここはかつての「伏見港」があったところで　淀川を溯ってきた船がこの伏見港に入り、京都の街へ人も物資も運ばれた。「時代劇でよく見る伏見の港は残っているのだろうか??　港の入口はみたことないなぁ・・・・」と。

この伏見の港へは　江戸時代　角倉了以が開削した高瀬川が通じ、また、明治には琵琶湖疏水がこの伏見までつながり、蒸気船が行き来したという。大阪落語「30 石」は江戸時代の伏見の情景を生き生きと再現し、また、幕末　坂本竜馬が襲われた寺田屋事件の場でもある。

電車が中書島を出ると車窓からは、疎水に沿って建ち並ぶ酒蔵がいくつも眺められ、ここは「灘の酒」とならぶ「伏見の酒」の名産地。この疎水は琵琶湖疏水　鴨川の東岸に沿うが京都の街中ではすでに消えていて　北の蹴上インクライン周辺で顔を出す。また、江戸の高瀬川は京都の街中では鴨川の西岸を加茂川に沿のですが、伏見は加茂川から離れた西側宇治川の岸。どこかで　加茂川を横切らねばならないが・・・・・

伏見の港も酒蔵もそして高瀬舟に琵琶湖疏水　もう頭はぐちゃぐちゃ。おまけに　この中書島の対岸にはかつて広大な巨椋池が広がり、淀川へ注ぐ 3 河川がここで合流して南の淀川へ下ってゆく、洪水の常襲地。太閤秀吉が土木大事業を行いこの巨椋池を切り離し、太閤堤を築き、伏見の港を作り、洪水を制したのだという。

何度か歩いたことはあるのですが、しっかり歩いたことなし。　今日は一日暇。ゆっくり伏見の街「好奇心にかられて　何でも見てやろう」　そして「伏見の酒　試飲しよう」と。

知っているようで知らなかった街　伏見　だいぶ疑問も解けました。　観光地になりつつあると聞きますが、勝手気ままに街歩きを楽しめる街でした。

また、歩いていて　私の故郷「尼崎」の名を町名に見つけました。（南尼崎町　北尼崎町　東堺町）

秀吉が伏見港を作り、城下町として、堺や尼崎から商人を連れてきて、城下に商人町を作った名残とか・・・。

思わぬところで眼にする「尼崎」でした。

　ついでながら「中書島」は俗称　住所表記にはこの地名は出てこない。明治の末　京阪電車「中書島駅」が開設され、京都の南入口　若い人たちが通う歓楽街・新地として　昭和高度成長期まで大いに栄えて　中書島の名前が有名になった。

今は静かな落ち着いた市街地。　京都の帰りに途中下車して　うまい酒をゆっくり呑む人も多いとか・・・・・

　京都の観光地　寺社歩きもいいのですが、こんな街歩きもお勧めです。

## 京都の南端　「伏見」の顔

京都盆地の南端に淀川に注ぐ三河川・巨椋池が作る広大な湿地を秀吉が大土木工事を実施し、政治・経済の中心に変身させた地で、秀吉以降　伏見桃山時代から昭和　そして現在まで　大いに栄えた街である

- 豊臣秀吉が開いた城下町・港町　伏見桃山時代の政治・経済の中心地
  - ○　京都盆地の南端　淀川に注ぐ桂川・宇治川・木津川の合流点　交通の要衝
  - ○淀川治水の要　秀吉の大規模河川改修工事で作られた街「伏見」と太閤堤
- 城がなくなった江戸期以降も大阪と京都を結ぶ水運で隆盛した港
  - ○　江戸期　角倉了以が開削した新高瀬川　　三十石船と十石船
  - ○　昭和期　琵琶湖疏水（鴨川運河）を開削　　大阪-京都-琵琶湖の水運
- 名水の地　「伏見の酒」　　月桂冠・黄桜・月の桂・神聖・玉乃光・富翁　・・・・・・・・・・
  灘の「男酒」に対して『女酒」ともいわれる決めの細かいまろやかな口当たり
- 宇治川の対岸に広がる広大な「巨椋池」の干拓
- 幕末　坂本竜馬　寺田屋事件の地
  慶応2年（1866年）に発生した伏見奉行による坂本龍馬襲撃事件。

### ●　伏見　中書島　伏見港のあった地

現在の京阪中書島駅を中心とした地域であり、南北に竹田街道が通っている。
四方を川（南は宇治川、三方は濠川）に囲まれており、かつて島であった名残をとどめている。

文禄年間、中務少輔の職にあった脇坂安治が宇治川の分流に囲まれた島に屋敷を建て住んだことから「中書島」の名前が生まれたとされる。豊臣秀吉によって開発され武家屋敷が立ち並ぶようになったが江戸時代前期に荒廃したが、
その後、伏見城下にあった遊廓が移転され、繁栄するようになる。
酒の名所であるために遊びに来る人が多く、また、宇治川に近く、交通の便が良い中書島は遊廓であると同時に花街でもあり、祇園をしのぐほどの名妓を輩出してきた。明治末期には京阪電車が開通し、ますます栄えるようになったという。

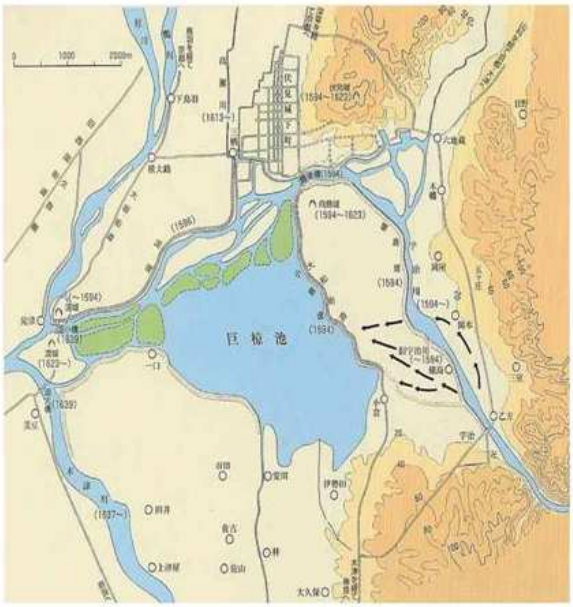
ところで、こんな過去を持つ場所であり、年配の関西人には　なじみの名前であるが、
現在は普通の住宅地であり、花街、遊廓時代の面影はほとんどない。
また、「中書島」の地名は残っておらず、京阪電車の駅類として残るのみ。
これも 時代の流れか・・・・

伏見港は秀吉によって作られた人工の城下町・港町

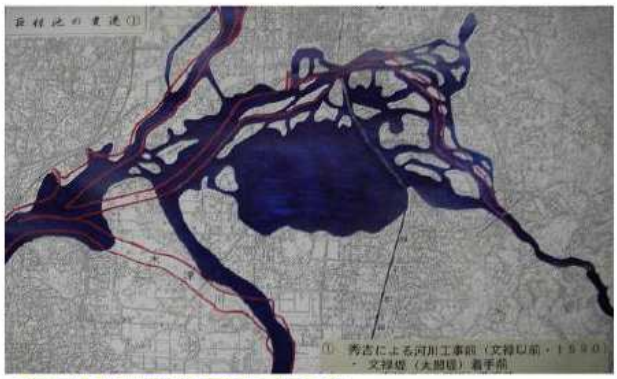
# 豊臣秀吉による巨椋池周辺の大改修と伏見港の建設

**秀吉の時代の巨椋池沿岸図**

当時の巨椋池には、宇治川・桂川・木津川が流れ込んでいたため、大雨が降ると巨椋池の周辺は洪水に見舞われていました。そこで、秀吉は巨椋池周辺に堤を築き宇治川の流れを変え、巨椋池の洪水を抑えるとともに、宇治川の流れを利用する伏見港を造りました。

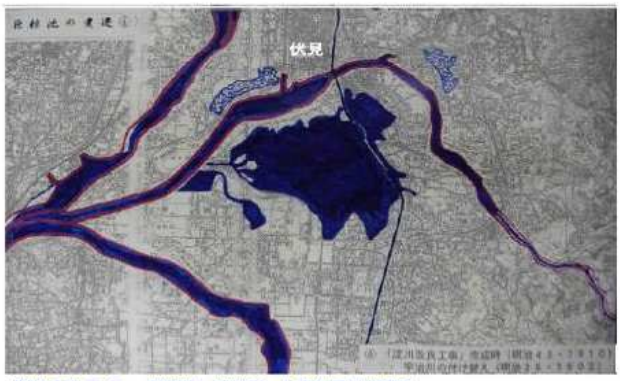



## 淀川改修・巨椋池干拓と三川合流点周辺の地形変化



秀吉による河川工事前平安時代のままの姿
文禄堤（太閤堤）着手前　文禄以前（1590）

秀吉による河川工事後　文禄5年（1596）
・文禄堤の築造、左岸連続堤の概成　・文禄堤により宇治川と巨椋池の分離
・秀吉の建設した城下町伏見に港が設けられ、交通の要衝になった




明治の改良後　明治18（1885）木津川の付け替え
明治35（1902）宇治川の付け替え

昭和の改修・巨椋池干拓後（現在）
巨椋池干拓　大正7年（1918）～昭和16年（1941）
三川合流点の導流堤、引堤等　昭和8年（1933）
今の堤が完成　昭和43年（1968）

# 水運 伏見港の要　「高瀬川」と琵琶湖疏水（鴨川運河）

伏見港船溜まりを埋めて整備

## 伏見港公園

体育館・プールやテニスコートなどの施設のある丘を抜けると伏見港濠川の岸に出る。

宇治川派流・伏見港は豊臣秀吉の伏見城築城資路改修によって形成され、
各時代にわたって京都・大阪を結ぶ交通の要衝として栄えた河川港である。
幕末には、寺田屋騒動や坂本竜馬の活躍などわが国の歴史の主要な舞台ともなった。
また、角倉了以の高瀬川開削、近代の琵琶湖疏水開削、淀川改修などと深くかかわる
など、わが国の政治経済・土木技術史上極めて高い歴史意義をもった地域である。

中書島　伏見港公園の案内板より

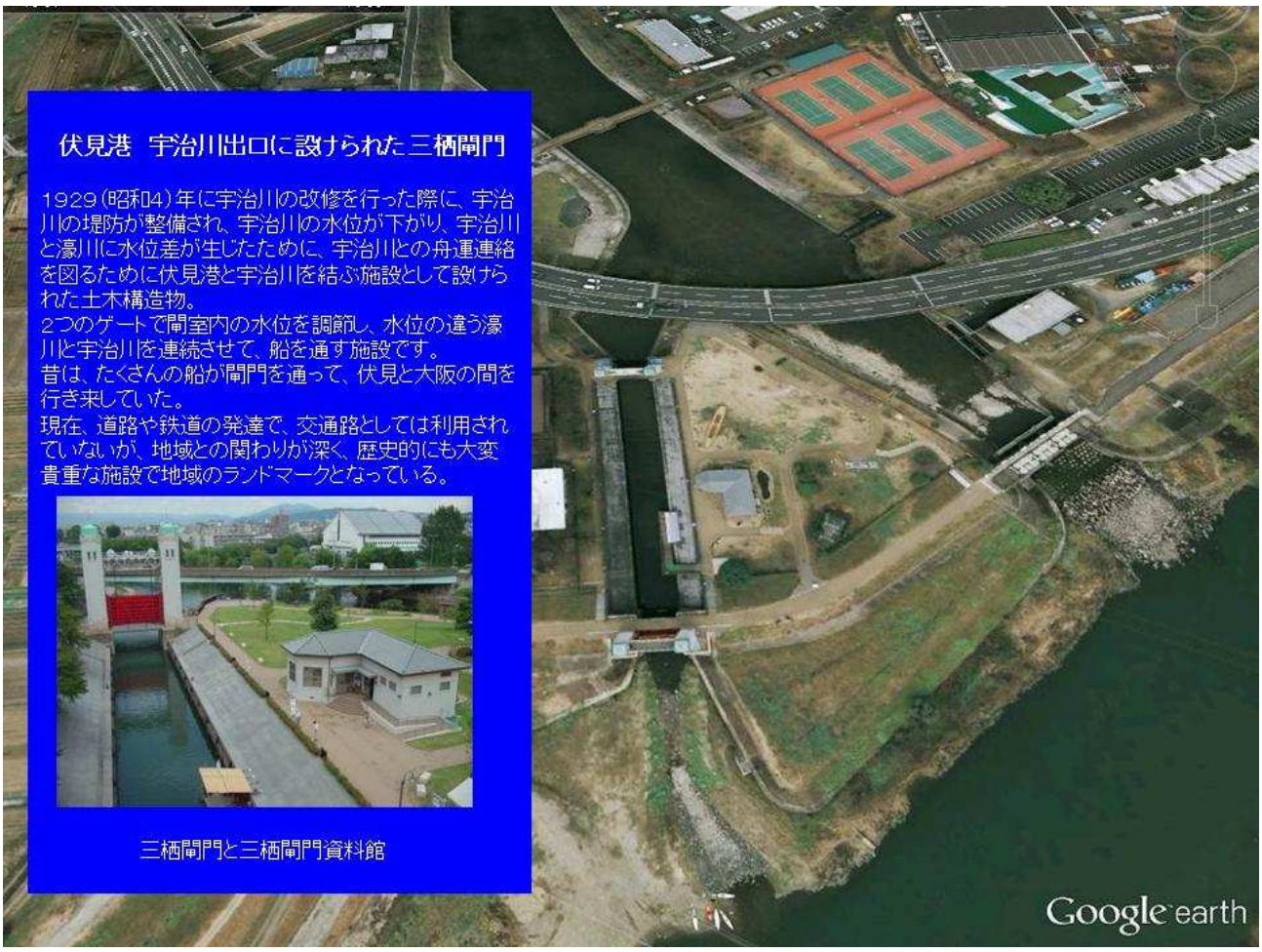
南側　濠川の宇治川出口方面　左:三栖洗堰　右:三栖閘門

## 伏見港

濠川東岸より水路の上流　伏見の町・京都側
木橋の向こうに京阪の鉄橋が見える

木橋を渡った対岸から伏見港水路全景　インターネットより

木橋を渡って　対岸を宇治川への出口　三栖閘門へ　2012.5.15.



三栖閘門は伏見港と宇治川を結ぶ施設として昭和4年（1929）に造られました。2つのゲートで閘室内の水位を調節し、水位の違う港川と宇治川を連続させて、船を通す施設です。

昔は、たくさんの船が閘門を通って伏見と大阪の間を行き来していました。

現在、道路や鉄道の発達にともない、交通路としては利用されていませんが、地域との関わりが深く、歴史的にも大変貴重な施設です。

※港川（ごうかわ）は、「はりかわ」とも呼ばれています。

三栖閘門　伏見港側

2012. 5. 15.

三栖閘門

前扉室（伏見港水路側）

三栖閘門・後扉室（宇治川側）

◎　三栖閘門バイパスゲート（前扉）

三栖閘門・前扉室

閘門ゲート

八幡製鉄所の表示

| | | | |
|---|---|---|---|
| 型式 | 鋼製スライドゲート | 門数 | 2門 |
| 扉体幅 | 1．640m | 扉体高 | 1．480m |
| 揚程 | 1．200m | 扉体重量 | 0．687t |
| 設置年月 | 昭和62年3月 | 製作 | 近畿設備株式会社 |

◎　三栖閘門・後扉室側の旧巻上機

## 伏見港の入口　三栖閘門

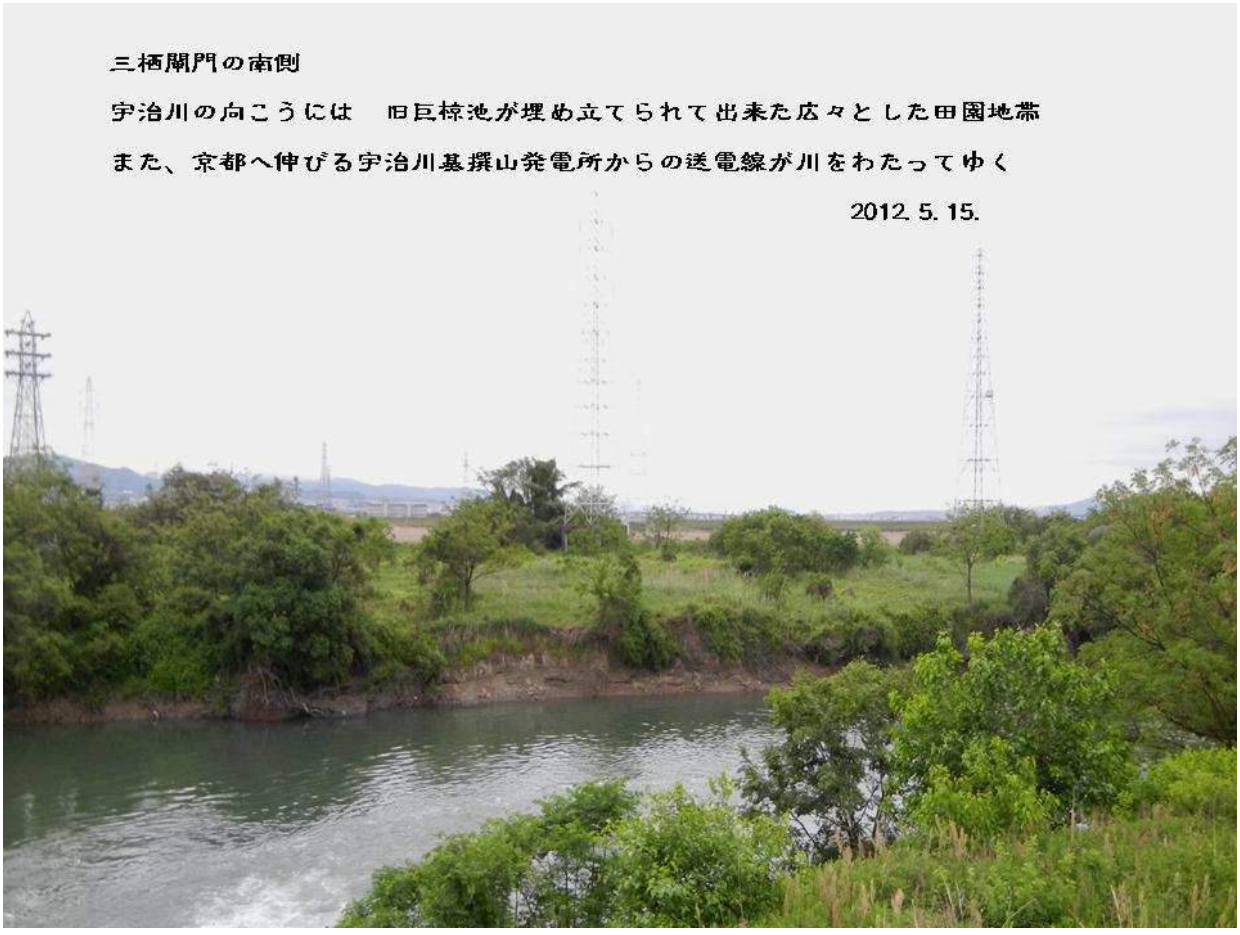
産業技術遺産探訪　三栖閘門　2004.8.7.より　http://www.gijyutu.com/ooki/tanken/tanken2004/misu-koumon/misu-koumon.htm

伏見港から宇治川への出口　三栖閘門　現在は宇治川の水位が下がり使われていない

もう閘門は動いていませんが、閘門内の船着場から　伏見港水路に出てきた観光十石舟　2012.5.15.

三栖閘門の南側　　宇治川の向こうには　旧巨椋池が埋め立てられて出来た広々とした田園地帯が広がっていました　　2012. 5. 15.

**三栖閘門　宇治川土手より**　三栖閘門の出口　伏見港の入口です



閘門の北側にもうひとつの放水路
三栖洗堰がみえる
また、宇治からの送電線がこちらに渡ってくる

## 三栖洗堰　2012.5.15.

三栖閘門と対をなす三栖洗堰

濠川の水量調節に今も働いている。

現在の宇治川と洗堰の位置関係　落差の大きさにびっくり。

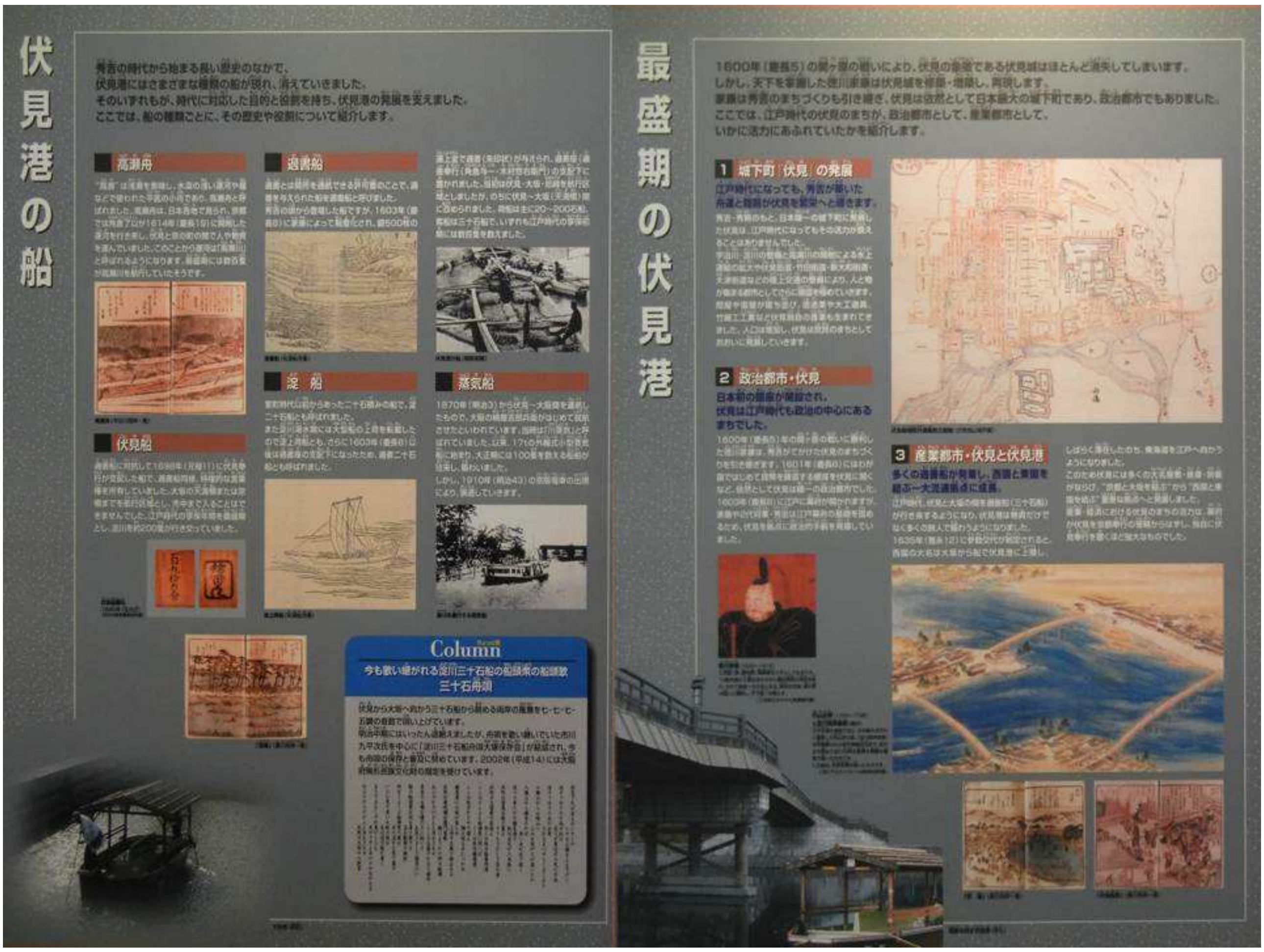
これは、上流側に設けられた関西の大水甕で天瀬ダムの完成で水位・水量が大幅に落ちたためと見える。

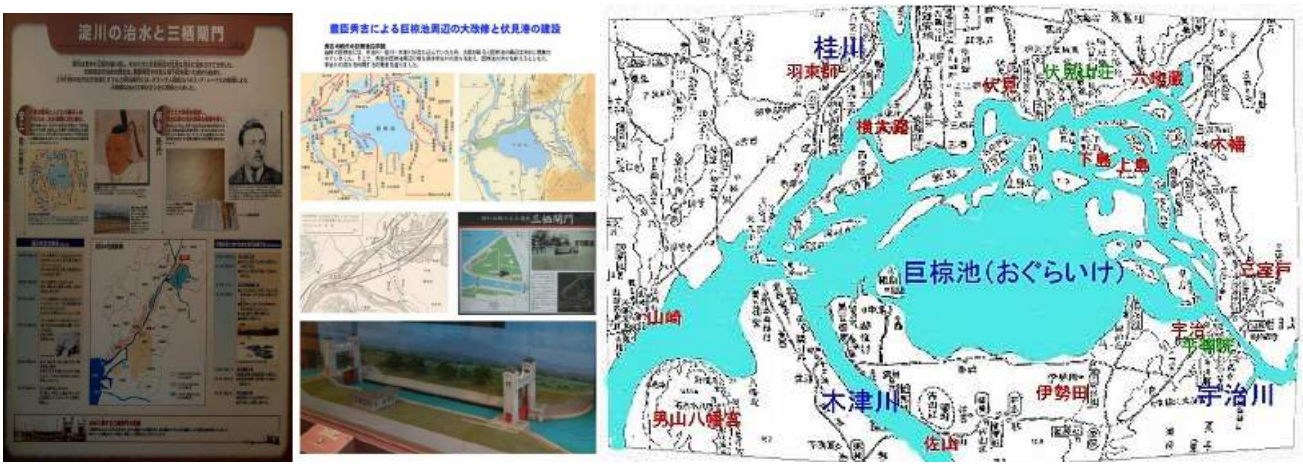
この宇治川の水量低下で　三栖閘門の機能は失われ、

現在　宇治川から伏見の港・水路に直接船で入ることは出来ない。

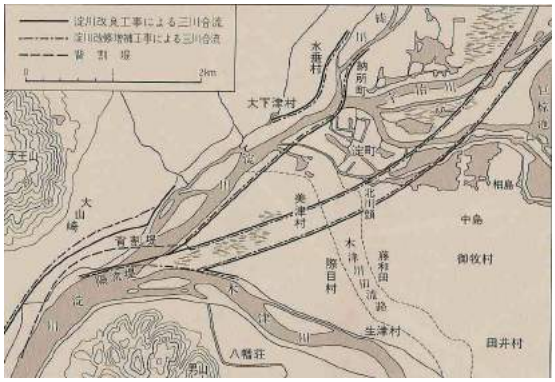
三栖閘門と三栖洗堰の間の三角島に立つ三栖資料館　伏見港・閘門の歴史資料を展示　2012.5.15.

伏見港と伏見の町
1600年（慶長5）の関ヶ原の戦いにより、天下を掌握した徳川家康は、秀吉のまちづくりを引き継ぎ、伏見は江戸時代になっても依然として日本最大の城下町であり、政治都市でもありました。
問屋や宿屋が建ち並び、酒造や竹細工など伏見独自の産業も生まれてきました。人口は増加し、伏見は庶民のまちとして大いに発展していきます。
伏見と大坂間を過書船（三十石船）が行き来するようになると、伏見港は物資だけでなく多くの旅人で賑わうようになりました。
1635年（寛永12）に参勤交代が制定されると、西国の大名は大坂から船で伏見港に上陸し、東海道を江戸へ向かうようになりました。このため伏見には多くの大名屋敷・倉庫・旅籠がならび、伏見港は"京都と大坂を結ぶ"から"西国と東国を結ぶ"重要な拠点へと発展しました。
この模型は、江戸中期の古地図を基に制作しましたが、町並みは少し誇張してあります。


伏見港の船
秀吉の時代から始まる長い歴史のなかで、
伏見港にはさまざまな種類の船が現れ、消えていきました。
そのいずれもが、時代に対応した目的と役割を持ち、伏見港の発展を支えました。
ここでは、船の種類ごとに、その歴史や役割について紹介します。
高瀬舟
過書船
淀船
伏見船
蒸気船
Column
三十石舟唄
最盛期の伏見港
1600年（慶長5）の関ヶ原の戦いにより、伏見の象徴である伏見城はほとんど消失してしまいます。
しかし、天下を掌握した徳川家康は伏見城を修築・増築し、再現します。
家康は秀吉のまちづくりも引き継ぎ、伏見は依然として日本最大の城下町であり、政治都市でもありました。
ここでは、江戸時代の伏見のまちが、政治都市として、産業都市として、
いかに活力にあふれていたかを紹介します。
1 城下町「伏見」の発展
2 政治都市・伏見
3 産業都市・伏見と伏見港

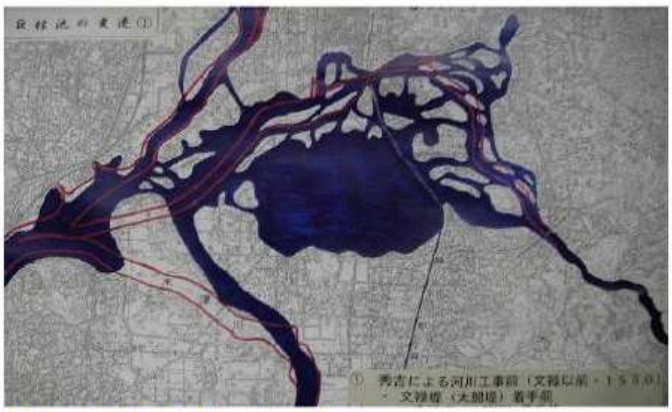


【秀吉による巨椋池周辺の大改修】



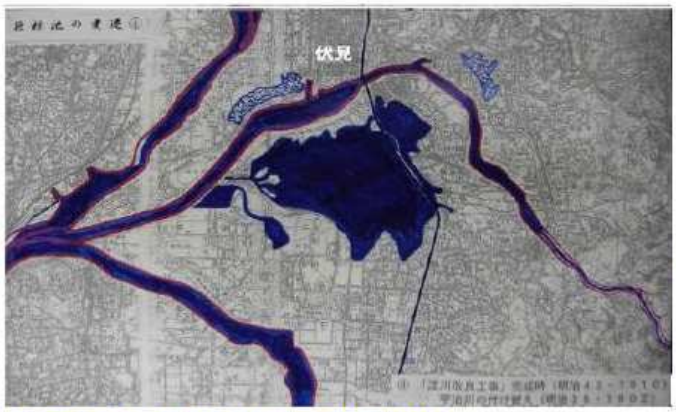

【淀川の大治水工事】

## 淀川改修・巨椋池干拓と三川合流点周辺の地形変化

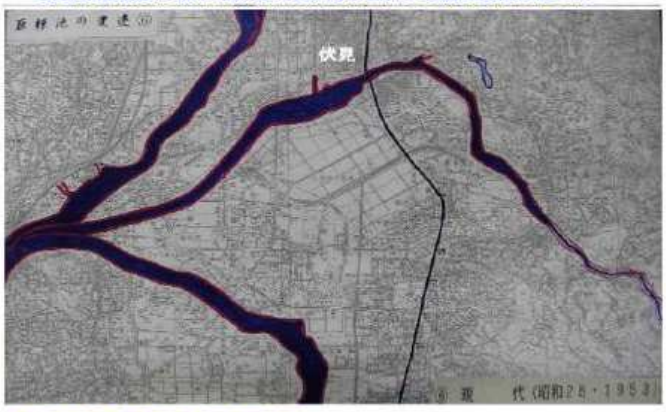


秀吉による河川工事前平安時代のままの姿
文禄堤（太閤堤）着手前　文禄以前（1590）

秀吉による河川工事後　文禄5年（1596）
・文禄堤の築造、左岸連続堤の概成　・文禄堤により宇治川と巨椋池の分離
・秀吉の建設した城下町伏見に港が設けられ、交通の要衝になった




明治の改良後　明治18（1885）木津川の付け替え
明治35（1902）宇治川の付け替え




昭和の改修・巨椋池干拓後（現在）
巨椋池干拓　大正7年（1918）～昭和16年（1941）
三川合流点の導流堤、引堤等　昭和8年（1933）
今の堤が完成　昭和43年（1968）

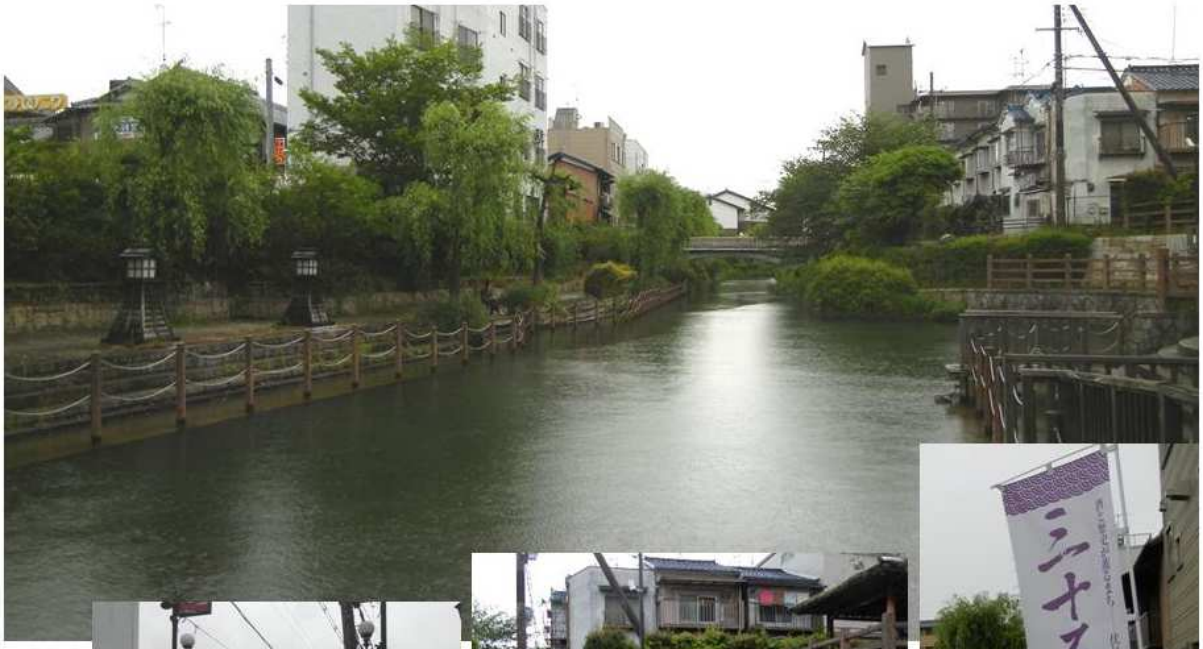
伏見
ウォーキング
マップ
Fushimi Tekuteku
Walking Map
スタート

濠川旅行(蒸気船
歴史の詰まった醸造の街
伏見を歩く
2012.5.15.
伏見港公園
宇治川
伏見港 京橋

京阪の鉄橋をくぐって 濠川沿いを北へ
2012.5.15.

「薩摩島津伏見屋敷跡」石碑
伏見中学校交番
丹波橋
近鉄丹波橋
京阪本線
近鉄京都線
JR奈良線
N
呉竹文化センター
薬局
下板橋
下板橋通
松林院
大黒寺
金札宮
聚楽橋
土橋
伏見区総合庁舎
竹田街道
三菱東京UFJ銀行
毛利橋
毛利橋通
御香宮神社
24
月桂冠昭和蔵
濠川
京都中央信用金庫
京都銀行
みずほ銀行
伏見銀座
伏見石碑
桃山御陵前
大手橋
伏見大手筋商店街
伏見桃山
JR桃山
「坂本龍馬、避難の材木小屋跡」石碑
京都大橋総合病院
「会津藩駐屯地跡 伏見御堂」石碑
旅籠・寺田屋と旧跡地
観月橋
寺田屋
龍馬通商店街
伏見奉行所跡
會了以石碑
であい橋
京橋
「伏見土佐藩邸跡」石碑
伏見夢百衆
公衆トイレ
月桂冠本社
至宇治
「伏見口の戦い激戦地」石碑
松林院
伏見公園
長建寺
伏見南浜小学校
弁天橋
濠川（宇治川流派）
新観月橋
「伏見長州屋敷跡」石碑
中書島
竹田街道外環状線
府立総合体育館
月桂冠大倉記念館
伏見港公園
宇治川
酒蔵風景・月桂冠内蔵酒造場
宇治川公園
至奈良

宇治川派流との分岐点　角倉了以の碑があるであい橋　2012.5.15.



伊治川派流　京橋と蓬莱橋の間の寺田屋浜に「竜馬お龍」の碑　2012. 5. 15.

伏見の商店街　竜馬通りにかかる　蓬莱橋　2012. 5. 15.
水路沿いの道をあがり、伏見の街をすぐ横の寺田屋へ

坂本竜馬が襲撃された寺田屋　2012.5.15.

坂本竜馬が襲撃された寺田屋　2012.5.15.

伏見の街中　酒蔵の界隈　2012. 5. 15.

伏見の酒蔵の界隈　2012. 5. 15.

月桂冠
大倉記念館

月桂冠　大倉記念館　正面　　2012.5.15.

月桂冠　大倉記念館　2012.5.15.

大倉記念館の裏　弁天浜にある　十石舟乗り場　2012.5.15

奉納
弁財天

丹波橋近く　下板橋通りを東から西へ疎水を渡ると酒造工場の前に
薩摩島津藩伏屋敷跡　寺田屋から脱出した坂本竜馬が逃げ込んだところ

伏見の濠川北部･疎水の町並みの中に　秀吉の時代　商人町として栄えた「尼崎」「堺」の名を見つける

秀吉伏見築城の折り、堺や尼崎の職人たちが伏見城下に移され、
彼らの住む町が、今も尼崎町堺町の地名が伏見に残っている。

## 堺とともに尼崎は中世の末から豊臣時代にかけて、港町・寺内町として栄えた日本有数の自治都市だった

瀬戸内海を通して西国から都へ輸送されるさまざまな物資が往来し、なかでも京や奈良の巨大社寺を造営する材木を西国から運ぶ中継港として、大物や尼崎の港は大いに栄えるとともに、大覚寺や本興寺を中心にそれぞれ寺内(境内)や門前に町屋を展開し、独立した町と寺社門前の集合体として堺とともに 中世日本有数の自治都市となった。

この頃の尼崎は港町として、船頭・水主や、陸上の物資を運ぶ馬借などがいただろう。また、米、塩、油、材木などが海上ルートから入ってきたと考えられ、これらを保管する土倉(倉庫業者しばしば高利貸業も)その他の商人や手工業者 そして僧侶や武士も居住し、また漁民や農民も少なくなかったと推定される。 こうした都市住民が結集して、都市共同体を形成していたと考えられている。

### 〈〈 秀吉の味噌すり 尼崎 寺町の廣徳寺にある石碑 〉〉

明智光秀を追討する秀吉は、尼崎で軍勢から離れ一人になってしまう。
明智勢から身を隠すため駆け込んだのが当時大物にあった廣徳寺。
髪の毛を剃り落とし僧に化け、台所で味噌をするという迫真の演技で
敵をやりすごしたという。
『絵本太閤記』に記された逸話だが、史実として明らかではない。

絵本太功記・十段目尼崎の段は脚色があると思っていましたが、
この話は小さい時から史実と思っていました。

どうも そうでないらしい。

寺町の廣徳寺にある石碑

聚楽橋を渡ったところ まっすぐ北へ竹田街道が続く 2012.5.15.

猿川が直角に東へ曲がり、疎水(東高瀬川)となる角にある竹田街道 聚楽橋の北岸へ出ると街歩きもおわり

**【添付　参考資料】**

1. 京都　伏見の港　繁栄の歴史　概説
2. 角倉了以による高瀬川開削とその後の琵琶湖疏水（鴨川運河）開削

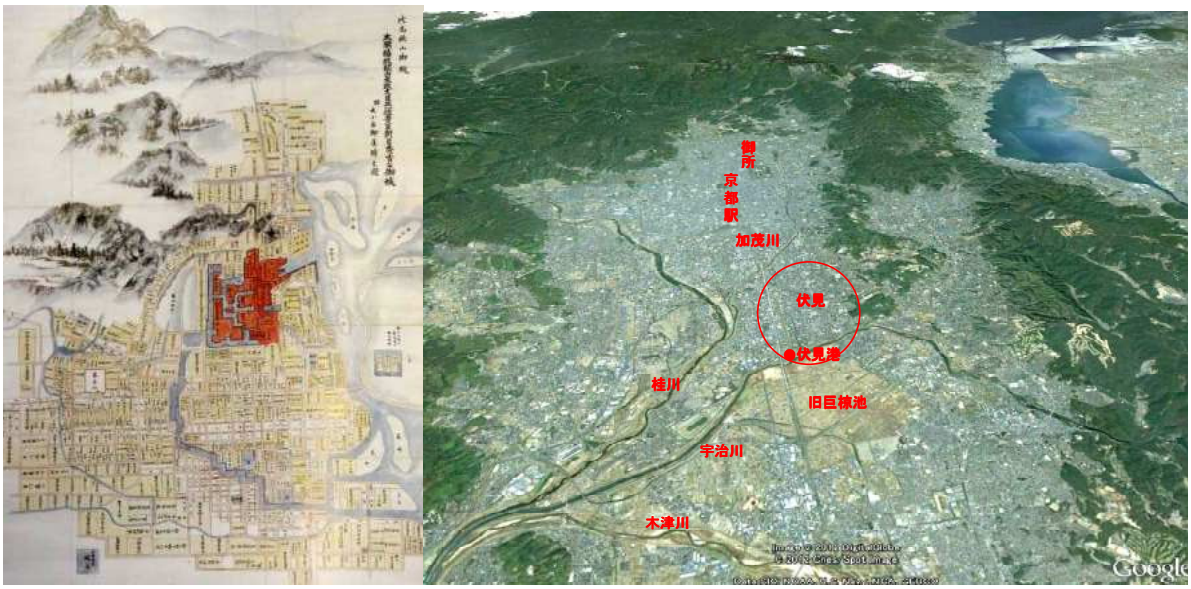
知っているようで知らなかった　京都　伏見の港・街を歩く

【参考】

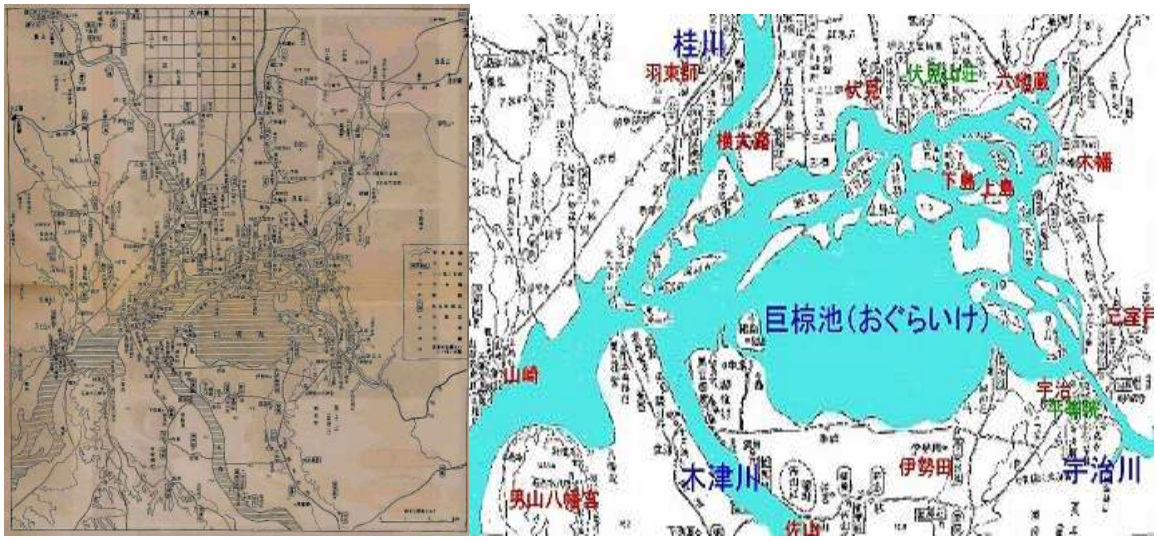
# 1. 京都　伏見の港　繁栄の歴史　概説

## 文禄３年（1592）秀吉による巨椋池・淀川三川合流点周辺の改修と伏見港の建設

伏見港は秀吉によって作られた人工の城下町・港町




京都伏見周辺は大阪へ流れ下る桂川・宇治川・木津川の三河川の合流点の交通の要衝に位置する京都盆地南端の最低地で、もともとは南に広大な巨椋池が広がり、三河川の水路が複雑に入り組んだ低湿地帯の北岸であった。




秀吉以前　淀川へ注ぐ桂川・宇治川・木津川　三河川合流点　伏見周辺のもともとの姿

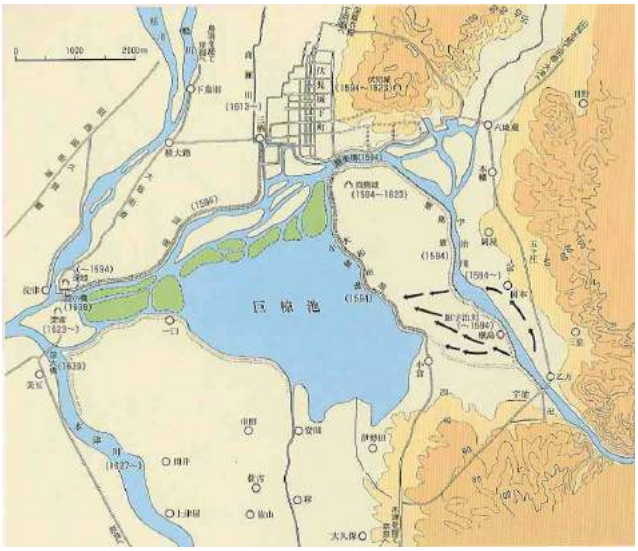
文禄元年（1592）年　豊臣秀吉がこの地に伏見城の建設を始め、伏見城築城とともに城下町の町割や開発を急速に進め、伏見城下整備の一環として、　1594 年（文禄 3 年宇治川の治水および流路の大幅な変更を目的として、一般に「太閤堤」と呼ばれる槇島堤や小倉堤の建設をはじめとする大規模な工事を行ない、伏見には、宇治川と濠川を結ぶ形で港を設けた。

同時に宇治橋の撤去および巨椋池を介した交通の要衝であった岡谷・津与（淀）津の役割を廃し、小倉堤の上に新設した大和街道と城下を直結する位置に肥後橋を設け、陸上および河川の交通を伏見城に集中させた。

伏見城下は武家屋敷，寺社，町家，道路などの区画整理を行ない、城郭の西側を流れ，町の中心部を囲むように外堀が掘られた。掘り上げられた土砂でさらに西部の低湿地帯を埋立て、町人居住区の中核として南北に縦貫する京町通と両替町通が作られて、現在の町の原型を形作られた。

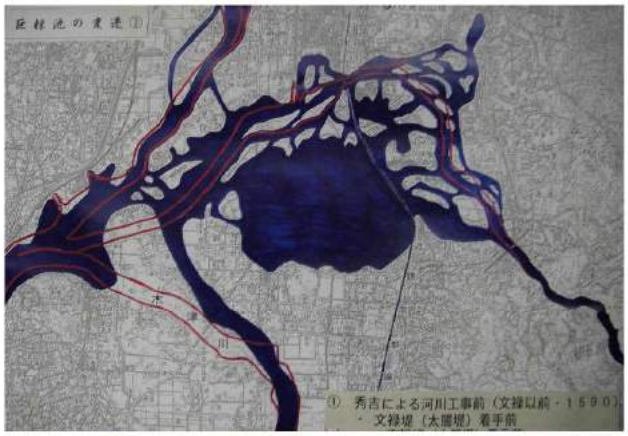
これらの大土木事業により、伏見城下・伏見の港は、大阪・京都そして日本各地を結ぶ交通の要衝となり、各地の有力大名や大名に呼び寄せられた数多くの商工業者が住み、三十石船が伏見と大坂の間を行き来する政治・経済の中心地として繁栄する。

当時は、伏見～大坂間が淀川の舟運、伏見～京都間は陸上交通というのが一般的であり、伏見は舟運と陸路の中継点として重要な役割を果たしていました。淀川には秀吉が運航許可を与えた過書船が行き来していました。

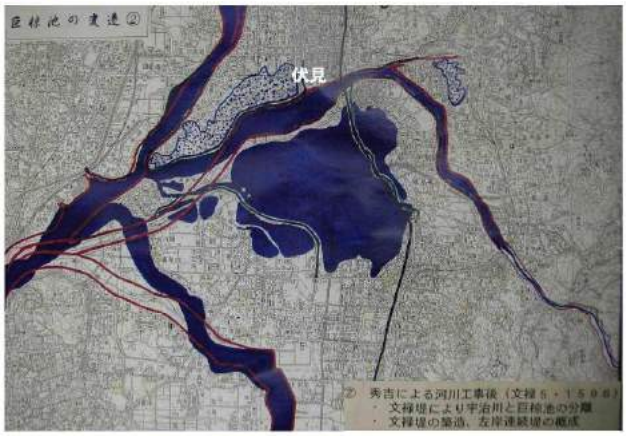



**秀吉の時代の巨椋池沿岸図**
当時の巨椋池には、宇治川・桂川・木津川が流れ込んでいたため、大雨が降ると巨椋池の周辺は洪水に見舞われていました。そこで、秀吉は巨椋池周辺に堤を築き宇治川の流れを変え、巨椋池の洪水を抑えるとともに、宇治川の流れを利用する伏見港を造りました。

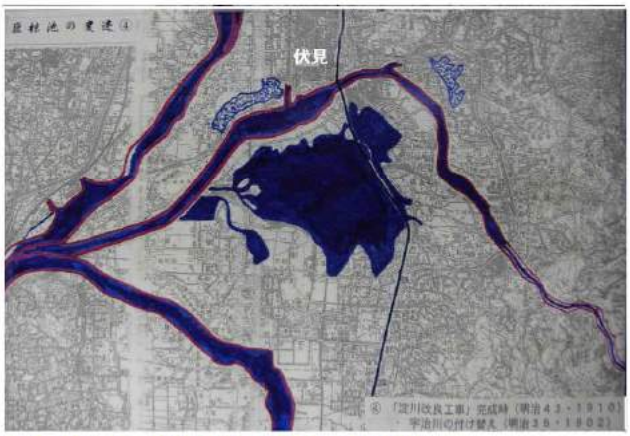
## 淀川改修・巨椋池干拓と三川合流点周辺の地形変化



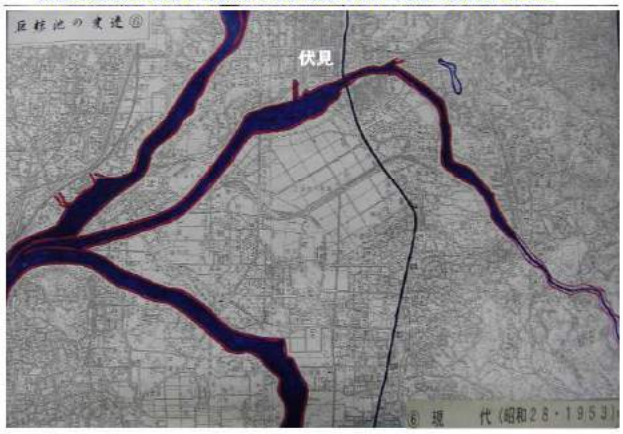
秀吉による河川工事前平安時代のままの姿
文禄堤（太閤堤）着手前　文禄以前（1590）




秀吉による河川工事後　文禄5年（1596）
・文禄堤の築造、左岸連続堤の概成　・文禄堤により宇治川と巨椋池の分離
・秀吉の建設した城下町伏見に港が設けられ、交通の要衝になった




明治の改良後　明治18（1885）木津川の付け替え
明治35（1902）宇治川の付け替え



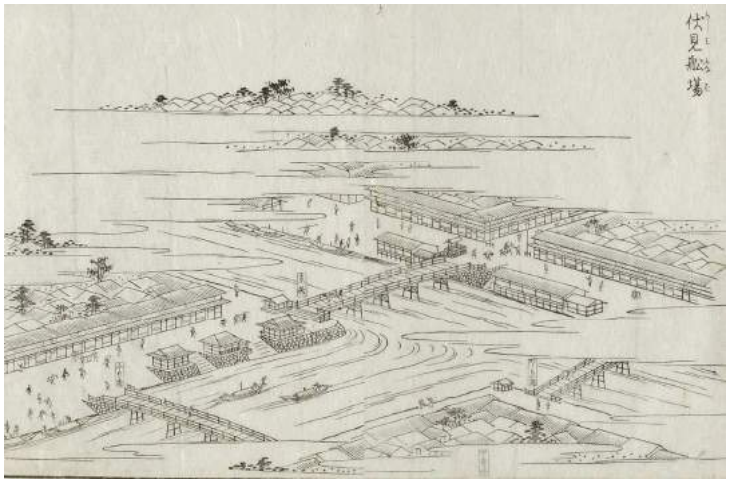

昭和の改修・巨椋池干拓後（現在）
巨椋池干拓　大正7年（1918）～昭和16年（1941）
三川合流点の道流堤、引堤等　昭和8年（1933）
今の堤が完成　昭和43年（1968）

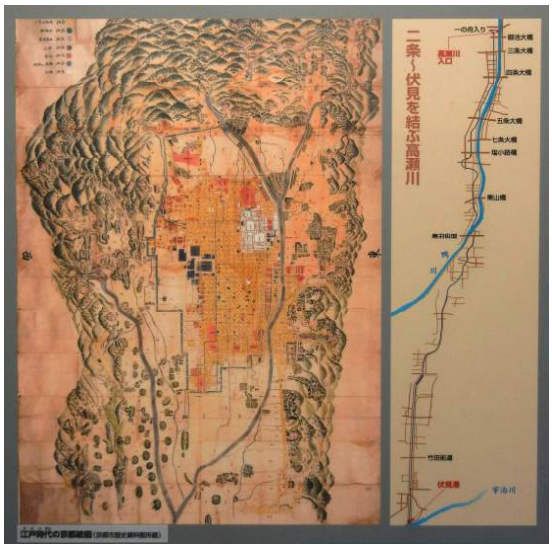
## ◎　1614 年 (慶長 19) 角倉了以による高瀬川を開削

伏見城が廃城となった後の江戸期も 伏見は交通の要衝として栄える。

特に京都の豪商・角倉了以が、1614 年(慶長 19)に高瀬川を開削し、高瀬川を通じて伏見から京都へも舟で輸送できるようになり京都と伏見が結ばれたことから、港の役割はさらに増した。伏見港は伏見と大坂を航行する過書船、伏見と京都を行き来する高瀬舟の発着点となり、舟運交通の中継拠点としてさらに繁栄を遂げていきました。

幕府の伝馬所（問屋場）も置かれ、参勤交代の大名が立ち寄るために本陣や大名屋敷も置かれていた。幕末期には坂本龍馬が伏見港の船宿である寺田屋を常宿としていたのは有名である。






１６１４年(慶長 19)角倉了以による高瀬川を開削

## ◎　淀川の治水と淀川水運の両立のため　明治 27 年（1894）琵琶湖疏水（鴨川運河）の開通

淀川は昔から氾濫を繰り返し、そのたびに伏見周辺の住民は洪水に悩まされてきた。
伏見周辺の治水の歴史は豊臣秀吉が伏見に城下町を築いた時から始まり、土木行政の近代化が急速に進んだ明治時代にはオランダ人技師ヨハネ・デ・レーケらの指導による大規模な治水工事が行われた。

- 明治 18 年（1885）木津川の付け替え
- 明治 35 年（1902）宇治川の付け替え

これにより、ほぼ　現在の淀川の姿となったが、さらに大正・昭和になっても治水工事が続けられた。

**鴨川運河（琵琶湖疏水）の開削** 明治25年(1892)

京都に近代化をもたらした琵琶湖疏水の分流的性格を有する水路が開鑿された。これが鴨川運河とよばれている。

〃「鴨川運河」　琵琶湖疏水の建設に引き続き開削された水路。明治 25 年（1892）に着工、同 27 年（1894）9 月に開通。鴨川の夷川の地点から鴨川東岸に沿って南下し、七条以南は鴨川筋を離れて伏見に達する。勾配の関係で途中 8 ヶ所に閘門をもち、28 年（1895）には伏見にインクライン（傾斜鉄道）が完成、高瀬川が薪炭・肥料など日用物資の移入ルートに用いられたのに対し、産業物資輸送を目的とする。これにより、大津―琵琶湖疏水―鴨川運河―伏見の全長 20 キロ余の舟運ルートが完成した。〃

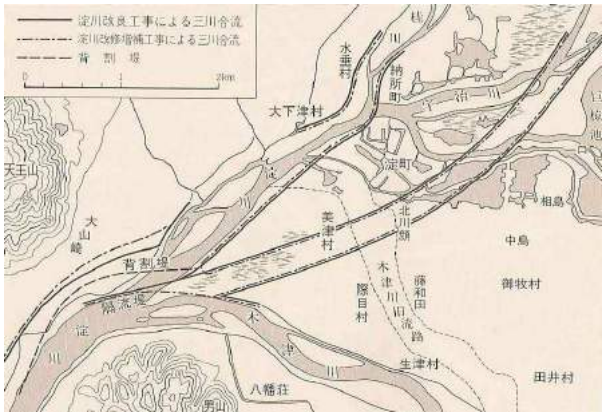
なお、背割堤は京都府八幡市の北辺に位置し宇治川と木津川を分ける細長い桜堤の堤防で、明治初期、木津川の付け替え工事に伴ってできた宇治川左岸、木津川右岸の堤防の一部。明治 30 年(1897 年)から宇治川の改修工事が始まり明治 43 年(1910 年)に完成し現在の姿となり「背割堤」と呼ばれるようになりました

明治 27 年（1894）琵琶湖疏水（鴨川運河）が開通すると疏水とも接続し新たな水運のルートが拓かれた
ほか、宇治川も新たに開削されたことから琵琶湖への大型船の就航が可能となり、大阪や琵琶湖へ蒸気船（外輪船）が就航した。しかし、鉄道や道路の発達に伴い、物資輸送量は減少し、大正 9 年（1920 年）に水運は廃止。
1929 年、宇治川の堤防が整備され宇治川と濠川に水位差が生じたため三栖閘門が建設される。
蒸気船による水運は京都市と大阪市などを結ぶ鉄道が開通したことや淀川（宇治川）での水運の衰退とともに港も衰退した
1962 年(昭和 37)には貨物船輸送も完全になくなります。

## ◎　昭和の治水　1929 年

昭和 10 年（1935 年）に起きた鴨川大洪水のあと、鴨川の河川改修の一環として鴨川の川底の浚渫が行われ、鴨川の川底が 2m程度低くなった。そのため、高瀬川が北から鴨川に流入する地点は十条通付近まで移され、また一方で鴨川横断点の下流側（東高瀬川）では鴨川からの取水が不可能となり、高瀬川は分断されることとなった。

右図の　”三川合流点付近河道付替図<宇治>”の大山崎の南東部の一点鎖線は淀川改修増補工事（昭和８年完成）による桂川右岸側の掘削拡幅を示している。




## ◎　伏見港入口に三栖閘門・洗堰の建設

三栖閘門は、宇治川の大正洪水(1917)をきっかけに昭和の治水工事により、宇治川と伏見の濠川に水位差が生じたため1929年　伏見港の入口となる宇治川と濠川との合流点に三栖閘門が建設され、船の通行だけでなく、治水施設としても

1930年　重要な役割を果たした。

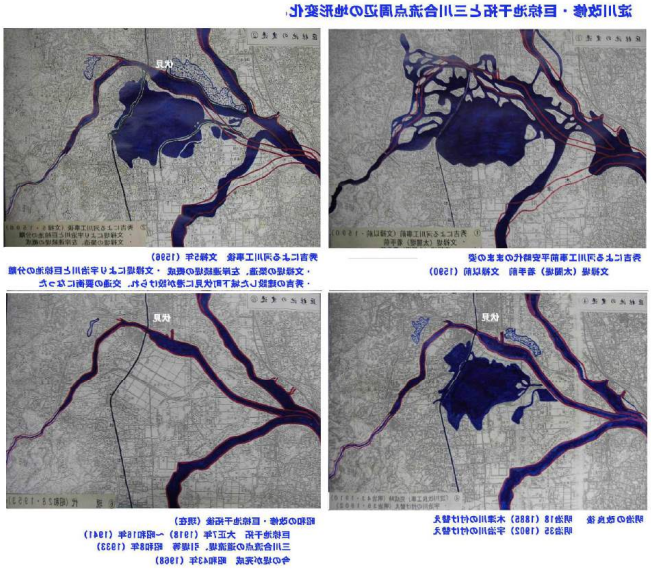
1922 年に始まった宇治川右岸　観月橋から三栖までの堤防整備により、宇治川と濠川に水位差が生じたため 1929 年　宇治川と濠川との合流点に閘門を設け、舟の通行ができるように三栖閘門が建設された。

1962 年に船運がなくなり、天ヶ瀬ダムの完成で宇治川の水位が低下したため、三栖閘門はその役割を終えました。

第二次世界大戦後はほとんど使用されず放置されていた伏見港は 1967 年、跡地を埋め立てて公園とする都市計画が決定され事業化されたことにより港湾機能を喪失した。

周辺には京橋・表町・柿ノ木浜・金井戸・北浜・西浜・南浜・東浜・弁天浜・材木町といった、港町に因んだ地名が残っている

伏見港・濠川から眺めた宇治川への出口に設けられた左:三栖洗堰 右:三栖閘門　　2012.5.15.

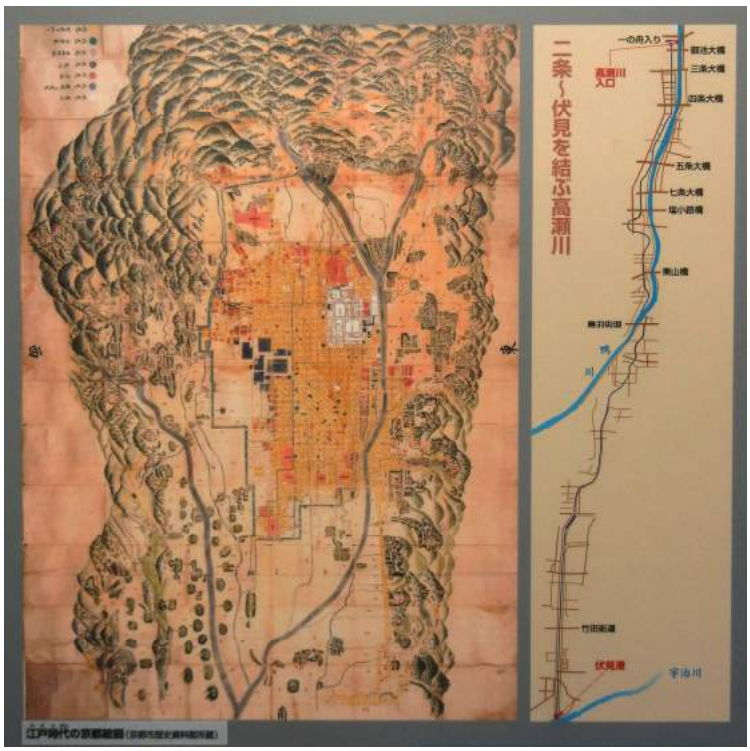


【参考】

## 2.　角倉了以による高瀬川開削とその後の琵琶湖疏水（鴨川運河）開削

### 高瀬川の開削　1614 年(慶長 19)角倉了以による高瀬川を開削

高瀬川（京都府）高瀬川（たかせがわ）は、江戸時代初期（1611 年）に角倉了以・素庵父子によって、京都の中心部と伏見結ぶために物流用に開削された運河である。 開削から大正 9 年（1920 年）までの約 300 年間京都・伏見間の水運に用いられた。
現在は鴨川において京都側と伏見側で分断されており、上流側を高瀬川、下流側を東高瀬川、新高瀬川と呼ぶ。



1614 年(慶長 19)角倉了以による高瀬川を開削

伏見城が廃城となった後の江戸期も 伏見は交通の要衝として栄える。
特に京都の豪商・角倉了以が、1614 年(慶長 19)に高瀬川を開削し、高瀬川を通じて伏見から京都へも舟で輸送できるようになり京都と伏見が結ばれたことから、港の役割はさらに増した。伏見港は伏見と大坂を航行する過書船、伏見と京都を行き来する高瀬舟の発着点となり、舟運交通の中継拠点としてさらに繁栄を遂げていきました。 幕府の伝馬所（問屋場）も置かれ、参勤交代の大名が立ち寄るために本陣や大名屋敷も置かれていた。幕末期には坂本龍馬が伏見港の船宿である寺田屋を常宿としていたのは有名である。

## 鴨川運河（琵琶湖疏水）の開削 明治25年(1892)

京都に近代化をもたらした琵琶湖疏水の分流的性格を有する水路が開鑿された。これが鴨川運河とよばれている。

〃「鴨川運河」　琵琶湖疏水の建設に引き続き開削された水路。明治 25 年（1892）に着工、同 27 年（1894）9 月に開通。鴨川の夷川の地点から鴨川東岸に沿って南下し、七条以南は鴨川筋を離れて伏見に達する。勾配の関係で途中 8 ヶ所に閘門をもち、28 年（1895）には伏見にインクライン（傾斜鉄道）が完成、高瀬川が薪炭・肥料など日用物資の移入ルートに用いられたのに対し、産業物資輸送を目的とする。これにより、大津―琵琶湖疏水―鴨川運河―伏見の全長 20 キロ余の舟運ルートが完成した。〃

鴨川運河は鴨川夷川出合から伏見堀詰までで完成時諸元は以下のとおり。

総延長 4920.48 間 (8945.45m)、うち掘割 3870.38 間 (7036m)、築立 1050.10 間 (1909.09m)。

また平均勾配 1:4000、幅 19.8 尺 (6m)、水深 3.3-3.96 尺 (1-1.2m)。

附属施設は閘門 8 (仁王門・孫橋・三条・四条・松原・五条・正面・七条)、橋梁 40、暗渠 5、筧 3、堰止 3、インクライン 1、船溜り 3。

**現状**

本流は蹴上船溜から蹴上発電所を経由し南禅寺船溜に放水される。

白川としばらく流路を共用して、夷川ダム、夷川発電所を経て鴨川東岸に至り、以鴨川東岸（左岸）を塩小路までは川端通下を暗渠で、以後は開渠となり鴨川を離れて墨染ダムに至る。

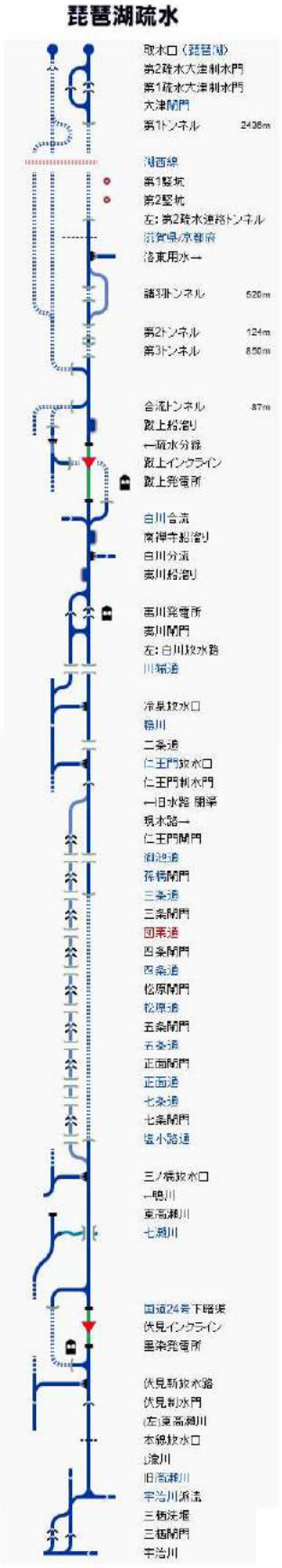
墨染ダムからは伏見インクライン（国道 24 号の拡幅用地に転用され現存せず）を経て伏見区堀詰で旧伏見城外堀の濠川につながり、ここを本線の終点とする。

この先、旧伏見港、三栖閘門を経て宇治川に放水する。もしくは終点やや上流の津知橋付近で疏水放水路・東高瀬川の経路も作られている。

このうち、南禅寺船溜から冷泉の田辺橋の鴨川出合までを鴨東運河と称して開通時のもの、鴨川出合より下流の部分を鴨川運河と称して後の事業によるものである。

高瀬川（京都府）高瀬川（たかせがわ）は、江戸時代初期（1611 年）に角倉了以・素庵父子によって、京都の中心部と伏見結ぶために物流用に開削された運河である。 開削から大正 9 年（1920 年）までの約 300 年間京都・伏見間の水運に用いられた。現在は鴨川において京都側と伏見側で分断されており、上流側を高瀬川、下流側を東高瀬川、新高瀬川と呼ぶ。

# 高瀬川と琵琶湖疏水（鴨川運河）水路図



# 10. 素晴らしいバラの街 「ハウステンボス 」を訪ねました 2012.5.27.

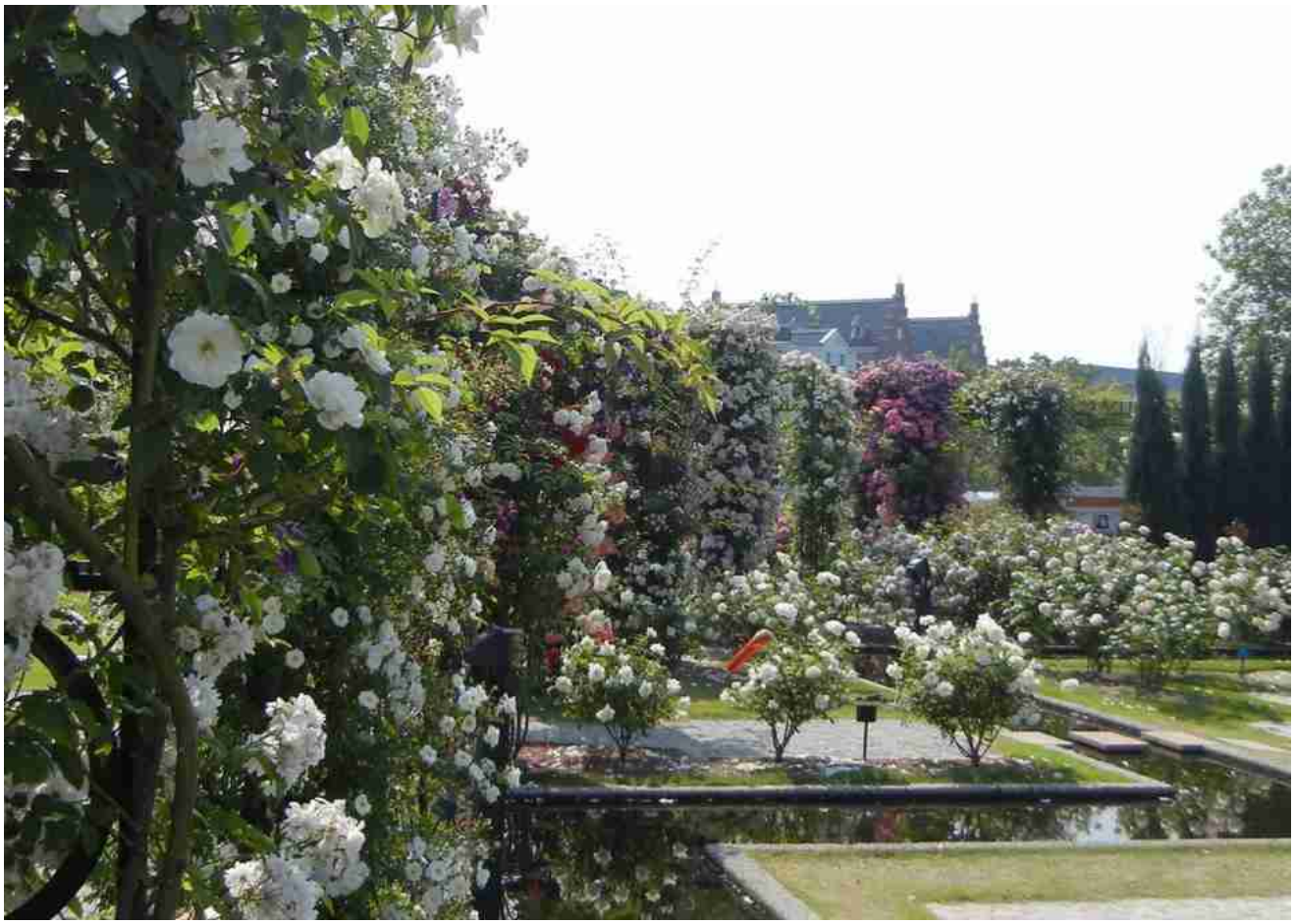
バラの街　ハウステンボス ・ 西の要の軍港　佐世保 ・ 陶磁器の町　有田

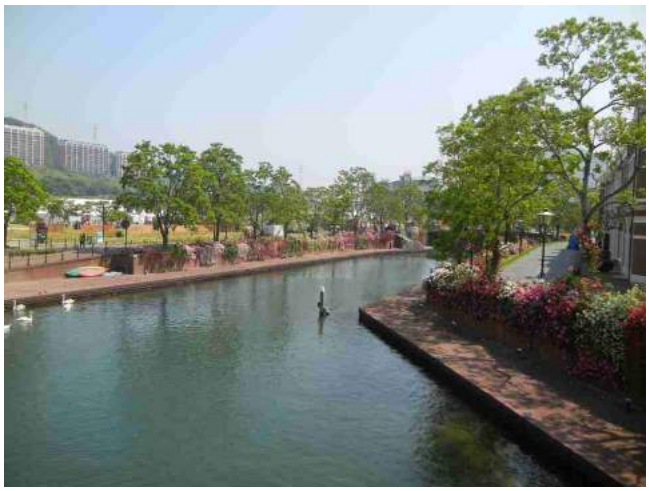
5 月末　山口美祢を訪ねた折　お向かいの黒田さんから 100 万本のバラ祭開催中でバラの花の中に埋まる「ハウステンボス」のスライドを見せていただきながら、素晴らしいハウステンボスの話を聞いた。「日本有数のバラの街　ハウステンボス　山口美祢からは高速道路に乗れば、2 時間半ほどでゆける　そして、いつも　素通りの佐世保の港にも・・・・・」と5月27日早朝　美祢を出て　長崎自動車道をひた走り。佐世保「ハウステンボス」に出かけました。

ハウステンボスが「町中　バラの花があふれるバラの街」とは知りませんでしたが、 バラ園そして　テーマゾーンに立ち並ぶ建物の周り　運河沿いに　手入れの行き届いたバラの花が咲き乱れ街にはバラの香りが漂い、素晴らしかったです。
バラで有名な京成バラ園やほかのバラ園とは圧倒的に植えられた花の量が多く、人の手が入りすぎて、好みとはちょっと違うのですが、すばらしいバラの花園でした。
また、ハウステンボスの域に入るや否や　それまでの日本的な景色がどこにも見えず、すべてがヨーロッパ。日本人はすぐ構成を組み替えるのですが、日本的なものが視野にはいらぬ異文化空間　これも再生ハウステンボスの人気の秘密なのだろう。 本当に気持ちのよい空間でした。

佐世保はどんな街なのか興味深々でしたが、周囲を山々に囲まれた奥の深い湾内。その湾に多くの艦艇がずらっと停泊。フェリー埠頭はあるもののほとんど民間の船は湾内になし。これが軍港か・・・・と。 見たことのない景色でした。 西端に艦艇修理の基地　佐世保重工（造船所）中央が米軍艦隊の基地　手前に自衛隊　西の守りの要です。 造船不況で日本の造船街が次々と寂れてゆく中　造船所の幾つものドックには船がはいり、巨大な建造ブロックがあふれ、活気ある造船所の景色を見るのも久し振り。 商店街も日曜日の午後を楽しむ人でいっぱい。県庁の所在地でないのにこの活気。 佐世保バーガーを待つ若者の列も長い。　ふっと基地経済のすごさを垣間見ました。
有田を訪れたのも久し振り。 街は春の陶器市が終わって　ひっそり・・・・・。 陶山神社に行って深川製陶・香蘭社も健在。ゆっくり陶器を眺めながらの街歩きが楽しめました。 街から少し離れた赤絵の柿右衛門窯へも行けました。
久し振りの九州　初夏の空気をいっぱい吸って　楽しんで帰ってきました。　*2012.5.27.by Mutsu Nakanishi*

# 1. 100 万本のバラ祭　バラの街　ハウステンボス





乗 船 口

# 2.　一度行きたかった佐世保の街　　　2012.5.27.

◎　西の要の軍港　佐世保　　米軍･自衛隊の海軍基地　&　艦艇補修基地　佐世保重工
◎　佐世保バーガー

## 2.1.　艦艇を見ながら　佐世保港沿い　　米軍･自衛隊の海軍基地　&　艦艇補修基地　佐世保重工

米軍基地内の艦艇の写真を撮ろうと中にカメラを向けると　すぐに MP の監視下に　2012.5.27.

佐世保湾の西端　米軍基地に隣接して　佐世保重工の造船所が広がる　2012.5.27.

入港している艦艇を見たくて　湾西端の赤崎山への坂道を登る

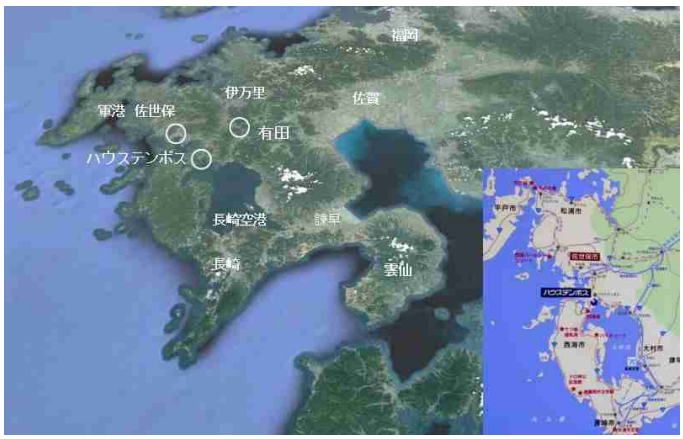
湾西端の赤崎山の山腹から見る佐世保重工　2012.5.27.

## 【　佐世保港の南側　卸売市場跡の埠頭から眺めた　佐世保港の全景　】

2.2.　街の人に教えてもらって　四ヶ町アーケードのそばのバーガーショップ　Big Man へ

「ベーコンエッグバーガー」の元祖「BigMan」2012. 5. 27.

## 3. 陶磁器の街　「有田」を訪ねるのも久し振り　赤絵の柿右衛門窯も訪ねました



陶祖 李三平を奉る
有田陶山神社

香蘭社　本店

春の陶器祭も終わって　静かな陶器の町有田

深川製陶本店

有田　赤絵の柿右衛門窯の里　　2012.5.27.

赤絵の柿右衛門窯　正面　　2012.5.27.

有田　柿右衛門窯の里　　2012. 5. 27.

おわり

From Kobe　2012.8月　11.　ひまわりの夏　2012

暑い暑い夏到来　お互いに体調に留意して　この暑い夏を乗り切りましょう
閉塞感が漂う2012年の夏ですが、ひまわりの顔を見ていると　気持ちも明るくなります。

毎年ひまわりに出会いに行く西播磨佐用町林崎のひまわり畑
今年も千種川が流れ下る河岸段丘一面を多い尽くすひまわりに出会えました。
「今年も来たよ　がんばろう」と思わず　声をかける。
近づくとその一つ一つ個性がある顔が一斉にこっちを向いて「元気やったか・・・」と声をかけてくれる。
これが楽しみ。
今年も　これで　夏が来た。　孫たちも　元気にすくすく　　うれしい2012年　ひまわりの夏です

2012.　盛夏　　神戸にて　Mutsu Nakanishi

西播磨佐用町 林崎のひまわり畑で　　2012.7.18.

西播磨　佐用町林崎のひまわり畑　　2012.7.19

場所は　西播磨佐用町林崎。北から狭い山間を流れ下ってきた千種川の河岸段丘に点在する下野・漆野・徳久・林崎の集落で時期を少しずらしながら　ひまわりが育てられ､7月半ばから8月はじめまで谷筋一面ひまわりの素晴らしい光景が見られる。林崎はそのひとつ。

この千種川が流れるこの一帯は古代　西播磨の製鉄地帯（三河製鉄遺跡群）で古代のたたら跡が幾つも点在し、早春のカタクリに始まり　春は桜・菜の花　夏はひまわり　秋のコスモスが川筋を彩る山里の素晴らしい景色に毎年季節季節に訪れるところである。　久し振りの千種川の流れと山里の景色になんとなく気持ちもやわらぐ。

久し振りの西播磨佐用へ。　今回はひまわり畑とともに地図で見つけた弥生時代からあるという東徳久「天一神社」をみつけること。　古代のたたら製鉄地帯に存在し、名前からすると製鉄神「天目一」との関連がありそうと。

## 古代たたらの郷　佐用
## 千種川流域に咲くひまわり畑と製鉄神「天目一筒神」を祭る「天一神社」を訪ねる

神戸からは　田園地帯を眺めながら　快適に原チャリで、国道 171 号線　三木・小野を経て播磨平野の北縁の丘陵地に入り、青野ヶ原の丘陵地を越えて福崎へ。後は　中国道と併走しながら　山崎断層の中を山崎を経て　佐用へ　3 時間弱の快適な原付ハイク。中国山地の中に分け入り、うっそうとした森林の中　見覚えのある切窓峠をこえると佐用に入り、下三河の集落で北の山間から流れ下ってきた千種川に出合う。　この千種川に沿って下れば、ひまわりに出会える。
下三河から川沿いに出て　少し下って　正面に中国自動車道の赤い高架橋が見えてくると下野の集落。
高架橋のあたりにも古いたたら跡がある。　また　いつもなら　ひまわり畑が川岸に広がっているのですが、
今年は種まき時期が一番最後でまだひまわり畑はつぼみのまま。

山崎/佐用の境　切窓峠

下三河から千種川の川沿いを南へ下ると下野の集落

佐用町下野のひまわり畑はまだつぼみ

この下野には　かつて　たたら製鉄で反映した様子を示すたたら唄が残っている。

西播磨の古代たたらは　当初　この千種川に合流する西の佐用町市街地を流れ下る佐用川流域が中心であったが、採取される砂鉄が高温で粘ばいスラグを作る高チタン系であったため、次第に低チタン系砂鉄が採取出来る千種川本流の千種・下三河にその中心が移ったといい、下野もそんな千種川本流のたたら場で随分繁栄したようだ。

　今は　もうここが古代製鉄の痕跡を示すものはほとんど残っておらず、このたたら唄がその痕跡を示している。

下野がまだひまわりがさいておらず、ちょっと心配しながら中国道の赤い高架橋をくぐって漆畑の集落にはいると、大きくカーブする千種川の川岸一面にひまわりが咲いているのが見みてきた。今年も　西播磨　佐用のひまわりが健在である。

時期的には満開なのですが、、この漆畑のひまわり畑と見る位置が平面なのと花の盛りが過ぎて　まっ黄には見えないので、漆畑の集落は川の反対側　道路際の山の裏側に隠れているのですが、この本村へ入る坂道からひまわり畑全体を鳥瞰することにする。

千種川の川岸　漆畑のひまわり畑　　2012. 7. 19.

漆畑本村の丘の上から　漆野のひまわり畑　　2012. 7. 18.

漆野からしばらく山間を抜けてゆくと広い田園地帯　一面緑の向こうに黄色の部分が見え、幾本もの旗やテントがその際に建っている。　橋を渡ってひまわり畑の側に移り、ひまわり畑を眺めながら駐車場に原付を止めてひまわりに出会いに行く。

千種川が流れ下る北側から　林崎のひまわり畑を眺める　　2012. 7. 18.

佐用町　林原ひまわり畑でみたひまわりの顔　　2012. 7. 18. 【1】

佐用町　林原ひまわり畑でみたひまわりの顔　　2012. 7. 18. 【2】

南側から　佐用町　林原ひまわり畑　全景　　2012. 7. 18.

こんなひまわりにも出会えました

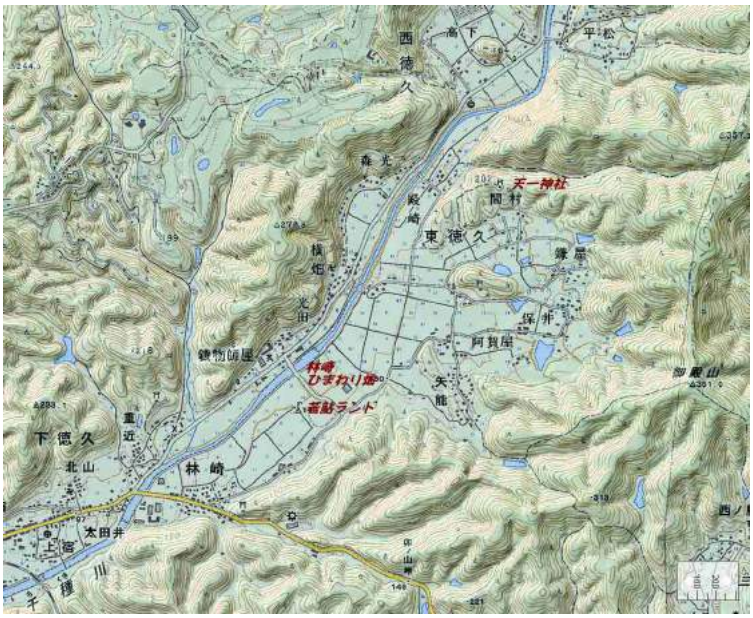
# 《　製鉄神「天目一筒神」を祭る「天一神社」を訪ねる　》

東徳久　千種川の南岸丘陵地にある天一神社

【祭神】天之御中主大神　(配祀)天目一箇神（鍛冶の神）

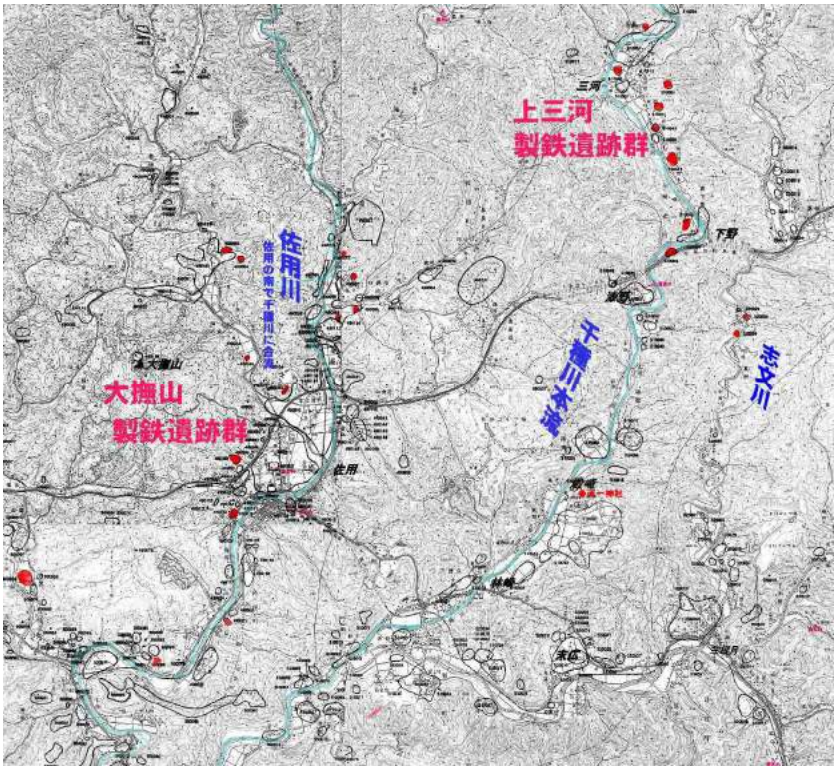
千種川が山間を流れ下り、数多くの古代製鉄遺跡がある古代製鉄の地　東徳久の丘陵地に千種川を見晴らして建つ「天一神社」
この神社は今より約2千年前(弥生時代)に創立された日本でも最古の神社で、宝剣(銅剣)が神體であることは、天智記に「安置御宅」と記され、延喜式神名帳をはじめ多くの古書に登記され有名です。
尚、奈良東大寺戒壇神名帳に「天一天白中頭天王」と天一神社のことが記されています。
社名が示すとおり、本来の祭神は鍛冶関係の天目一箇神と推察される。

インターネットを調べていて、千種川沿いに弥生時代創建と伝えられる「天一神社」のページを見つけました。ひまわり畑のある林崎と漆野の中間東徳久。
位置がはっきりせず、地図で確認すると春カタクリをよく見に行く殿崎の山のようだと知れる。
古代の製鉄地帯の真っ只中である。
下三河製鉄遺跡群が下野で途切れ、下流側に何かあるのではと思っていた時に見つけた「天一神社」である。
この神社の由来はどうもはっきりしないが、御神体の宝剣（銅剣）が天智記に「安置御宅」と記され、延喜式神名帳をはじめ多くの古書に登記されているなど相当古い神社で、また銅剣（県指定重要文化財）は明治二十年頃西徳久の「ゴロウ」と呼ばれる所から発掘され、弥生時代に大陸から渡って来たもので圃場整備の時に数々の土器が発見されたという。(西徳久ごろう遺跡??)。また　近くの縄文・弥生時代から奈良・平安と受け継がれてきた集落　東徳久遺跡からは. 分銅形土製品が出土しており、この千種川沿いの周辺地が早くから開けた土地であった。　千種川上流の「千種」の「種」そして「徳久」の「トクサ」いずれも製鉄関連地名といわれ、こじ付けになってしまうが、古代の製鉄地帯に古くから存在する神社　やっぱりたたら衆の神であったのでは・・・・・と。




なお　この徳久地区から少し南の旧三日月町には『播磨風土記』にこの天一神社の宝剣にも関連すると取れる下記のような話も伝わっている。

昔むかし天智天皇の時代に、今の三日月町末広のあたりを中心とする中川の里に丸部具（まるべのそなう）という人がおった。この人がある所のある人が持っていた剣を買い取ったが、その後不幸が続いて家が亡（ほろ）んでしまった。それから何年もたって、またある人が丸部具の家の跡を畑にしようと掘り返していてこの剣を見つけた。柄は腐ってしまっていたが、刃はピカピカに輝いてまるで鏡のようだったという。さっそく鍛冶屋（かじや）を呼んで剣をつくり変えようと焼かせたところ、剣は蛇のようにぐにゃぐにゃと伸び縮みし、鍛冶屋は驚いて帰ってしまった。これは妖剣（ようけん）だと思い、朝廷に献上してしまった。その後天武天皇の時代（６８４）になって、この剣はまたこの中川の里に送り返されたという。その後はどうなったかはわからない。




西播磨　佐用町周辺の製鐵遺跡（赤印）分布　参考図

林崎ひまわり畑から見る東徳久　天一神社　写真中央から左へ千種川が流れ下る　2012. 7. 18.

何度も出かけたことがある地であるが、天一神社にはいったことがありませんが、林崎ひまわり畑のすぐ北東側　千種川の横にある里山の上のようだ。是非　どんなところか　眺めにゆこう。

ひまわり畑の丘から北側千種川が流れ下る方向をながめると、　ひまわり畑の後ろ田園地帯の奥　千種川に沿って東徳久の集落が広がり、その東岸にまで張り出した枝尾根が見え、その後ろに美しい形の山が見える。この丘の上が天一神社の位置。　また　この美しい山の麓何度も行った殿崎のカタクリ群生地がある。　どうも　最近の地図にはこの天一神社名が記載されておらず、気がつかなかったが、このひまわり畑とは　ほんの目と鼻の先である。

原付を川沿いに北へ走らすと次の橋周辺がもう東徳久で、橋の袂に「天一神社参道」の標識。

今まで　何で気づかなかったのか・・・・と。

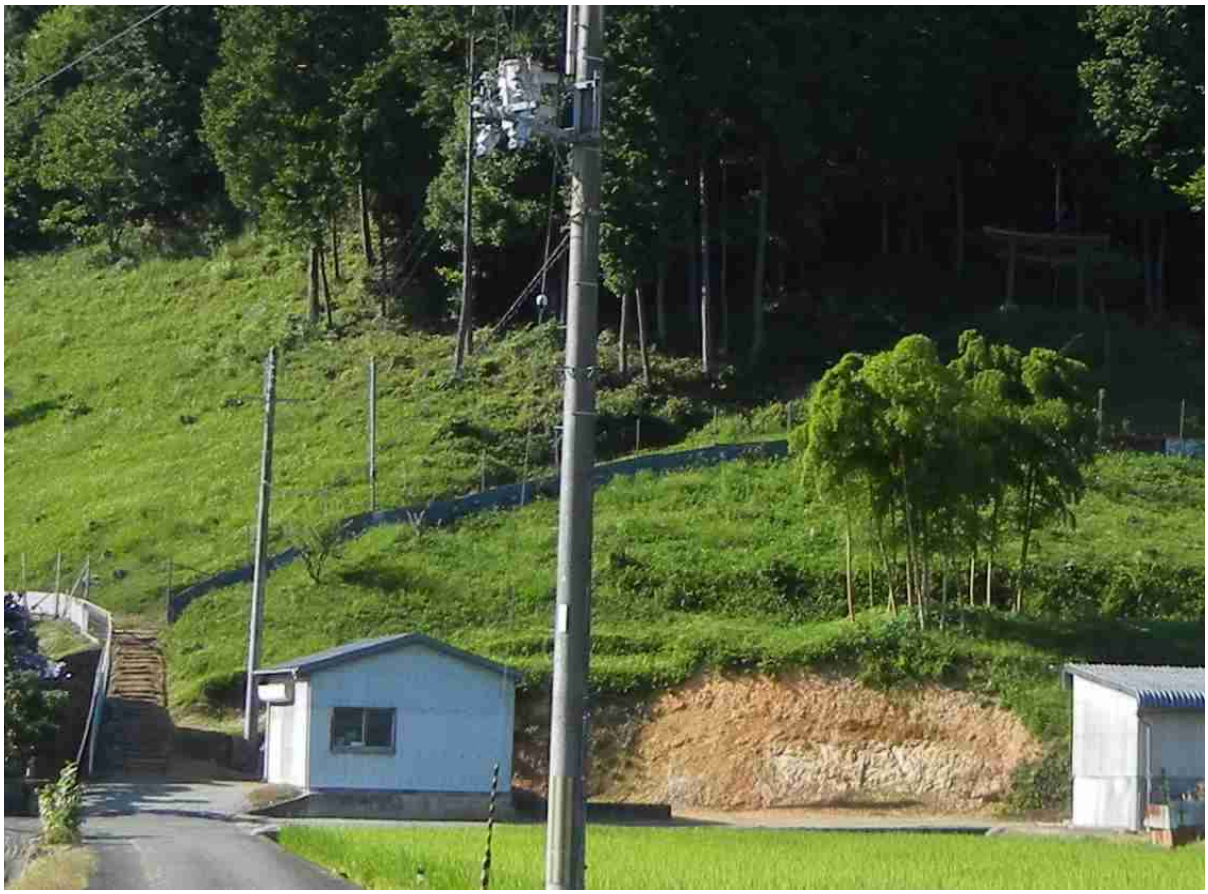
千種川沿い県道 53 号　東徳久の橋の袂より　天一神社の案内標識

橋からまっすぐ山の方に向かう田園の中の一本道を通り抜けると丘で左に分岐する東徳久営農組合の作業場前に出る。
ここにも左分岐への小さな天一神社の案内標識が立っていて、この丘を回り込むと左側に先に見た千種川の岸まで張り出している枝尾根が眺められ、丘との間に整備された畑が段々に並ぶなだらかな傾斜地が奥へとづいている。この傾斜地の山際に人家がポツリポツリと眺められ、ここが東徳久　間村の集落と知れる。
の傾斜地を奥へと続く一本道の左手の枝尾根の一角に樹木がない草地の場所があり、そのそばに数軒家が見え、そこへの別れ道が見える
この山腹の草地の一番上の部分に目を凝らすと木の小さな鳥居が見え、これが天一神社の鳥居でした。

千種川から延びる枝尾根の山際　間村の集落への分岐と園山の中腹に天一神社の木の鳥居

間村の集落から登ってきた道を振り返ると随分下に林崎周辺が眺められた
振り返ると随分下に林崎のひまわり畑や千種川が見え、意識していませんでしたが、随分登ってきたようだ。
また、この位置が千種川の川筋が見晴らせる絶好の位置にあることがわかる。
この分岐のところにも天一神社参道の案内標識がありましたが、夏の暑い日差しに全く人影が見えず。
鳥居は見えるのですが、神社の社殿などは全く見えず。背後の森の中に隠れている。

間村の集落の里山の森の中にある天一神社　鳥居が見える　　2012. 7. 18.



天一神社へと続く参道　参道は猪の囲いとネットで完全に封鎖されていました　　2012. 7. 18.

猪囲いがあって、道が閉じられていて　勝手に外して行くのもいやで　今回は奥へは行けず

参道は猪の囲いで封鎖されていて　たずねる集落の人にも出会えずで、奥の様子も全く予備知識がなしで来ましたので、今回はここで引き返し、出直すことにしました。次回　佐用に行ったときには是非　この山の中に入れてもらおうと。

なお　帰ってインターネットを見るとこの猪囲いを外して鳥居をくぐってゆくと森の中に
鞘屋の中に納まった本殿など社殿や境内の様子を示した写真がありました。

道の上に鳥居

参道途中に書道の神を祀る祠と天神降臨之岩

社殿

本殿の鞘屋

本殿

玄松子の記憶「天一神社」　http://www.genbu.net/data/harima/teniti_title.htm　より

東徳久　天一神社参道より　南西　千種川が流れ下る林崎ひまわり畑を眺める　2012.7.18.

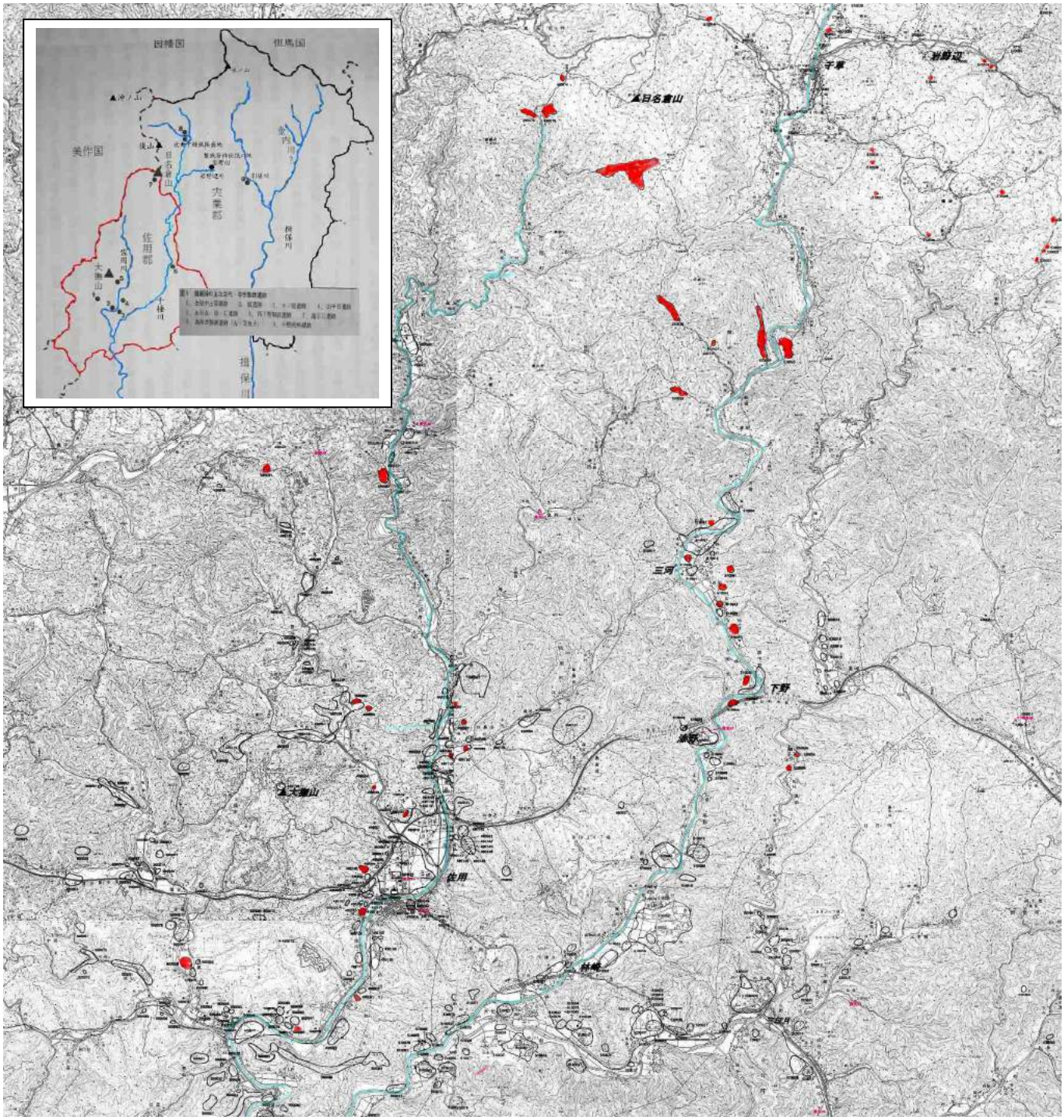
天一神社のある東徳久　間村の集落　　千種川の川筋からも眺められる特徴ある美しい山の形が　この地を選択したのかも

## 【参考】和鉄の道

播磨国風土記和鉄の道【1】　古代製鉄の一大生産地「讃容の里」Walk　　西播磨　佐用町　大撫山製鉄遺跡を訪ねて

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/4iron01.pdf

## 【参考 2】　西播磨　佐用・千種　主要製鉄遺跡分布図



# 12. 須磨 塩屋海岸の洋館 Walk　2012. 7. 9.

梅雨の晴れ間　高倉山-旗振山から塩屋へ下る

梅雨の晴れ間　澄み切った快晴の空　家に居ると じんわり汗が出てきて　家に居る手はない。

先日　家内が言っていた塩屋の洋館が頭に浮かぶ。

須磨の山と海の狭い間を走りぬけ、電車がスピードを緩め、塩屋駅にかかる手前の山の中腹に赤や緑に縁取られた美しい洋館が幾つか建っていて、須磨海岸の美しい景色のひとつ。

かつて神戸の外人たちが好んで住んだ住宅地で、電車からはよく見るのですが、洋館へは行った事はなし。

この洋館のひとつ「グッケンハイム邸」でのミニコンサートがあり、行ってきた家内が「塩屋駅から須磨の方へすぐやった」という。

いつもの散歩コース　高倉山から旗振山から塩屋へ下って塩屋の洋館を見に行こうと。「空が澄んでいるので、明石海峡もきれいに見えるだろう」と 7 月 9 日の午後　家を出て、妙法寺駅から高倉山の縦走路へ入る。　暑いが気持ちの良い Walk。

山の上からは　予想通り明石海峡がくっきりと。また、思いもよらず、大空高く水を噴き上げる山上遊園の噴水を独り占め。顔に当たる水しぶきが　心地よい。塩屋へ向かって森の中の山道をくだり、海が見える出口のところに洋館が建ち並んでいました。いつもは　途中の別れを塩屋の街の方へ道をとるので　この道にはあまり記憶なし。

ぶらぶら　心地よい汗をかきながらの約 2 時間の山歩きでした。

早く家に帰って　ビール　一杯。　もう　夏到来です。

2012.7.9.　午後　　Mutsu Nakanishi

旗振山頂から眺める須磨海岸から神戸市街地　　2012.7.9.

旗振山頂から眺める明石海峡　　2012.7.9.

山上遊園の噴水

旗振山殻眺める須磨海岸・海水浴場

旗振山から　森の中を塩屋へ下ってゆくと　不意に明石海峡の海が見え、山の傾斜地に広がる塩屋の街に出る

須磨　旗振山を下った南西山麓の斜面に建ち並ぶ美しい洋館群　　2012. 7. 9.

グッケンハイム邸　　2012. 7. 8.　　公開日を決めて公開されたり、コンサート・会合など一般に使われている

電車の線路から見上げる赤い洋館

塩屋は　明石海峡を前に　山陽電車と JR とが狭い須磨の海岸ぎわを東西に走り抜け、山腹には美しい洋館が建ち並ぶ神戸スタイルの住宅地。須磨のきれいな景色のひとつ。

電車で須磨周辺を通り抜けるとき　是非　海ばかりでなく、山側にも目を向けてください

# 13. 丹波焼の郷「立杭」　山野草愛好家では有名な「伝市窯」Walk　2012. 7. 10.

7 月 10 日　久し振りに丹波焼の郷「立杭」を訪ねました。
篠山市今田「立杭」　日本六古窯のひとつの焼き物の郷　今では「立杭」というより、丹波焼の名前の方が通りがよい。
この立杭の郷に植木鉢を専門に焼く「伝市窯」という窯があり、山野草などの愛好家では有名らしい。
京朝顔の講習会に行ってきた家内が、そう聞いてきて　植木鉢を買いに行こうという。
植木鉢の前に腕やと思うのですが・・・・

立杭では窯元が共同窯を含め、登り窯で焼くことを売りにしているので、そんな立杭で「植木鉢専門」ということにと興味深々。　植木鉢といえば街の園芸店に行けば　いくらも山済みされているというのに・・・。育てる草花で鉢がかわり、ましてや品評会には登り窯で焼いた鉢がええという。
「ほんまかいな???」と思うのですが、インターネットを除くと高い登り窯の鉢がならび、とりわけガス窯で焼いた鉢も含め、丹波焼「伝市窯」の鉢の人気が高い。　ほんまかいな・・・・と思っていましたが、愛好家の憧れの鉢だそうである。
また　立杭の登り窯が私の知る萩などでよく見る窯と外見がちょっと違うように思えて　それをしっかり確かめようと家内の話に乗って、立杭に出かけました。

箕谷/淡河線の道筋で見た合歓の花　　2012. 7. 10.

私の家からは　北へ山を越えて行けば、約 1 時間ほど。
山に取り囲まれた細長い盆地の緑の中の山際に幾つもの窯元が軒を連ね、登り窯の煙突が幾つも見え、田園を挟んだ反対側には陶芸美術館や陶芸の郷の建物が建つ四季折々に美しい田園風景が見られ、
道筋の山の緑を眺めに何度も訪れたことがある。道すがら　山の合歓の木が花をつけ、素晴らしい。

遠目では　なんや　この花と思うのですが、アップで写真を撮るとビックリするほど美しい。

　箕谷・淡河・吉川・そして大川瀬へと北にまっすぐ山を越え、大川瀬のダム堰堤を眺めながら舞鶴若狭高速道路の高架をくぐると立杭の盆地の中に下る南の入口三本木峠。峠を下ると緑の田園の中　見慣れた立杭の風景が見えてくる。

いつ見ても美しい陶芸の里　立杭の風景である。

窯元の立ち並ぶ立杭のやきもの通りは車が置けないので、反対側の山際の丘の上にある陶芸の郷に車を置いて歩くことにする。

陶の郷から眺めた　丹波焼の郷　立杭　　南北に盆地を貫く街道筋の山際に登り窯が幾つも見え、窯元が並ぶ

陶の郷から眺めた　丹波焼の郷　立杭　　山際に登り窯が幾つも見え、細い一本道　焼き物通りに窯元が並ぶ

丹波焼の郷　立杭　　山際に登り窯が幾つも見え、細い一本道　焼き物通りに窯元が並ぶ

写真中央左に茶色の屋根が奥へ伸びているのが見える。これが立杭で一番古くて大きい登り窯（共同窯）で、その前を左から右へ南北に焼き物通が通っている。インターネットで調べると「伝市窯」は共同窯の右側に見える大きな木のある森が稲荷大明神でその横を奥に入ったところである。

陶の郷に車を置いて共同窯の横の稲荷の森を目印に　まっすぐ正面の街並みに向かって歩いてゆく。

正面の山際立杭の街へ向かうが北側には盆地の中を川（四斗谷川）が流れくだり、山裾に陶芸美術館　美しい田園風景

立杭の里を南北に貫く街道　県道 292 号を横切り　すぐ南側坂道の入口にやきもの通りの案内板　　2012. 7. 10.

県道 292 号線の脇から、立杭の町並みの中へと続くやきもの通り入口の坂を登る。

この坂道の上　道に沿って　窯元が建ち並び　やきもの通りの名前がつけられている

ふと　足元を見るとこげ茶色の丹波焼の陶板が埋められていて、このやきもの通りの道筋の目印になっている。

日本６古窯　焼き物の街　立杭　　やきもの通り

坂から立杭の町並みに入ると通りに面するショウウィンドウには丹波焼が並べられ、隣には渦高く薪が積まれた窯場、そして山腹の傾斜を利用した登り窯とその煙突が幾つも見え、陶芸の郷の町並みが続いている。

このやきもの通りを少し北に歩くと、陶の郷から眺めた大きな共同の登り窯の前に出て、登り窯が山腹に伸びている。

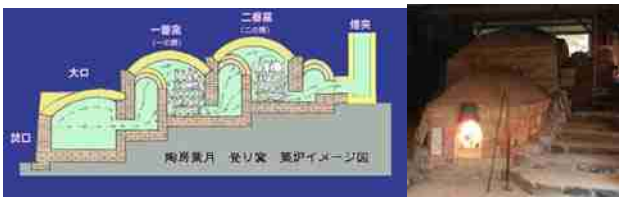
随分長い巨大な登り窯である。

又、手前の窯元のところにも長い登り窯が見える。そして　これらの登り窯の隣向こうが稲荷大明神の森で、境内にある大きなアベマキの巨木が、森のように見えていたのです。

大きな登り窯が通りの山側に見える稲荷大明神周辺のやきもの通り　中央写真が立杭の登り窯で一番古いもののひとつ　共同窯

目指す「伝市窯」はこの稲荷大明神のすぐ横。すぐ場所が知れたので、まず　私の興味　この立杭の登り窯を眺めに行く。
ほんとうに長い窯。私の登り窯のイメージと少し違うので興味津々。

以前から気になっていた立杭の登り窯で　全長47m 9袋の登り窯。
この立杭の登り窯では薪を横から投げ入れ燃焼させる部分とその後ろに焼き物を詰める窯詰め部で構成された燃焼室（「袋」というのだそうだ）が幾つも　縦に連結されてひとつの登り窯を構成している。
「袋」ひとつが長いなぁ・・・・・・。　そして　窯の横に幾つも並ぶ窓も気になる。
　私の知る登り窯は萩焼窯元などで見た連房式の登り窯で、は一区切りの燃焼室を「袋」とはいわず「房」と呼び、
このドーム状の大きな燃焼室に薪を投げ入れる燃焼部と窯詰め部がコンパクトに収まり、次の房のドームが一部乗っかる形で連結されているので、長さはそれだけ短かくコンパクトな長さになっている。




「袋」が繋がる形の立ち杭の登り窯　　連房式の登り窯

丹波立杭登窯　萩焼の登り窯（連房式の登り窯）などと違う独特の形に　構造が気になっていましたが、今回内部構造を理解しました

インターネットを調べると「陶の郷」の登り窯の窯焚きの様子を伝える写真も見つけました。
立杭の登り窯の横から薪を投げ入れる窓が長く幾つも並んでいるのが、ちょっと不思議だったのですが、構造がわかって疑問が解けました。

立杭　陶の郷の登り窯　http://yutorebian.exblog.jp/14448904/

**丹波焼**　丹波立杭陶磁器共同組合　tanbayaki.com

丹波焼　登り窯の構造より
http://www.tanbayaki.com/2012/top7history18.shtml　より

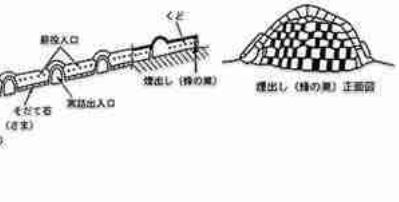
## ・登り窯の構造

登り窯の築造は、山麓の傾斜地に「そだて石」とよぶ石を並べて基礎とし、割り竹を縄で編んだものを支えとして、両側から「まくら」を半円形に積み上げます。このまくらは、山土を型に入れてこしらえた立方体の日干し煉瓦(れんが)で、現在では鉄板を支えとして積まれることが多いようです。
このとき出入り口や燃料の投入口も設けられ、最後に「ごぢん」とよぶ窯内部の床を厚く塗り固めて完成します。

窯は、焚き口のある「火床」に続いて焼成室が連なっていますが、火床に続く第一焼成室と「くど」とよぶ最先端の焼成室を除く、中間の焼成室の長さはほぼ均等です。この焼成室は「袋」とよばれ、それぞれ下端に出入り口が設けられています。
焼成室である袋と袋の境界には2～4本の柱が設けられ、天井を支える役目をしています。これを「火がき」「火越し」あるいは「さま」とよびます。

窯の先端部のくどには煙出しが設けられ、これは「くど先」「火さき」あるいはその形から「蜂の巣」とよばれています。しかし、最近ではこの火さきに煙突を取り付けたものがほとんどとなり、蜂の巣から吹き出される真っ赤な炎の美しさが見られなくなりました。

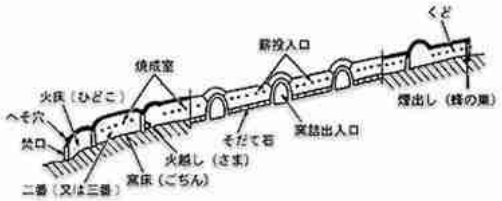
窯の長さは焼成室(袋)の数によりますが、現存する最古の窯として兵庫県の重要民俗資料に指定されている上立杭の登り窯は、明治28年に築造された長さ47メートル、袋数9の窯で、よく古様を保って使用されている代表的な登り窯といえます。かつて多数の袋をもつ登り窯は、いずれも共同窯として使用されてきましたが、昭和40年代に入るころから個人窯が普及し始め、製品の小物化とともに窯の規模も2～4袋と小型化しました。



**丹波焼**　丹波立杭陶磁器共同組合　tanbayaki.com

## 登り窯による焼成

http://www.tanbayaki.com/2012/top7history19.shtml　より




### ・窯入れ

成形・釉(くすり)掛け及び乾燥が終わると、製品は窯場に運ばれて焼成室に入れられます。共同窯時代には「かまやかご」とよぶ竹かごに入れて窯場まで運びました。焼成室に入れる「窯入れ」は、製品を輪台の上に置いて窯床(ごぢん)に並べます。小物は、大きなものの中に入れたり、また、サヤ(ゴウともいう)とよぶ器に入れたりします。製品を重ねて置く場合は、接続部分にモミ灰をつけたり、土を小さく丸めてモミ灰をまぶした「ハマ」とよぶ玉を間にはさみます。 この窯入れが終わると、入り口は「まくら」でふさがれ、粘土で密閉されます。

### ・窯焼き(窯焚(た)き)

焼成である「窯焼き」は、まず「ぬくめ(あぶり)」から始まります。このぬくめは、温度を徐々に上げていく窯焼きの最初の段階です。昭和30年ごろから、ぬくめの燃料に重油が用いられることが多くなりました。

窯の規模によって一定しませんが、ぬくめの作業が30～40時間経過すると、袋の中の炎は上方へ上がり、各袋に設けられている両側のアナから、燃料の松割り木を次々と投入する本焼きに入ります。こうして室内の温度は約1,300度に達します。

この焼成に要する時間は約60時間で、昼夜兼行で作業が行われます。

登り窯の数倍を要した穴窯による長時間の焼成は、緑色または鳶(とび)色を帯びた自然釉の美を生み出しましたが、登り窯における焼成は、燃料である松の灰と入口釉との融合によって、鮮やかな窯変美を生み出すのです。

### ・窯出し

窯焼きが終わると、焚き口や燃料の投入口であるアナは粘土で密閉され、約一昼夜の冷却時間を置いて「窯出し」すなわち焼成品の取り出し作業を行います。

窯入れからこの窯出しまではほぼ一週間を要しますが、現在ほとんど全面化した個人窯の場合の所要時間は若干短くなっています。

この大きな共同登り窯の北隣が稲荷大明神の境内で、この境内の塀に沿って北へ入る道があり、そこに「伝市窯」がありました。　又、この稲荷大明神の前　東側がオープンになっていて、田園の向こうに車を止めた陶の郷や陶芸館が見えている。

やきもの通り　稲荷大明神の巨木アベマキ　その横の細い道を山側に入ったところに「伝市窯」がありました

稲荷大明神前から　東側　田園や川の向こう側に左　陶芸美術館　右　陶の郷　　2012.7.10.

稲荷大明神の境内の塀に沿って北へ入る道を入った右手が「伝市窯」

「植物にやさしい鉢」それが「伝市鉢」　山野草愛好家から絶賛の人気を呼ぶ

植木鉢なんて…と思っていましたが、　植物を育てる鉢としてのこだわりが　「伝市鉢」の真骨頂

土・配合・形　そして　焼成　それらすべてに　伝市鉢の創意工夫が注ぎ込まれている

ちなみに多用途の焼き物の流用や土や形の流用では　植物は腐ったり・枯れたり　すくすくとは育たないと・・・・

揺ぎ無い工夫と自信が「植物にやさしい鉢」を生み、　それが山野草愛好家から絶賛の人気を呼ぶ

80を超えたお歳とは　思えぬ　焼き物への情熱とあくなき挑戦　　びっくりの陶芸家さんでした

伝市窯の窯元　市野伝市氏は　本当に気さくな方で、植木鉢を焼く魅力
そして　窯焚きの魅力を次から次へと話してもらいました。
陶芸家というより、根っからの陶芸の職人さんといった感じの方でした。

また、話している途中で、ひっきりなしに　注文の電話　それも　何ヶ月も待たねばならぬ登り窯で焼いたもの・・・ビックリ。家内もすっかり気に入って、訪れた記念写真も取って、朝顔仲間のも含め、朝顔用の植木鉢を沢山買い込みました。

伝市窯　市野伝一さんの作陶風景

インターネットで見つけた伝市窯の登り窯

伝市窯の植木鉢は底の穴が大きく植木鉢そのものの通気性も良く草花の根が腐りにくく、良く育つのだそうだ。
「丹波焼が植木鉢に良いのであれば、みんな　作りそうですよね」というと、
笑いながら「器の土そのままで焼いたら　草花みんな枯れてしまう。
配合・形・大きさ　みんな草花にあうよう長年　工夫している。
そやから　鉢の底には「伝」の印が押したぁる　」と自信に満ちた答え。
そらそうやなぁと。
そんな間にも　植木鉢がひとつ出来上がりました。

80 歳を超えた人とは思えぬ元気な方で、ろくろを回す作陶のすぐそばで写真を取らせてもらったり、また買った植木鉢も自ら梱包してもらいました。

ビックリの陶芸家さんですが、こっちの気分も爽快
手ひねりで　植木鉢専門に作る陶芸家さんが折られることにもビックリしましたが、植木鉢一つ一つに込めた陶芸の技　知らぬ世界でしたが、ここにも「日本のものづくりの技」があると・・・。
「今度立杭に来たら又　訪ねよう。」と。
エネルギーをもらって　伝市窯を後にしました。

求めた伝市窯の植木鉢　もっとも　登り窯のものではありませんが・・・

2012.7.10.　by Mutsu Nakanishi

## 《 追伸 》

7月末になって　朝顔が咲き出しましたが、
伝市窯の鉢に植え替えた朝顔はまだ咲かず。

植え替えると　花が咲くのが遅れるようですが、
花芽が一杯ついているので、まもなく咲くでしょう。

【参考】

◎　Country Walk 風来坊　2008
新緑の里山をぬけて　日本6古窯の一つ　陶芸の郷　立杭へ　　2008.4.16.
【PDF 写真アルバム】2008 新緑の里山をぬけて　陶芸の郷　立杭へ
http://infokkkna.com/ironroad/2008htm/2008walk/7walk07.pdf

◎　Country Walk　風来坊　2011
初窯・本焚きの見学記　2011.1.15.
山口市吉敷　萩焼陶芸家 田中講平さん自作の登り窯
http://www.infokkkna.com/ironroad/2011htm/walk8/1103tnkahatsugama00.htm

◎　萩焼 陶房葉月　田中講平さんのホームページ　http://www.k2.dion.ne.jp/~hazuki/

■　陶房葉月 登り窯築造日記
http://www.k2.dion.ne.jp/~hazuki/daybook/daybook00.htm

14.

# 祇園祭 2012　宵山 & 巡行の朝　鉾町を歩く　2012. 7. 16. &7. 17.

2012.　7. 16.　& 7. 17.　京都　祇園祭

祇園祭が近づくと　やっぱり気になってくる。　昨年は宵山と巡行を孫たちと一緒に出かけたので、今年はどうしょうか??と思っていたら、「祇園祭は巡行の朝　朝一番に起きて鉾町を巡るのが一番風情がある。祇園祭をゆっくり味わうにはいい。　お勧め」と聞く。

宵山　巡行それぞれ　祇園祭のよさがあるのですが、巡行の朝　鉾町を巡ったことはなし。

◎　すごい人出を書き分けて、コンチキチンの囃子を聴きながら、狭い鉾町の通りを巡って　提灯に灯の入って一層鮮やかになった「動く芸術品」山鉾の豪華な飾り付けや、それぞれの鉾町の会所に飾られた巡行時に山鉾に乗りこむ御神体や晴れの装飾品をを見て歩く宵山の楽しみ。

また、宵山の鉾町では　鉾町を支えてきた商家や旧家が家の玄関先にそれぞれの家が伝え持ってきた屏風や衣装などの家宝を飾り付け、鉾町を歩く人達に見せる屏風祭りの伝統もまだ、残っている。

◎　また、翌日の巡行では　山鉾はそれぞれ宵山の装飾から、重文に指定されている装飾も含め、動く芸術品と呼ばれる巡行 晴れの装飾に纏変え、長刀鉾を先頭にコンチキチンの囃子に合わせ都大路を巡行する。

京の都ならではの豪華-みやびの絵巻物である。

鉾町旧家　宵山の屏風祭り

会所に飾られた山鉾晴れの飾り

八坂神社境内で奉納された石見神楽

そんな宵山・巡行とは違った巡行の鉾町の朝　　6 時過ぎ　昨夜の喧騒がうそのような山鉾の周りには　鉾町の人達が集まってきて、巡行のスタートに間に合うよう山鉾の衣替えが行われる。鉾町全体が早朝　早起きして、準備に加わる。

山鉾の周囲にめぐらせた提灯や囲いが取り払われ、山鉾が纏っていた宵山の衣装が手際よくはずされ、今度は順次　巡行晴れの衣装に着替えてゆく。

宵山では　会所の中に飾られていた胴掛け・水引・前懸・見送りなどの装飾が、手際よく纏いつけられ、骨組みの随所に飾り金具がつけられ、最後に御神体とその飾りが乗せられる。　ちょっとでも　どれもこれも傷を付けてはならぬ芸術品　細心の注意を払いながら、鉾町の人の手で付け替えられてゆく。

狭い通りで繰り広げられるこの作業に　「こないなってたんや」「こんなものもあったんや」と　すぐそばで見る作業に新た

な発見が・・・・。
なんといっても一番は　鉾町の人達と並んで言葉も交わしながら　山鉾晴れの衣装替えがすぐそばで、たっぷりと見られる。
そして、　巡行に加わる鉾町の人達も衣装替えを済ませて　順次集まってくる。
この山鉾の先頭に立ち　公事改めの大役を引き受けた人は　口上の練習に余念がない。
こんな光景が　それぞれの鉾町　いたるところで　繰り広げられている。

巡行の朝　鉾町では　早朝から山鉾の装飾替え　巡行晴れの装飾に

何百年　この姿は同じ、晴れの巡行を陰で支えてきた鉾町の代わることのない巡行朝の姿なのだろう。
そして　朝九時過ぎ　晴れの衣装を纏った山鉾が　順次　晴れの行列を組んで鉾町を出て、集合場所の四条烏丸へ。
四条烏丸周辺ではコンチキチンの囃子も華やかに集まってきた山鉾が巡行順に並んでゆく。
ここでは　もう　巡行がはじまっていると・・・・・。
また、宵山では　祇園さんへ行くと境内の舞台で石見神楽が演じられていて　毎年奉納されるのだと聞く。
そういえば　祇園さんの祭神はスサノオ　出雲　鉄の神さん。
古事記編纂 1300 年　京都では 7 月末から大出雲展が国立博物館で開かれている。今年は歴史の年でもある。

そんな　祇園祭の宵山と巡行の朝の山鉾周辺　鉾町の姿のスナップをまとめて　スライド動画にしました。
こんな　祇園祭の楽しみ方もあるのだと・・・・。
もう　祇園祭はみんな見たと思っていましたが、行くと又　新しい楽しみが・・・・・

2012.7.17.　　京都で　祇園祭の爽快感を味わいながら
Mutsu Nakanishi

準備が整うと　それぞれ山鉾行列が鉾町を出て　集合場所の四条烏丸へ

四条河原町で

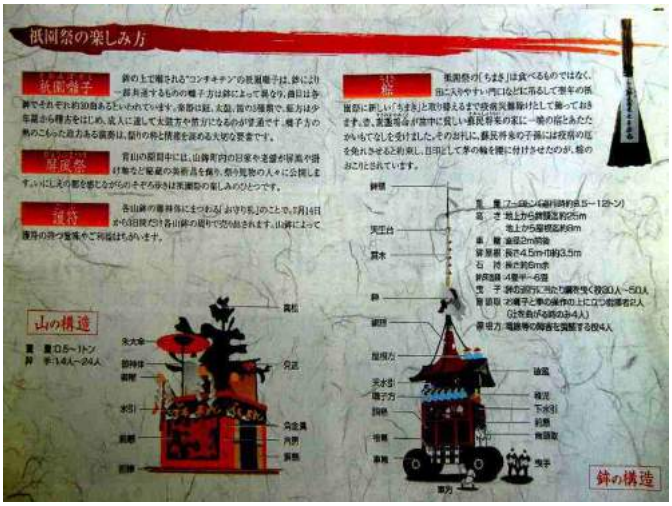
四条西洞院周辺　菲EL山・月鉾　遠く奥に長刀鉾が見える　2012.7.16.夕

宵山の鉾町の会所には　御神体や巡行時　動く芸術品 山鉾を飾りつける晴れの装飾品が飾られる

前懸・胴掛け・見送り・水引など
重文を含め、いずれも伝統工芸を凝らした芸術品である

太子山会所に飾られた
太子山の装飾品

祇園祭の宵山　2012.7.16.夕
宵山では鉾町の家系の女関に飾られる豪華な祭具や京都などその家の家宝を納めて飾るのも楽しみ


祇園祭の楽しみ方

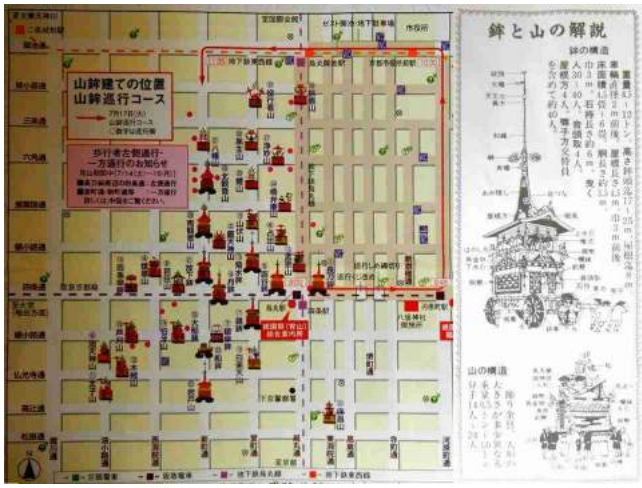
祇園囃子
鉾の上で囃される"コンチキチン"の祇園囃子は、鉾により一部共通するものの囃子方は鉾によって異なり、曲目は各鉾でそれぞれ約30曲あるといわれています。楽器は鉦、太鼓、笛の3種類で、鉦方は少年最小の種方をはじめ、成人に達して太鼓方や笛方になるのが普通です。囃子方の熱のこもった迫力ある演奏は、鉾の粋と情趣を深める大切な要素です。

屏風祭
宵山の期間中には、山鉾町内の日家や老舗が屏風や掛け軸など秘蔵の美術品を飾り、祭り見物の人々に公開します。いにしえの都を感じながらのそぞろ歩きは祇園祭の楽しみのひとつです。

護符
各山鉾の御神体にまつわる「おぼり札」のことで、7月14日から3日間だけ各山鉾の周りで売り出されます。山鉾によって護符の種類やご利益はもちろいます。

山の構造
重　量 0.5～1トン
幹　手 14人～24人

鉾の構造


山鉾建ての位置
山鉾巡行コース
歩行者左側通行・一方通行のお知らせ
鉾と山の解説
鉾の構造
山の構造

油小路　油天神山

油小路　油天神山

油小路　油天神山

油小路　油天神山
油小路　太子山会所前

油小路　太子山

宵山の鉾町の会所には　御神体や巡行時　動く芸術品 山鉾を飾りつける晴れの装飾品が飾られる

前懸・胴掛け・見送り・水引など
重文を含め、いずれも伝統工芸を凝らした芸術品である

太子山会所に飾られた
太子山の装飾品

油小路　太子山会所前

西洞院通　蟷螂山

西洞院通　蟷螂山

西洞院通　蟷螂山

西洞院通　蟷螂山

新町通　放下鉾

新町通　南観音山

新町通　南観音山

新町通　南観音山

西洞院通と錦小路通の角　霰天神山

室町通　菊水鉾

室町通　山伏山　　鼻　菊水鉾

室町通　山伏山

室町通　山伏山町家（


室町通　鯉山

室町通　鯉山から黒主山へ

室町通　黒主山

室町通　黒主山の会所内　由来の解説

室町通　黄金の鯉が3匹いるという

黄昏の鴨川　川床で大勢の人が楽しんでいる

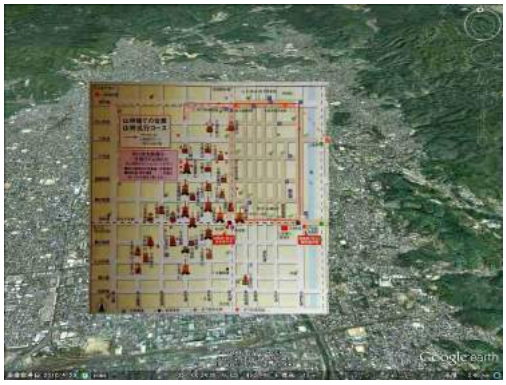
歩行者天国になった四条通　祇園石段下

歩行者天国になった四条通　祇園石段下

石見神楽
素盞嗚尊を祭神とする祇園八坂神社　石見神楽が奉納されていた
一度直に見たい石見神楽「大蛇」も奉納されるのですが、一番最後　今日は断念する

四条通　長刀鉾

四条烏丸　函谷鉾


Google earth

巡行の朝　6時半

陽がのぼりはじめると　各鉾町で、山鉾の飾り付けがあわただしく始まる。

提灯がはずされた山鉾に　晴れの巡行のため　会所に祭られていた御神体や数々の装飾品が飾り率けられる。

人気の菊水鉾も巡行の準備が始まった
天空に輝く黄金の菊花から車輪まで
全体がすぐそばで見られました

宵山の飾りがはずされ、巡行晴れの飾りに

新町通　放下鉾

昨夜の新町通　放下鉾周辺

新町通　南観音山

昨夜の室町通　山伏山周辺

昨夜の室町通　山伏山周辺

見送り套飾る

御神体套山に乗せる
山伏山町家

下田

山伏山

準備のできた菊水鉾が巡行集合場所の四条烏丸へ鉾町を出てゆく

室町通　菊水鉾の後ろ側

菊水鉾

菊水鉾
猪田商店

四条通の角で巡行の順番を待つ

四条烏丸　月鉾

太子山

伯牙山 と 木賊山

菊水鉾が四条通に出てきた

四条通に出てくる菊水鉾の後ろで辻回しをする放下鉾

四条通に出てくる菊水鉾の後ろで辻回しをする放下鉾

室町通から出てきた鶏鉾

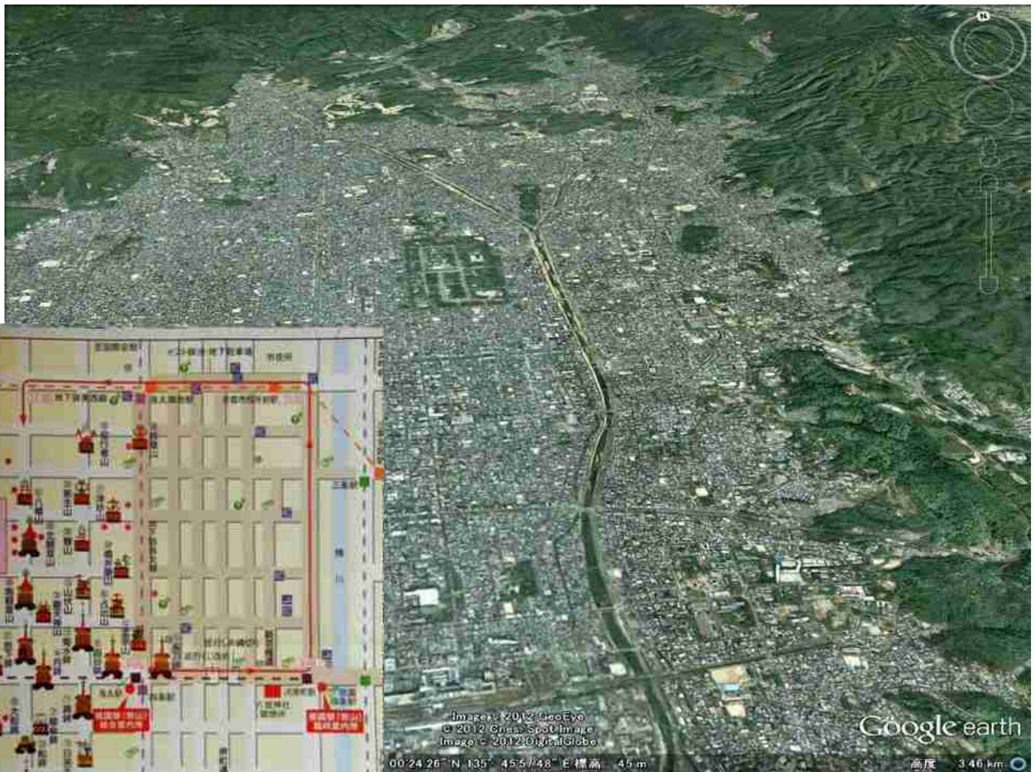
鶏鉾の辻回し

鶏鉾の辻回し

鶏鉾の辻回し

蛸薬師通を烏丸まで出てきた橋弁慶山

北の烏丸通から四条烏丸に入る山伏山


Google earth

山鉾建ての位置
山鉾巡行コース

# 15. かつては「尼の喧嘩祭」として有名な尼崎貴布禰神社夏祭り〔宵宮〕

50 数年ぶりだんじりと暴れ太鼓の宮入　　2012. 8. 1.

50数年ぶりに　尼崎貴布禰さんのお祭り〈宵宮〉見物に行きました。

「祭りが最近復活　盛り上がって楽しい祭りになった。
昔の興奮そのままや」とよく聞くようになった。

昨年夏　阪神電車の窓から多くの人波に囲まれて
巡行するだんじりを見て、だんじり祭り復活の期待で
今年はぜひにと・・・・。

8月1日夕　阪神尼崎から西へ　だんじりを捜して
古いレトロの面影が残る町並みへ
囃子の鐘の音が聞こえてくると早足に・・・・

「おーた おーた おーた（追った）」
掛け声とともに　夕日の町並みを行くだんじり

「打ちまぁ～しょ　シャン　シャン　シャン
もうひとつせ　シャン　シャン　シャン
祝うて三度　」

祝うて三度の後は手をうたぬのが尼崎流。

もう　子供の頃にタイムスリップ
「always 三丁目の夕日」の世界にどっぷり・・・・

〔「尼崎貴布禰神社夏祭 だんじりと暴れ太鼓の宮入 2012.8.1.」
デジカメ写真とデジカメ動画を抜粋編集しました

祭りはその場に居た者　見た者しかわからん　といいいますが、
デジカメで　動画を交えながらぱちぱちとだんじりの動きをとりました。
なんせ　夜で　しかも途中で夕立にも見舞われ　まともな写真ありませんが、
無手勝流に　スライド動画・コマ落とし動画に編集しました。

どこまで　つたわるか　心配ですが・・・・・・
厳しい昨今　元気な声があふれた祭り
気持ちがハイになってもらえれば・・・・・

《 だんじり暴れ太鼓宮入
動画・写真アルバム　file 》

| A. | B | C. |
|---|---|---|
| 宮入をめざす　だんじりの巡行 | 旅已の暴れ太鼓宮入　暴れ太鼓事納 | だんじりの宮入　抜粋 |
| VIDEO WMV 動画 | VIDEO WMV 動画 | VIDEO WMV 動画 |
| PDF | PDF | PDF |

《 個々のだんじり　宮入動画・写真アルバム 》

だんじりの項のボタンをclickください　openします
左上の動画をストップさせ、音を消してごらんください

| | 1. | 2. | 3. | 4. | 5. | 6. | 7. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| だんじり | 中在家 | 北出屋敷 | 西桜木町 | 東桜木町 | 新三和 | 西町 | 南出屋敷 |
| VIDEO | VIDEO WMV 動画 | VIDEO WMV 動画 | VIDEO WMV 動画 | VIDEO WMV 動画 | VIDEO WMV 動画 | VIDEO WMV 動画 | VIDEO WMV 動画 |
| PDF | PDF | PDF | PDF | PDF | PDF | PDF | PDF |

# 《貴布禰神社夏祭り　宵宮　写真アルバム》

## かつては「尼の喧嘩祭」として有名な尼崎　貴布禰神社夏祭り　2012.8.1.

## . 50 数年ぶり だんじりと暴れ太鼓の宮入

*50数年ぶりに 尼崎貴布禰さんのお祭り(宵宮)見物に行きました。*
*「祭りが最近復活 盛り上がって楽しい祭りになった。 昔の興奮そのままや」とよく聞くようになった。*
*昨年夏の夕 阪神電車の窓から 多くの人波に囲まれて巡行するだんじりを見てだんじり祭り復活の期待で今年はぜひ見に行こうと。*

かつては 阪神間で一番荒い喧嘩祭り「だんじりの喧嘩」で名を馳せた祭り。
子供の頃はほんとうに楽しみな祭りで、 だんじりとだんじりがぶつかり合う山合わせ(だんじりのケンカ)が楽しみで、
だんじりの後を追い、また、辰巳の暴れ太鼓みこしが来ると だんじりも道を空けて逃げる辰巳の太鼓も鮮烈な記憶。

高度成長期 尼崎の発展と共に 交通環境の変化や事故の多発で規制され、面白くなくなったと言われるようになり、
私も神戸に移った事もあって、祭りの日も忘れて、いつも頭の中にはあるのですが、長いこと見に行ったことなし。
でも 尼崎の仲間が集まると いつも「貴布禰さんのだんじり」と「野球 強かった高校野球とタイガース」が話に・・・・・。

8月1日夕 阪神尼崎から西へ だんじりを捜して 古いレトロの面影が残る町並みへ 囃子の鐘の音が聞こえてくると早足に・・・・
囃子の音と「おーた おーた おーた (追った 追った)」の声とともに 夕日の町並みを行くだんじり。
祝儀を貰って 手締めの声が響く
*「打ちまぁ～しょ シャン シャン シャン もうひとつせ シャン シャン シャン 祝うて三度 」*
祝うて三度の後は手をうたぬのが尼崎流。節回しも大阪とは違う
もう 子供の頃にタイムスリップ 「always 三丁目の夕日」の世界にどっぷり・・・・

「おーた おーた おーた(追った)」
掛け声とともに 夕日の町並みを行くだんじり
祝儀を貰って 手締めの声が響く
「打ちまぁ~しょ シャン シャン シャン
もうひとつせ シャン シャン シャン
祝うて三度 」
祝うて三度の後は手をうためのが尼崎流。

もう 子供の頃にタイムスリップ
「always 三丁目の夕日」の世界にどっぷり・・・

2012.8.1.夕刻 宮入に向かうだんじ巡行

夕闇の中で辰巳の太鼓御輿に出会う。 赤い烏帽子をつけた打ち手が太鼓をうち、ゆっくりと右左に振りながら進む。
この御輿が暴れだすともう止らない「暴れ太鼓」。 50年数年ぶりの再会。
この格調あるゆっくりとした巡行が突然 暴れだす。子供心に恐ろしい辰巳の太鼓の記憶がある。

今は街中で この暴れぶりは見られないが、宮入の中で、神前奉納として この暴れぶりが披露された。
打ち手が乗ったまま、御輿が右に左に横転する。「打ち手は転がされている間も太鼓を打ち続ける」
「神輿は荒く扱えば 扱うほど神様が喜ぶ」と言いますが、その暴れっぷりの迫力は中途半端じゃない。
辰巳の暴れ太鼓 昔のままやと。

宮入へ向かう辰巳の暴れ太鼓みこし

宮入して境内で暴れ太鼓ぶりを奉納する辰巳の太鼓　2012.8.1 宵宮

真っ暗になった境内に7台のだんじりが順番に「宮入」し、御祓いを受けたあと、だんじりの前方棒鼻を天高く傾け、
山あわせ・合戦のポーズをとりながら、だんじりを廻す。そして　だんじりを正面に戻して　境内端のこの夜の居場所に収まる。

早いリズムの囃子で行ったり来たり、だんじりの屋根に多くの若者が演技を披露するだんじりもある。
餅をまくだんじりそれぞれ、個性豊かなだんじりの舞を披露して、境内の端へ。
宮入りしただんじりは今夜　境内で神さんといっしょに過ごして　明日の本宮を迎える。
この7台のだんじりが境内に収まると「宮入」も終わり。

貴布禰神社　夏祭り　だんじりの宮入　2012.8.1 宵宮

---

*50数年前の童心に帰った宵宮。 興奮で一杯。 昔のままでした。*

*明日は本宮　今度は夕刻　だんじりとだんじりがぶつかり合う。*
*だんじりのケンカ(山合わせ)が神社横の道で行なわれる。*
*昔は　街で鉢合わせするといたるところで行なわれただんじりのケンカ*
*今はきっちりと規制・ルール化された方法でそれぞれのだんじりが山合わせをして、勝ち負けを競うという。*
*尼崎の祭りを有名にしたこの「だんじりのケンカ」であるが、*
*今年は「辰巳の暴れ太鼓とだんじりの宮入」の強い満足感と印象で十分。*

*この印象を残しておきたくて、「だんじりのケンカ」は来年に取っておこう。。。。。*

*昔のままの迫力と興奮。 やっぱ"り 祭りは人ごみの中にもまれて 見物しないと-----*
*ふるさと 尼崎の祭り ほんとうにびっくりの連続*
*祭りの喧騒を離れ、興奮を思い浮かべながら ひっそりとした家並みを抜け、新三和・中央商店街に来ると*
*まだ喧騒の中。もうひとつの祭りが続いていました。*

*だんじりと言うと 岸和田そして 神戸の住吉が有名ですが、 それに負けないど迫力*
*また どこからこれだけと思うぐらいの多くの若者群が だんじりの担い手に*
*元気なふるさとをみるのも 嬉しい。*

*しっかりと 幼い頃の記憶が再度しっかり焼きついた一日*
*尼っこ でないとわかってもらえないだろうなぁ・・・・との思いも半分*
*また 来年がたのしみになりました。*

*2012.8.1.夜 阪神電車の車窓から*
*人並みであふれる貴布禰神社を眺めながら*

## 貴布禰神社 2012 夏祭り 宵宮　だんじりの宮入を待つ貴布禰神社の境内

## 貴布禰神社 2012 夏祭り 宵宮 宮入に向かう だんじりの巡行

## 貴布禰神社 2012 夏祭り 宵宮 辰巳暴れ太鼓の宮入

辰巳の太鼓の練り　2012.8.1.

辰巳の暴れ太鼓 宮入奉納　2012.8.1.

## 貴布禰神社　2012 夏祭り　宵宮　　だんじりの宮入

## 【参考】 尼崎のだんじり祭り

尼崎のだんじり祭りについては　インターネットを調べると
尼崎市の公式ページ内に「だんじり祭り」のページがあり、貴布禰神社と並ぶだんじり祭りが行われる築地初嶋大神宮のだんじり祭りの紹介も掲載されています。
また、インターネットには　だんじり保存会の活動やだんじり巡行や山あわせの動画ページがありました。
2012年8月2日本宮で行われただんじりの山合わせの動画もすでに掲載されていましたので、ご興味のある方はインターネットを検索してごらんください

| | | |
|---|---|---|
| 1. | 尼崎市公式ページ　伝統のお祭り・地域の催し | http://www.city.amagasaki.hyogo.jp/festival/055kibune.html |
| 2. | 平成22年尼崎だんじりまつり 北出VS御園町 - YouTube | http://www.youtube.com/watch?v=louuRaqIgx8 |
| 3. | 貴布禰太鼓地車保存会 | http://kifunehozonkai.blog.fc2.com/blog-entry-10.html |

故郷の祭「尼の宵宮祭」として有名な尼崎　貴布禰神社夏祭　2012.8.1.

50数年ぶりに だんじりと暴れ太鼓の貴布禰神社宮入を見ました

1. 宵宮　街を巡行して　宮入に向かう「だんじり巡行」
2. 宵宮　辰巳の暴れ太鼓　　宮入巡行と宮入境内練り
3. 宵宮　だんじりの宮入

「打ちまぁ〜しょ　パン・パン・パン
もうひとつせ　パン・パン・パン
よう(祝う)て　三度……」
祝儀をもらっただんじりの手締めの音が
町のあちこちで響く
大阪締めともちょっと違う　尼崎の手締め

どしゃぶりの夕立の中　北出屋敷のだんじり　辻回し　　2012.8.1.

50数年ぶりに見る辰巳の暴れ太鼓
子供の頃　だんじりも鉢合わせすると逃げたあの太鼓
辰巳の暴れ太鼓　街中で
2012.8.1.

50数年ぶりに見る辰巳の暴れ大鼓
子供の頃　だんじりも鉢合わせすると逃げたあの大鼓
辰巳の暴れ太鼓　宮入

尼崎貴布禰神社　夏祭り　だんじり の 宮入　2012.8.1.
中在家
北出屋敷
西桜木
東桜木
新三和
西町
南出屋敷
だんじりは神前でお祓いを受け、手締めをし、 その後 境内社殿前境内をを練り、だんじり
を高く斜めに傾けて、ぐるりと回って、 境内の端に並んで収まる。
そして この宵宮を貴布禰神社の境内でこの夜を過ごす。
なお、尼崎の手締めは 「打ちまぁ～しょ シャン・シャン・シャン もうひとつせ シャン・シャン・シャン
祝うて三度（祝うて三度の後には 手は打たない）」 久し振りに聞く 懐かしい響きでした

中在家のだんじり　2012. 8. 1.
中在家
中在家

中在家　だんじりの宮入　2012.8.1.

北出のだんじり　宮入　2012. 8. 1.

西桜木町のだんじり　宮入　2012. 8. 1.

若中
若中

尼崎　貴布禰神社　夏祭　だんじり宮入　2012.8.1.

尼崎　貴布禰神社　夏祭　だんじり宮入　2012.8.1.

東桜木町　だんじり　2012.8.1.
尼崎貴布禰神社　夏祭

東桜木町だんじり　宮入

尼崎　貴布禰神社　夏祭　だんじり宮入　2012.8.1.

尼崎貴布禰神社　夏祭　地車　宮入　2012.8.1.

新三和　だんじり　宮入　2012.8.1.

尼崎　貴布禰神社　夏祭　だんじり宮入　2012.8.1.

若中
西町

西町　だんじり　宮入　2012.8.1.

西町

西町

西町

御園町　だんじり　宮入　2012.8.1.

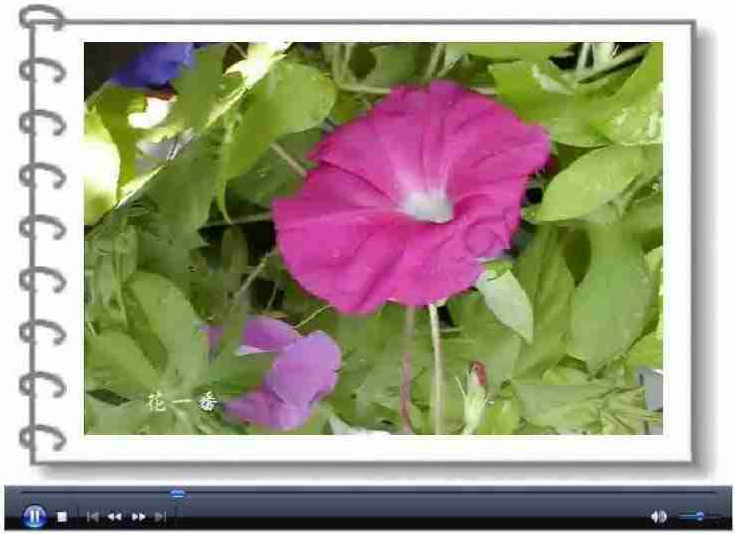
南出屋敷　だんじり　宮入　2012.8.1.

16.

# わが家の 2012 年夏朝顔帳

今年の夏　わが家の庭に朝顔がたくさん咲き、毎朝　早く起きて眺めるのが楽しみ

本年のわが家の朝顔帳と京都府立植物園に出かけた京朝顔展をスライド　動画にしました



今年の夏　わが家の庭には数多くの朝顔が咲きました。毎日早く起きて見るのが楽しみでした。
この清々しさに　一日が楽しくなります。

咲きかけて　咲けない花の頭をそっと撫でて　ふっと息を吹きかけるとぱっと開く。
こんな技も嬉しい。

朝顔は　朝早くに咲いて　昼にはしぼんでしまう　本当に半日の花
花を育てるのは家内　私は眺めて楽しむ人　せめて　毎朝元気をくれるこの姿をデジカメで記録をと。

また、朝顔にあわせて　この時だけ朝7時から開園する京都府立植物園の朝顔展にもいきました。
上記の技ほか色々教えてもらって　また　来年。
もっとも　私は見る人ですが・・・・

2012.8月盛夏　Mutsu Nakanishi.

あさがお
花言葉は「明日もさわやかに」
みんな　朝の水やりに　精を出したことがあるやさしい花

夏の朝早く花を咲かせ、昼には　しぼんでしまう　半日の花
でも　毎朝が楽しみな　そのすがすがしさ

明日もさわやかに

2012.8.20.作成

あさがお
花言葉は「明日もさわやかに」
みんな 朝の水やりに 精を出したことがあるやさしい花

夏の朝早く花を咲かせ、昼には しぼんでしまう 半日の花
でも 毎朝が楽しみな そのすがすがしさ

明日もさわやかに

2012年 盛夏の朝

平安の海と初嵐

博多の女

初 嵐

旭 光

水青紫

花一華

愛宕の春
愛宕の春

平安の海

博多の女

薄化粧

新国十郎

雪の円山

月夜野と藤娘

夢の浮橋

秋楽

藤娘

花平

藤寿楽

別世界

石都城

博多の女(白)

碧水

桔梗朝顔

あさがお
花言葉は「明日もさわやかに」
みんな 朝の水やりに 顔を出したことがあるやさしい花

夏の朝早く花を咲かせ、昼には しぼんでしまう 半日の花
でも 毎朝が楽しみな その すがすがしさ

明日もさわやかに

2012年 盛夏の朝

《 おしまい 》

2012.8.20. 作成

京都府立植物園　半日会　朝顔展　2012. 7. 30.

京都府立植物園　半日会　朝顔展　2012. 7. 30.

京都府立植物園　半日会　朝顔展　2012. 7. 30.

本日の
銘花
半日会

特展展

京都 鴨川 植物園横より

2012年夏　朝顔帳
by Kikuko
2012.8.20.作成

あさがお
花言葉は「朝日もさわやかに」
みんな　朝の水やりに　精を出したことがあるやさしい花
夏の朝早く花を咲かせ、昼には　しぼんでしまう 半日の花
でも　毎朝が楽しみな　その すがすがしさ
朝日もさわやかに
2012年　盛夏の朝
《 おしまい 》
2012.8.20. 作成

友達から送っていただいた雨降草の花

# 17. 【スライド動画】 涼を求めて　布引谷へ　2012.8.15

布引滝　雌滝　2012.8.15.

涼を求めて　布引の谷へ
2012.8.15.午後

再度山大龍寺
市原
布引ハーブ園
風の丘駅
布引ダム
五本松堰堤
ロープウェイ
見晴台
徳光院
雄滝
布引渓谷
新神戸駅
戸
市
中央区

隠れ滝　大鼓滝　2012.8.15.

布引滝　雄滝　　2012.8.15.

滝の上部　布引見晴台より　2012.8.15.

滝の上部　布引見晴台より　2012.8.15.

布引谷を渡るゴンドラ　2012.8.15.

五本松隠れ滝　2012.8.15.

布引ダムの奥　布原で　2012.8.15.

五本松堰堤　布引ダム　2012.8.15.

布原から新神戸への山腹自動車道より　2012.8.15.

布引谷の麓　徳光院　2012.8.15.

再度山大電寺
市原
布引ハーブ園
風の丘駅
布引ダム
五本松堰堤
ロープウェイ
見晴台
徳光院
雄滝
布引渓谷
新神戸駅
戸市
中央区

# 【写真アルバム】　豊かな稔りを迎えた　初秋の西神戸田園 Walk　2012.9.7.

残暑と初秋の爽やかな風が交錯する 9 月上旬　美しい空に惹かれ、秋を見つけに西神戸の田園 Walk しました

西神戸　稔りの秋を迎えた西神戸　稲美町の田園で　　2012.9.7.

実りの秋　西神戸神出周辺で　　2012.9.7.

押部谷の田園　高和橋より　　2012. 9. 7.

神出の田園　左手ビニールハウスに今出荷の盛んな　いちじく畑　2012. 9. 7.

神出の田園から　峰岡山・旗岡山を眺める　　2012. 9. 7.

神出のいちじく畑で　　2012.9.7.

刈入れ時を迎えた稲穂　2012.9.7.

稲刈りが始まった西神戸　篠栗町　2012.9.7.

加古川の流　上延橋周辺で　2012. 9. 7.

小野方橋北　高より高住野を眺める　2012. 9. 7.

日帰り温泉「ゆぴか」の高山から眺める加古川流域の田園　中央の山間を東西に山陽自動車道が走り、中央奥に須磨の山が見えます　2012.9.7.

秋の空が広がる加古川流域の田園　ゆぴか・高山より　2012.9.7.

秋の空が広がる加古川流域　東播磨の田園　2012.9.7

小野市来住野　2012. 9. 7.

加古川　上荘橋で　2012. 9. 7.

稲美の田園　古寺の森　2012.9.7

楽農センター「かんでかんで」　2012.9.7.

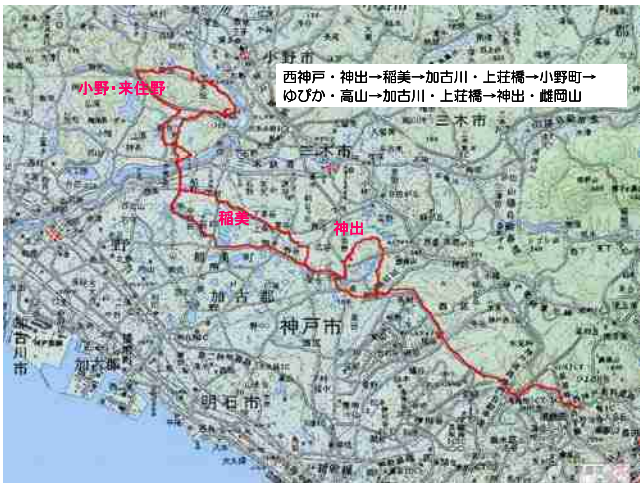
雌岡山の北側　楽農センター「かんでかんで」の教育農園　2012.9.7.

かかしロードー　南風センター「かんでかんで」の教育農園　2012.9.7.

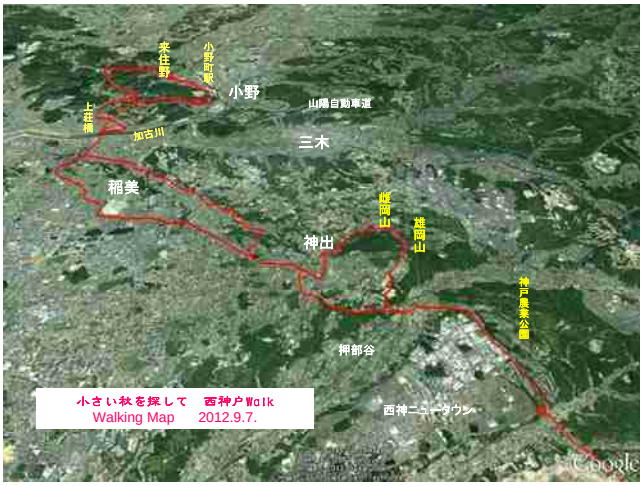
桃岡山南側の田園で　2012.9.7.

もう 里は秋　いよいよ 実りの秋の到来です

西神戸　小寺の集落でみかけた野の花
2012. 9. 10.


小野・来住野
西神戸・神出→稲美→加古川・上荘橋→小野町→
ゆびか・高山→加古川・上荘橋→神出・雌岡山
稲美
神出
小野市
三木市
加古川市
神戸市
明石市

小さい秋を探して　西神戸Walk
初秋の西神戸の田園で　2012.9.7.
豊かな稔りを迎えた　初秋の西神戸田園Walk
2012.9.7.


来住野
小野町駅
小野
上荘橋
加古川
山陽自動車道
三木
稲美
雌岡山
雄岡山
神出
神戸農業公園
押部谷
小さい秋を探して　西神戸Walk
Walking Map　2012.9.7.
西神ニュータウン

押部谷の田園　高和橋より　2012. 9. 7.

実りの秋　西神戸神出周辺で　2012.9.7.

神出の田園から　雌岡山・雄岡山を眺める　2012. 9. 7.

榎谷町福谷の丘より　2012. 9. 7.

刈入れ時を迎えた稲穂　2012.9.7.

神出の田園　左手ビニールハウスに今出荷の盛んな　いちじく畑　2012. 9. 7.

神出のいちじく畑で　　2012.9.7.

小野市鴨池　丘より乗住野を眺める　2012. 9. 7.

稲刈りが始まった西神戸　稲美町　2012.9.7

小野市乗住野　2012. 9. 7.

加古川の堤　上荘橋周辺で　2012. 9. 7.

秋の空が広がる加古川流域　東播磨の田園　2012.9.7.

日帰り温泉「ゆぴか」の高山から眺める加古川流域の田園　中央の山間を東西に山陽自動車道が走り、中央奥に須磨の山が見えます　2012.9.7.

秋の空が広がる加古川流域の田園　ゆぴか・高山より　2012.9.7.

加古川　上荘橋で　2012. 9. 7.

ゆぴか・高山より　秋の空が広がる加古川流域の田園　2012.9.7.

雌岡山の北斜面側　楽農センター「かんでかんで」　2012.9.7.

稲美の田園　高薗寺の森　2012.9.7.

楽農センター「かんでかんで」　2012.9.7.

また、神出の里へ帰ってきて
雌岡山の北斜面側　楽農センター「かんでかんで」へ　2012.9.7.

かかしロードー　楽農センター「かんでかんで」の教育農園　2012.9.7.

雌岡山の北斜面の栗林　楽農センター「かんでかんで」　2012.9.7.

かかしロードー　楽農センター「かんでかんで」の教育農園　2012.9.7.

雌岡山の北側　楽農センター「かんでかんで」の教育農園　2012.9.7.

もう里は秋　いよいよ 実りの秋の到来です
2012.9.7.

雌岡山南側の田園で　2012.9.7.

西神戸　小寺の集落でみかけた野の花　2012. 9. 10.

庭の草花も いよいよ 秋の装いへ
2012.9.7.

19

# 【スライド動画】「彼岸花の里 播磨多可町」 2012.9.27.

## 今年も千ヶ峰・妙見山の麓に「彼岸花」を訪ねました

1. 小野市天神　国道175号線脇の田園の畦を飾る彼岸花
2. 多可町中区間子　妙見山の南麓　彼岸花の里
3. 多可町加美 岩座神集落　千ヶ峰の山懐　棚田を飾る彼岸花
4. 多可町加美 杉原　千ヶ峰の東杉原川沿い田園の彼岸花

残暑で遅れていた彼岸花　　いったいどうしたのかと気になっていましたが、約 2 週間ほど遅れて彼岸花が満開になったとの便りに　毎年出かける彼岸花の里　西脇の奥の千ヶ峰・妙見山の麓多可町を訪れました。

行く道中　いつも眺める国道 175 号線小野市天神の高架下の田園の畦を彼岸花が美しく飾っているのを見て そこにも立ち寄りました。

彼岸花は一旦　寒さを感じないと地表に芽を出さない。そして、一旦目を出すとその茎を約 5cm/日と超スピードで成長し、一週間ほどで真っ赤な花をつけ、数日で色が褪せてしまう。　本当に美しいのは数日という。

今年は例年よりも、赤が濃く、写真に撮ってもハレーションを起こしにくく　綺麗に写真にできました。

また、石垣の棚田が美しい千ヶ峰のどんつきの山懐　岩座神（いさりがみ）の集落にまで足を伸ばして、棚田の石垣を飾る彼岸花にも出会いました。　　毎年訪れるタイミングでちょっとづつ違う彼岸花　　今年はどうでしょうか・・・・・・

# 《写真アルバム》「彼岸花の里 播磨多可町」 2012.9.27.

今年も千ヶ峰・妙見山の麓に彼岸花を訪ねました

<< 美しい田園が広がる国道175線小野市天神の高架橋の下で >>

<< かつて銅を産出した妙見山 その麓の秋を彩る彼岸花 今年はコスモスの花と一緒にたのしみました >>

《《　千ヶ峰の山懐　美しい棚田の石垣を飾る彼岸花　多可町　加美・岩座神集落で　》》

《《　千ヶ峰の東側を流れ下る杉原川沿いの田圃に咲く彼岸花　　多可町加美・杉原の集落で　》》

---

【関連　Country Walk】

2012 秋　西神戸・播磨に小さい秋を探して【1】　豊かな稔りを迎えた　初秋の西神戸田園 Walk　2012.9.7.

実りの秋　本年遅れていた曼珠沙華の花が今田園の畦を飾っています
国道175号線　小野市天神の田園で　2012.9.27.

西脇から杉原川沿いの谷あいに広がる彼岸花の郷　多可町へ
今年はどんな風景が見られるか　楽しみ　　ハイとなりし
西脇市　加古川にまぐ　杉原川の土手で　2012.9.27.

彼岸花の郷　多可町間子で　2012. 9. 27.

千ヶ峰山懐　棚田が美しい　加美・岩座神の集落　2012.9.27.

期待通り　千ヶ峰を背に彼岸花が棚田の畦を飾る美しい山里の景色がみられました。岩座神の棚田で
多可町 岩座神の棚田で　2012.9.27.

岩座神の集落から西へ峠を超えると杉原川本流が流れ下る杉原の郷　　2012.9.27.

北の播州峠から南へ杉原川本流が流れ下る杉原の郷の田園で　　2012.9.27.
山の向こうは丹波　青垣町である

実りの秋　本年遅れていた曼珠沙華の花が今田園の畦を飾っています
国道175号線　小野市天神の田園で　2012.9.27

今年も播州の彼岸花の里　多可町を
千ヶ峰・妙見山の麓に訪ねました
2012.9.27.
1. 小野市天神の田園で
2. 彼岸花の里　多可町間子
3. 千ヶ峰の山懐　棚田の岩座神
4. 杉原川が流れ下る加美町杉原

播州の彼岸花の里　多可町
2012.9.27.
兵庫県

西脇から杉原川沿いの谷あいに広がる彼岸花の郷　多可町へ
今年はどんな風景が見られるか　楽しみ　2012.9.27.
西脇市　加古川にそそぐ　杉原川の土手で　2012.9.27.

彼岸花の里　　多可町間子の集落で　2012. 9. 27.

中区門前　杉原川に掛かる橋より　北側の千ヶ峰の山並みを眺める　　2012.9.27.

千ヶ峰山懐　棚田が美しい　加美・岩座神の集落　2012.9.27.

期待通り　千ヶ峰を背に彼岸花が棚田の畦を飾る美しい山里の景色がみられました　岩座神の集落で

千ヶ峰を背に　石垣で囲われた棚田が美しい岩座神の集落の奥からから西へ峠を越えて杉原の集落へ下る

岩座神の集落から西へ峠を超えると杉原川本流が流れ下る杉原の郷　　2012.9.27.

北の播州峠から南へ杉原川本流が流れ下る杉原の郷の田園で　　2012.9.27.
山の向こうは丹波　青垣町である

北の播州峠から南へ杉原川本流が流れ下る加美・杉原の郷の田園で　　2012.9.27.
南側にはかつて銅を産した妙見山が堂々と座っている
彼岸花が咲く田園の畦を抜け、この山の南側　加美・中町を抜けて西脇へと戻る

20

【写真アルバム】　花背峠・佐々里峠を越えて 由良川源流へ　　2012.9.17.

# 北山の森・大悲山 峰定寺・美山「かやぶきの里」を訪ねる

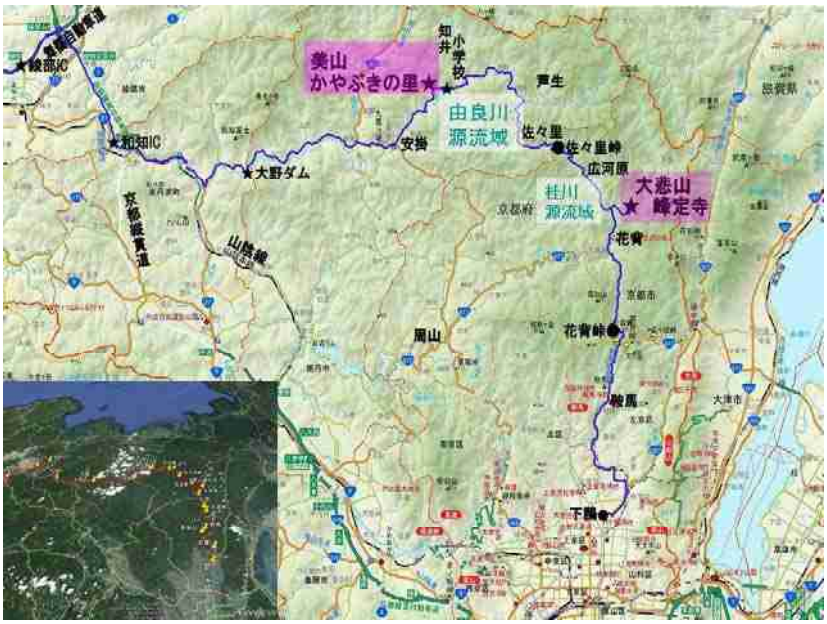
由良川の源流が流れ下る北岸の山裾の茅葺き集落　美山　かやぶきの里　全景　2012.9.17

北山花背の奥 修験道 北の大峰と呼ばれる大悲山峰定寺　桂川源流 京都の北端広河原で　佐々里峠の道脇の巨樹　由良の源流 芦生出合橋周辺

京都から北山　日本海側と瀬戸内側の分水嶺　佐々里峠を越えて由良川の源流へ　2012.9.27

**京都下鴨**→花背峠→花背→**大悲山峰定寺**→広河原→**佐々里峠**→佐々里→**由良川源流**・芦生出合橋
→美山知井小学校→**美山かやぶきの里**→安掛峠→**大野ダム**→和知IC→若狭・舞鶴自動車道→**神戸**

9月17日　京都八瀬へ墓参に行った帰りに北へ京都北山の森を抜けて由良川の源流を美山町のかやぶきの里へ足を伸ばして
舞鶴自動車道から神戸へ帰えってきました。目的は最近良く耳にする美山町かやぶきの里へ行きたい。
また、深い森に包まれた北山の中を瀬戸内側/日本海側を分ける中央分水嶺「佐々里峠」を通って、由良川源流へ行けるのも魅力。地図で見ると学生時代　何度も通った由良川の源流　芦生から由良川にそって西へ少し下ったところ。
何度か通った街道筋ですが、かやぶきの里の記憶はない。　また、京都北山の再奥部にある佐々里峠の南側は桂川・淀川水系で北側は日本海へ注ぐ由良川水系である。




「京に田舎あり」と言われますが、京都市の北端の集落広河原はその佐々里峠の南側下にある集落で、ここまでが京都市。
「ここが京都市??」とびっくりする北山の最奥部である。

京都下鴨で昼食を済ませて、久しぶりに鞍馬街道を北へ　花背の峠を越えての京都北山の最奥部のドライブである。
年々市街化が進んでいますが、岩倉・静原の集落を抜けるとその奥は北山の深い森の中。
緑の森に包まれた北山　巨樹にも出会えたし、大悲山の舞台に立てたのも久しぶり。
そして　念願の分水嶺　佐々里峠越で由良川源流・美山かやぶきの里へ

## 1.　花脊峠から　花背 大悲山峰定寺へ

京都　賀茂川　加茂大橋　　左　比叡山　西　大文字山

ここから鞍馬街道を北山　花背の峠を越えて　賀茂川・桂川の源流　大悲山・佐々里峠へさかのぼり

分水界　佐々里峠を越えて　由良川の源流域　芦生　そして美山かやぶきの里へ

京都市街地から北山の中に分け入る昔からの街道筋。東の花折峠と並ぶ美しい名前の峠である。
でも　その名前とは裏腹にきつい峠。
峠の北にある花背の集落の人々は収穫したものを毎日京都の市街地まで運んで、売りさばいたという。
その花背の集落の北　広河原へ入る手前の大悲山口で分岐する道を左手に取ると大悲山峰定寺で、その門前に京料理の老舗美山荘がある。

昔行ったことのある切り立った崖に立つ峰定寺の舞台を思い出し、美山荘も見たくなって　大悲山に寄り道をしました。
花背の峠を越えて　花背の集落を抜けると程なくまっすぐに伸びた杉木立が美しい森に包まれた大悲山峰定寺。
大悲山は北の大峰と呼ばれる険しい山で山中に行場がある険しい修験の山。
その山中　崖の山腹上部に木組が組まれた舞台の上に本堂がある大悲山峰定寺がある。

静まり返さった森の中　大悲山峰定寺の駐車場
数多くの山伏行者さんと観光バスにびっくり

大悲山峰定寺の山門
この山門の奥　険しい山の崖の上に本堂がある

北山の奥部静寂の森の中に　大勢の山伏行者さんたちの姿と 10 台以上も並んで止まっている観光バスにびっくり。
聞いて　判ったのですが、9 月 17 日は本山修験宗峰定寺の年に一度の「採燈護摩供」の日で　数多くの行者さんたちによって護摩行が行われ、 山の上の本堂に安置されたご本尊の千手観音像も御開帳されているという。
また、仁王門前には　推定樹齢 250 年、高野槇の神木　幹周 3.8m、樹高 20m　主幹が折れてしまっているが、年代を感じる巨樹でした。

ちょうど　行事が終わって　行者さんたちが、山の上の本堂参拝を終え、山を下ってきたところ。
杉の巨樹がまっすぐ立ち並ぶ崖に沿ってジグザクに約 420 段の石段がある参詣道を登ると本堂の舞台が見えてくる。
緑に包まれた森の中　誰もいない神聖な空間　苔むした石段が古さを感じさせる。

急な石段が続くが、自然の中に溶け込んで　心地良い参詣道である。右には行者堂　そして　行者堂の後ろには切り立った崖で、2 条の鎖が見える。　自然災害で大木が行者堂の屋根に倒れかかり、また、崖も荒れて、今は行場での修行は行われていないと寺の裏方の人にお聞きしました。

山の上の本堂へ続く境内参詣・行場への道

登り切ったところが本堂の舞台　そこからは全く人家のないどこまでも続く山並。自然のまっただ中にいる。
かつてみたのもこの変わることのない景色や・・・・と。
また、　ラッキーにも千手観音参拝ができました。
ふっと思い出して立ち寄った大悲山　巨樹にも出会え　こんな空間が　若い人の言うパワースポットだろうなぁ・・・・と。

行場の崖　崖に2条の鎖が見える　また、崖も荒れて、今は行場での修行は行われていないと寺の裏方の人にお聞きしました。

自然災害で大木が行者堂の屋根に倒れかかり、

花背の集落の奥　桂川の源流にある　修験道の本山大悲山峰定寺

静けさの中　張り詰めた空気が漂う

## 2.　佐々里峠　京都北山の最奥部　日本海側と瀬戸内側を分ける分水界

### でも　この森に包まれた山中の集落も京都市左京区である

京都/丹波の分水界　佐々里峠

大悲山から元の道へ戻り、広河原の集落を抜けてゆく。
どこもかしこも山　緑のトンネルである。川はまだ南の京都側に流れている。 以前はここまでが車道のあるどんつきであったが、峠道が開通して、京都から丹南を通って、日本海へ直接抜けられるようになった。　また、ここまでは京都市内から朝夕バスが通っていて、昔も今も北山のハイキングの基地である。
学生時代には　重いリュックを担いで、何度か山越えをして　芦生の森へ通ったことがある。
ここから先が京都市の広河原と丹南市美山町佐々里を結ぶ険しい峠道　京都北山の最奥部で、 ここまでが京都市左京区で　京都と丹波の境　瀬戸内側の桂川と日本海側由良川の分水嶺で、この峠を超えると由良川の源流域である。

広河原を南へ流れ下る桂川源流

佐々里峠の峠のすぐ手前の峠道の崖ぎわに巨大な樹が見える。峠道からは全体がよく見えないのですが、株の胴回りがすごい。これはすごい。　すごい生命力を感じて　デジカメでパチリ。これも芦生の台杉なのだろう。
この周辺にはもと大きい芦生台杉の巨樹があると聞く。
全体がよくわかりのませんが、根本から離れて峠道を登ってゆくと頭をのぞかせているのが見えました。

佐々里峠の道脇でみた芦生台杉??の巨樹　生命力がみなぎる樹の根回り部

## 3.　由良川源流　　美山町芦生から　美山町北　かやぶきの里へ

由良川の本流と佐々里川の合流点　芦生出合橋

佐々里峠を越えて　美山町に入った道が深い緑の山中を北へ流れ下る佐々里川の谷筋を下り、芦生出合橋で由良川の本流合流する　滋賀・福井・京都の県境三国岳周辺　芦生の森から流れだして、人工美林に覆われた山間　美山町を西に流れ下り、日本海に注ぐ由良川。 芦生は京大の演習林もある森の里　代々山仕事を生業とする人たちに手入れ・守られて
切り倒された杉株の上に新しい芽が育つことによって次々と命を受け継ぎ、巨樹として育った芦生台杉の巨樹の森が今も残っている。
かつては　材木の生産地として賑わった街道筋。　いまもまっすぐに伸びた杉の美林の山並に囲まれ、 山間を下ってゆく由良川沿いの両側の狭い段丘に耕地と集落が点々と続く。美山町北「かやぶきの里」もそんな集落の一つである。

美山町田歌周辺　山腹に杉の美林が続く

美山町江和周辺

芦生から流れ出て　くねくねと曲がりながら　美山町の山間を東から西へ流れ下る由良川源流

佐々里峠から北へ流れ下る佐々里川が
芦生から流れ降ってきた由良川本流に合流する
芦生　出合橋

美しい木造校舎 知井小学校

由良川が東から西へ流れ下る森の里　美山町　2012. 9. 17.

## ●　美山町北　美山かやぶきの里

＾ 美山町　かやぶきの里で　　ちょうど真っ白な蕎麦の花が満開でした

材木の里を象徴する知井小学校の美しい木造校舎の前を通りすぎて、美山町中の集落を抜けると黄金色に稔った田圃の向こう右手山際に 幾つもかやぶきの家並みが連なった集落が見えてくる。

車の進行とともにどんどん大きくなって・・・・

美山かやぶきの里到着。　この里の正面には一面真っ白な蕎麦の花　その向こうに茅葺の家並みが連なっている。 夕方近くで、人波も引いた後で落ち着いた中で　集落が散策できる。

真っ白な蕎麦の花の中を集落への一本道集落の入口に赤いポストがあり、集落をバックに写真を撮っている人がいる。

周りの景色とよく調和して

びっくりするほど美しい。

美山「かやぶきのさと」　2012. 9. 17.

美山町「かやぶきの里」

由良川の流れを前にかやぶきの家が達ち並ぶ集落の姿は本当に美しい。
少し観光化しつつあるとはいえ、茅葺きの街並みが土産物屋の街並みでなく、集落の姿そのままで、しかも、村の人たちが話しかけに気楽に応じてくれる 生の生活空間として現役であるのも嬉しい。

こんな近くに深い森・そして由良の源流に古いかやぶきの街並・集落が残っていることにも感激でした。
でも　京都から佐々里峠を越えてここまで来るとなると道草もするし、ちょっと遠いかなぁ・・・・

後でわかったのですが、でもこの集落の北側の山を越ええれば　すぐ若狭小浜。
最近よく聞く日帰りツアーのコースになっている。
西にはすぐ近を舞鶴自動車道・京都縦貫道が京阪神を結んでいて、2 時間ほどで京阪神から行き着ける。
ダイレクトに来れば近い。

## 5.　夕暮れ時　由良川沿いを西へ　和知 IC から綾部 IC をへて　舞鶴自動車道を神戸へ

こんな近くに深い森があり、古いかやぶきの街並・集落が残っていることに感激でした。
また、かやぶきの里から西へ由良川沿いを帰る途中見た大野ダム湖　そして夕闇の中　刈入れの終わった田での野焼きの煙も印象的でした。
緑の中で過ごせた一日　盛りだくさん一日でしたが、学生時代に何度となく通ったなつかしい街道筋。
懐かしい地名が次々に出てきて　うれしいドライブでした。
今度は　巨樹の森　芦生や片波川へも入ってみたいと。
夕闇迫る由良川沿いを西へ　今日一日を思い浮かべながら

2012.9.17.　夕　　Mutsu Nakanishi

京都から神戸に帰るには　いつも名神なのですが、北に出たので、京都に戻らず　和知からそのまま舞鶴自動車道の綾部から神戸へ高速道路に乗ると速い速い。　神戸まで１時間半ほどで帰り着きました。

後日　資料作成しながら、インターネットを調べていて、 大悲山峰定寺の仁王門から、本堂舞台に登るには受付・寺務所に連絡して登り、また、境内内撮影禁であるとの記事に接しました。

私が行った17日は「採燈護摩供」の日で、山門前は行事終了で行者さんやお寺の人たちが大勢いらっしゃり、「今だと千手観音に出会える」と教えてもらい、なんのためらいもなく そのまま入山。

本堂でもお寺の方と話をしながら 舞台からの写真も取らせていただきました。

時間が遅く もう上にいたのは我々二人だけだったからかもしれませんが……。

そんなことで、禁止を知らず、舞台の写真や本堂への登り道 森の写真なども取らせていただきました。
また、インターネとでは 雨の日は入山が出来ないことや荷物は持たずに登ることになっているようで、
静寂の行場で かつ崖に付けられた細い階段道での危険回避のためのように記事を読みました。
そんなんで、今回大悲山入山時の写真が入っていますが、お許しを。

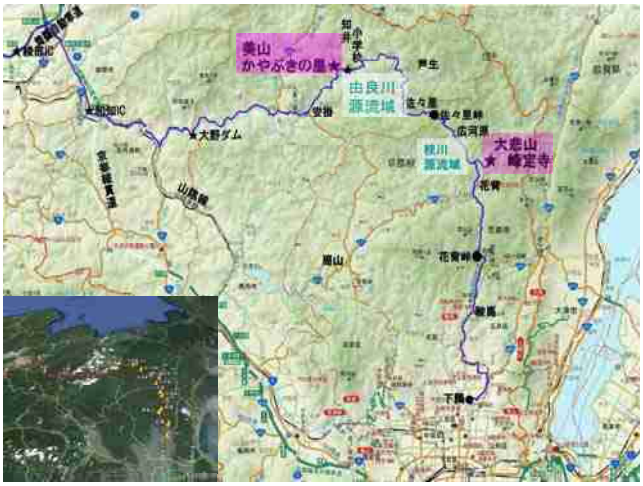
高野川・鴨川の合流点　出町から鴨川越しに眺める大文字山　2012.9.17.

京都北山ドライブ　花背峠・佐々里峠を越えて 由良川源流へ

北山の森・大悲山 峰定寺・美山「かやぶきの里」を訪ねる

2012.9.17.

渡ってみたかった賀茂大橋　横の飛び石　左:比叡山　右:大文字山　2012.9.17.



花背峠を越えて　花背で　　川が北へ流れている　　2012.9.17.

下鴨神社　糺の森　　2012.9.17.

下鴨神社　糺の森　瀬見の小川　　2012.9.17.

本山修験道　大悲山　峰定寺　仁王門前　2012.9.17.

仁王門前　高野槇の神木　幹周3.8m、樹高20m。　推
定樹齢250年、主幹が折れてしまっているが、年代を感じる巨樹である

崖に沿ってジグザクの約420段の階段を登る本堂の舞台が見えてくる　右は行者堂　2012.9.17.

行場の崖　崖に2条の鎖が見える　自然災害で大木が行者堂の屋根に倒れかかり、また、崖も荒れて、今は行場での修行は行われていないと寺の裏方の人にお聞きしました。

峰定寺本堂　舞台より　　2012.9.17.

峰定寺本堂　舞台からの眺望　　2012.9.17.

降りだした雨の中　広河原の集落を抜けて　佐々里峠へ向かう　　2012.9.17.

佐々里峠への道　2012.9.17.

瀬戸内側　桂川と日本海側　由良川　の　分水嶺　佐々里峠　　2012.9.17.

佐々里峠の手前すぐのところにある巨樹。
全体がよくわかりのませんが、眺めると頭をのぞかせているのが見えました。　　2012.9.17.

峠を下ると佐々里の集落　ここにも道脇に大きな杉がみえる　2012.9.17.

由良川に注ぐ佐々里川に沿って下る　　2012.9.17.

由良川源流　美山町　田歌周辺　2012.9.17.

出合橋　本　[illegible]　芦生　芦生から流れ下る由良川本流に出会う　2012. 9. 17.

由良川源流　美山町江和周辺　2012. 9. 17.

佐々里川が由良川本流に合流する出合橋　2012.9.17.

美山「かやぶきのさと」　2012. 9. 17.

美しい木造校舎 知井小学校
由良川が東から西へ流れ下る森の里　美山町　2012. 9. 17.

美山町「かやぶきの里」　2012.9.17.

美山「かやぶきのさと」　2012. 9. 17.

黄金色の稲穂と白い蕎麦の花　実りの秋を迎えた美山「かやぶきの里」　2012.9.17.

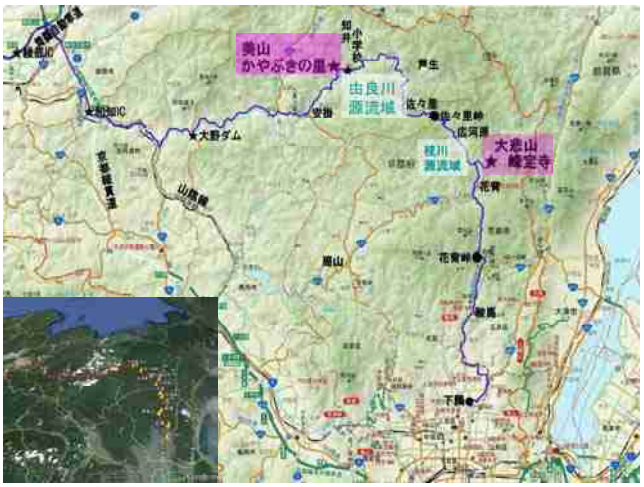
里はもう秋色　何度か通った由良川源流の街道筋　これだけ多くのかやぶきの家が残っているのにびっくりでした

夕闇の安掛から綾部への道で　稲刈りが終わった田圃では野焼きがはじまっていました

由良川沿いを安掛峠を越えて西の綾部ICに向かう道で　2012.9.17.

由良川岸　稲刈りを終えた田圃で野焼きが行われていました　2012.9.17

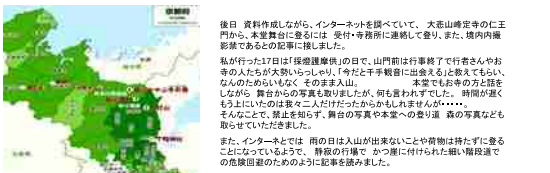
久しぶりに見る京都の水瓶　由良川　大野ダム湖　2012.9.17.




京都北山ドライブ　花背峠・佐々里峠を越えて　由良川源流へ

北山の森・大悲山 峰定寺・美山「かやぶきの里」を訪ねる

【おわり】





後日　資料作成しながら、インターネットを調べていて、 大悲山峰定寺の仁王門から、本堂舞台に登るには　受付・寺務所に連絡して登り、また、境内内撮影後であるとの記事に接しました。

私が行った17日は「採燈護摩供」の日で、山門前は行事終了で行者さんやお寺の人たちが大勢いらっしゃり、「今だと千手観音に出会える」と教えてもらい、なんのためらいもなく そのまま入山。　　本堂でもお寺の方と話をしながら 舞台からの写真も取りましたが、何も言われずでした。 時間が遅くもう上にいたのは我々二人だけだったからかもしれませんが……。
そんなことで、禁止を知らず、舞台の写真や本堂への登り道 森の写真なども取らせていただきました。

また、インターネとでは　雨の日は入山が出来ないことや荷物は持たずに登ることになっているようで、 静寂の行場で　かつ屋に付けられた細い階段道での危険回避のためのように記事を読みました。

そんなんで、今回大悲山入山時の写真が入っていますが、お許しを。

2012.9.20.　Mutsu Nakanishi

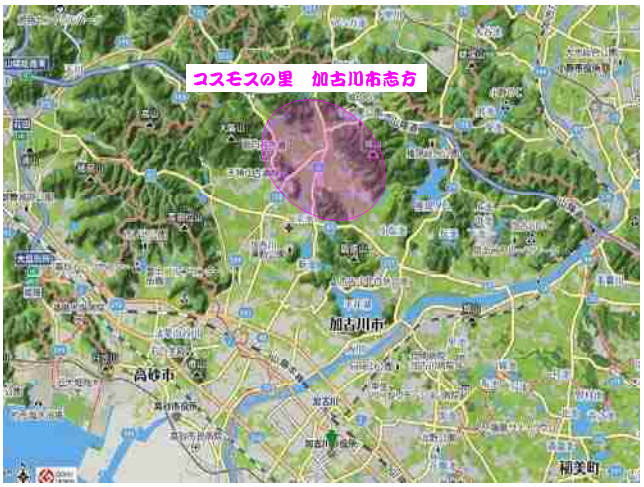
21.

# 2012 秋　西神戸・播磨に小さい秋を探して【3】

## 播磨のコスモスの里　加古川市志方　2012.10.12.

今年も播磨のコスモスの里　《加古川市志方》へ行って来ました
ここ数年不作でしたが、今年は抜群 素晴らしいコスモス畑に出会いました
また、丘の上では　すすきと一緒に コスモスが風に揺れて　印象的 秋がゆっくりと深まってゆく
こんな小さい秋も　みぃ～つけた

2012. 10. 12.

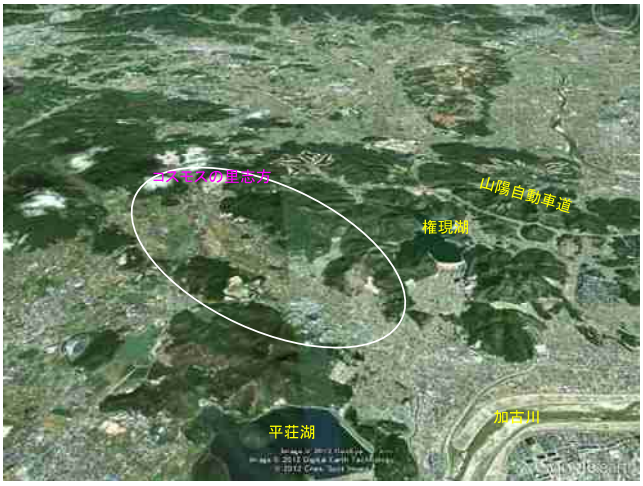

コスモスの里　加古川市志方
加古川市
高砂市
稲美町

コスモスの里　志方町　コスモス畑　2012.10.12
2012
コスモスまつり
10月13日(土)~21日(日)

畑
東飯坂
高畑
広尾西
広尾
加古川市志方 コスモス畑 MAP

今年も　播磨のコスモスの里「加古川市志方」へ行って来ました
ここ数年不作でしたが、今年は抜群　素晴らしいコスモス畑に出会えました
2012. 10. 12.　by Mutsu Nakanishi
コスモスの里　志方町　広尾で　2012.10.12.

志方町　東飯坂で　2012.10.12.


コスモスの里志方
山陽自動車道
権現湖
平荘湖
加古川

コスモスの里　加古川市志方　高畑で　2012.10.12.

加古川市志方町は播磨平野の北東端の加古川西岸の丘陵地に広がる田園地帯
里山合間に広がる田圃は稔りの秋をむかえていました
志方町　東飯坂で　2012.10.12.

コスモスの里　志方町　高畑で　2012.10.12.

コスモスの里　志方町　高畑で　2012.10.12.

コスモスの里　志方町　東飯坂で　2012.10.12.

コスモスの里　志方町　高畑で　2012.10.12.

コスモスの里　志方町　広尾で　2012.10.12.

コスモスの里　志方町　広尾で　2012.10.12.

コスモスの里　志方町　広尾で　2012.10.12.

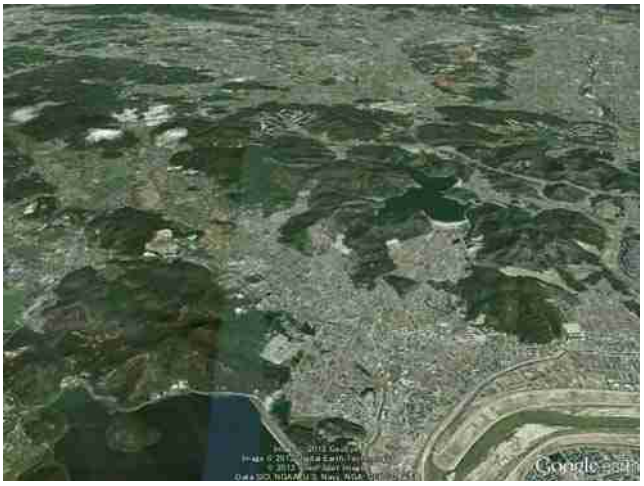
コスモスの里　志方町　広尾で　2012.10.12.

コスモスの里　志方町　西広尾で　2012.10.12.

コスモスの里　志方町　広尾で　2012.10.12.

コスモスの里　志方町　西広尾で　城山をバックに　2012.10.12.

コスモスの里　志方町　西広尾で　2012.10.12.



コスモスの里　志方町　西広尾で　2012.10.12.

今年も　播磨のコスモスの里「加古川市志方」へ行って来ました
ここ数年不作でしたが、今年は抜群　素晴らしいコスモス畑に出会えました
2012. 10. 12.　by Mutsu Nakanishi

コスモスの里　志方町　広尾で　2012.10.12.

22.

映像資料
【スライド動画】

旧別子銅山跡の産業遺産が眠る別子山

# 紅葉に彩られた念願の「別子山銅の道・銅山越」Walk

オープンに少し時間がかかります
firefoxでは画面が白くなりますが、その上でクリックすると画面が現れます

2012.10.27.

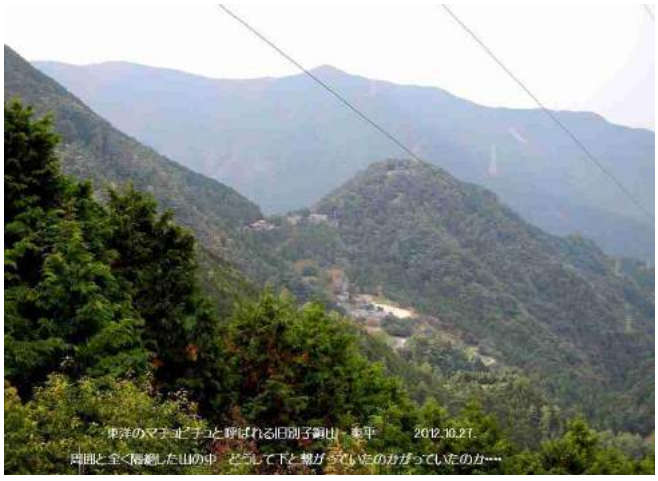
別子山の南側　足谷川沿いの谷に旧別子銅山跡が埋まっている　また、別子山の稜線を越えて北の新居浜へ銅を運ぶ銅の道があった　2012.10.27.

この別子銅山が近代化される前　別子山の南北両側の銅山をつなぎ、最短距離で新居浜の港までを結び、銅山の隆盛を支えた銅の道「銅山越・泉屋道」があった。

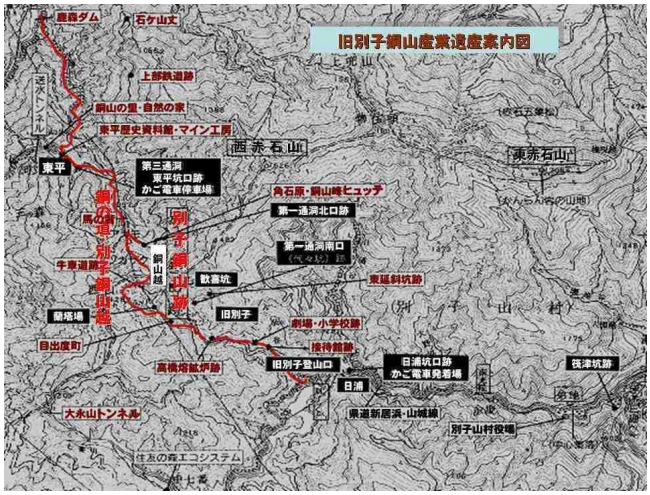
銅山を経営する泉屋（住友）によって建設され、銅山の隆盛を支えた「銅の道-銅山越・泉屋道-」別子銅山の近代化以前　別子山の稜線を越えて南北両側の銅山をつなぎ、さらに最短距離で新居浜の港まで人馬一体となって銅鉱石を運んだ「銅の道」である

煙害で丸裸になった四国別子銅山の別子山は 100 万本を越える植林推進と約 100 年近くを経て 今 緑の山が復活。旧別子銅山跡の産業遺産が自然の森の中に埋まっている。

別子山の稜線を越えて　南から北へ伸びる銅山越の銅の道は今も古き旧別子銅山跡を巡り、 別子山を訪ねる静かな登山道として整備され、緑の森の中に健在。 私にとっては念願の別子山銅山越 Walk。　前日 松山へ行った帰りにあわせ、 全山紅葉に彩られた 10 月 27 日この銅の道を歩きました。




東洋のマチュピチュと呼ばれる旧別子銅山「東平」地区




以前　2005 年秋別子銅山記念館・別子マイントピアを訪れた時に、タクシーで銅山越登山口まで行ったのですが、交通事情が悪く、残念ながら旧別子銅山跡を訪ねる銅山越ができず、タクシーでそのまま戻りました。 私にとっては念願の別子山銅山越 Walk。別子山南側日浦登山口から別子山稜線「銅山越」に登り、新居浜側「東洋のマチュピチュ」と呼ばれる別子銅山東平を経て、鹿森ダムサイト登山口まで　紅葉した谷に沿って続く銅の道　旧別子銅山の遺構　集落跡や銅山諸施設の産業遺産をゆっくりながめながらの。walk。　念願の別子銅の道・銅山越を踏破しました。

別子山銅の道　Walk の道々でデジカメに撮り、スライド動画の映像資料にしましたので、　少し大部ですがご覧ください。

なお　最近住友林業（株）の TV コマーシャルにこの旧別子銅山跡が自然再生の森として紹介されています。

2012.12.10.　By Mutsu Nakanishi

# 別子銅山　銅の輸送路　銅の道　　泉屋道(仲持道)・牛車道・鉄道・索道

http://h2o.sakura.ne.jp/bessi/Obessi/00data/miti/miti.html　&　http://www2.dokidoki.ne.jp/tomura/cutrans.htm　より

| | | | |
|---|---|---|---|
| ●上部鉄道 | 角石原－石ヶ山丈 | 明治44年(1911)　10月7日 | 廃止 |
| ●下部鉄道 | 惣開－端出場 | 昭和52年(1977)　2月1日 | 廃止 |

**(泉屋道)一次泉屋道**

別子銅山が開坑されたのは元禄四年のことで、それより50年も前の寛永年間より銅山峯の北側の西条藩に属する立川銅山が盛んに採鉱されていた。

別子銅山は幕領に属しており、両銅山の間柄は必ずしも円満ではなく、最短距離の銅山越で運べなかったため、別子の銅は立川銅山域を通らず、宇摩郡の地域内から赤石連山の東側の小箱峠越で運ばれていた。

**(新居浜側へ直接出る道　二次泉屋道 & 三次泉屋道)**

住友の長年にわたる幕府への嘆願と立川鉱山の経営不振により　立川鉱山が住友の請負鉱山となり、やっと元禄年間に西赤石山越そして銅山越の道が開かれた

**二次泉屋道**　　元禄15年(1702)～寛延2年(1749)

足谷・東延－西赤石南側－雲ヶ原－西赤石と上兜山の中間－石ヶ山丈－立川中宿＝新居浜口屋

**三次仲持道**　寛延2(1749)年～明治13年(1880)

足谷－銅山越－角石原－馬の背－御番所－東平－端出場－立川中宿＝新居浜口屋

**(牛車道)**

**牛車道**　明治13年(1880)～明治26年(1893)

足谷山－銅山越－角石原－石ヶ山丈－立川中宿＝新居浜口屋

**(第一通洞→上部鉄道～索道～下部鉄道)**

◆ 明治26年(1893)～明治38年(1905)

足谷山－第一通洞－角石原－石ヶ山丈－打除＝惣開精錬所

馬車　牛引荷車　上部鉄道　索道　下部鉄道

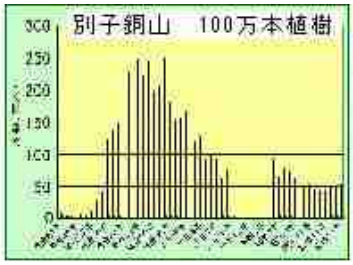
◆ 明治38年(1905)～明治44年(1911)

足谷山－第一通洞－角石原－石ヶ山丈－打除＝惣開＝四坂島

馬車　牛引荷車　上部鉄道　索道　下部鉄道　海上輸送

**明治44年　第三通洞が日浦-東平全通し、鉄道と索道による新輸送へ)**

別子山緑の自然の中に静かにうずもれている旧別子銅山　&　銅山と積出港　新居浜結ぶ銅の道・別子山銅山越



「　別子全を　旧のあおおした姿にして　これを大自然にかえさせねばならない　」　明治３０年ごろ　伊庭貞剛

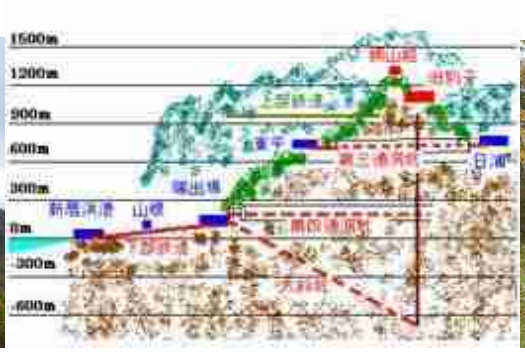
明治半ばから始まった 銅山の煙害で丸裸の別子の山を緑の山へ　１００万本の植林運動　約100 年を経て　別子山に緑が復活

東平第三通洞北口

東平貯鉱庫跡

東平索道の停車場

東平歴史資料館・マイン工房



別子山　銅山越

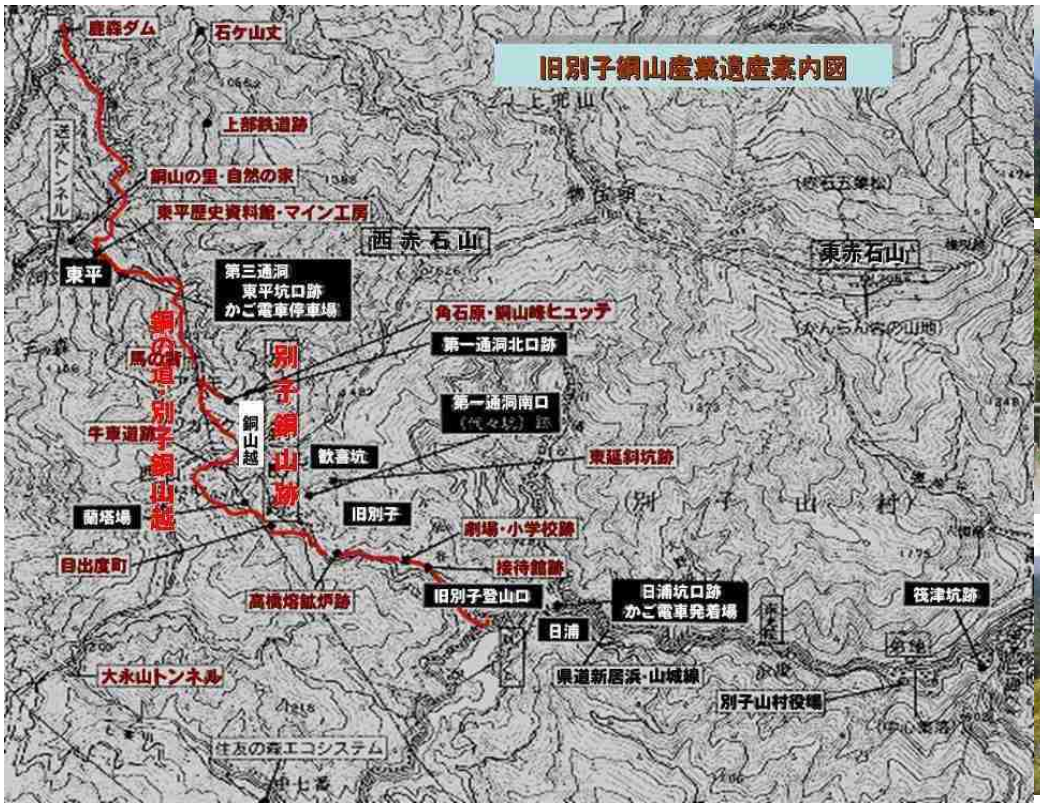
足谷集落跡

足谷　小学校跡

高橋製錬所跡

銅山越／目出度町　牛車道

東西に伸びる別子山の南北両側の山腹・谷に広がる旧別子銅山の産業遺産

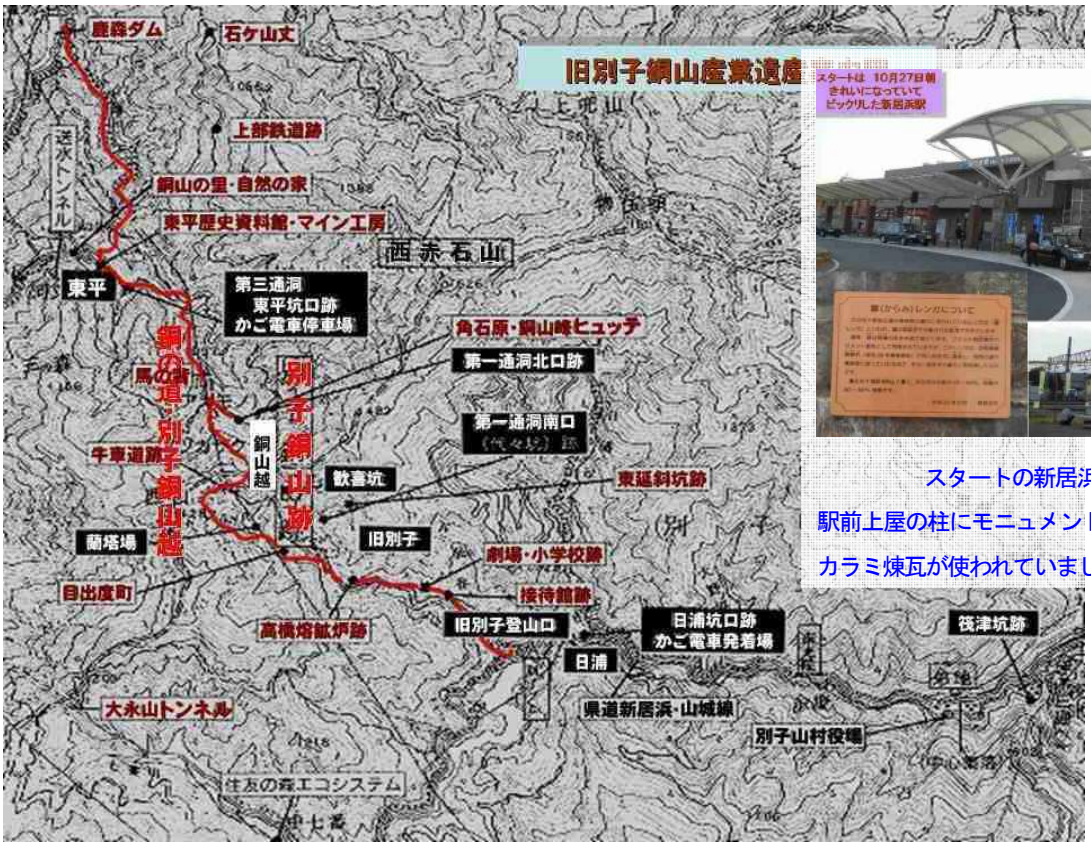


【参考】 Country Walk - 風来坊　2005年11月
「四国北岸を東西に貫く大断層「中央構造線」Walk
－ 赤石山系 別子銅山の山郷　別子山村 －
http://www.infokkna.com/ironroad/dock/walk/4walk10.pdf

# <<写真アルバム>>「別子山銅の道・銅山越」Walk 2012.10.27.

別子銅山　銅の道　銅山越 walk の写真を抜粋して掲載しました

1．新居浜駅から地域バスで国領川沿いを南側の旧別子銅山跡登山口日浦に向かう
2．別子山村日浦登山口から足谷川沿いの渓谷沿い旧別子銅山跡をたどって　別子山の頂　銅山越へ
3．別子山頂上稜線　銅山越
4．銅山越から馬の背を下って東洋のマチュピチュと呼ばれる「東平」旧別子銅山跡へ
5．東洋のマチュピチュと呼ばれる第三通洞を通じた旧別子銅山輸送の中心「東平」地区
6．東平からかつての生活道　旧道を鹿森ダム遠登志登山口に下る



スタートの新居浜駅
駅前上屋の柱にモニュメントとして旧別子銅山のカラミ煉瓦が使われていました

別子銅山　銅の採掘は東西に横たわる別子山の山頂部からほぼ垂直や斜めに山体の中に伸びてい銅鉱床に向かって南北両側の山腹から掘り進められた。
したがって　銅山の坑口や集落・諸施設は　この南側旧別子と新居浜側立川（角石原・東平など）の谷沿いのくぼ地にあり、最盛期には「通洞」と呼ばれる大きな水平坑道が三体をぶち抜き、山を越えることなく両側の坑道や諸施設・集落がつながれていた。
それまでは人馬一体となって別子山を越えてゆく厳しい「銅の道・別子銅山越」の仲持道が南から北の新居浜へと続いていた。

## 1.新居浜駅から地域バスで国領川沿いを南側の旧別子銅山跡登山口日浦に向かう

国領川沿いの別子ライン渓谷をまっすぐ北に遡るとそこはもう旧別子銅山の領域　鹿森ダムからジグザクに上って大永山トンネルを抜けて別子山村側へ

大永山トンネルを抜けると紅葉した銅山川渓谷　川向こうには四国脊梁石鎚山脈の岩峰が連ち並ぶ　別子ダム湖が見えるとまもなく日浦の登山口

## 2.別子山村日浦登山口から足谷川沿いの渓谷沿い旧別子銅山跡をたどって　別子山の頂　銅山越へ

**銅の道（1）**　別子山村日浦登山口入口周辺

**銅の道(2)**　小足谷集落周辺　　円通寺跡・小足谷集落跡・接待館跡

**銅の道(3)**　小足谷集落周辺　　小学校・劇場・小学校

**銅の道(4)**　紅葉が美しい足谷川の渓谷　渓谷に沿って北の別子山の森線銅山越へと銅の道が続く

**銅の道(5)**　旧別子の中心地　製錬所(熔鉱炉)があった高橋（1）　谷筋の対岸に見える製錬所跡の石垣

**銅の道(6)**　旧別子の中心地　製錬所(熔鉱炉)があった高橋（2）　ダイヤモンド水の広場には木炭倉庫や製鉱課　対岸に焼鉱炉

**銅の道(7)**　高橋周辺の谷筋　紅葉した渓谷が美しい。すぐ上の橋で　谷を渡って寛政谷から銅山越へ向かう道と
そのまま山腹を目出度町から銅山越へ行く道の分岐点　銅山越はもうまじか
かつては鉱石を焼く煙・亜硫酸ガスで山は丸裸　今産業遺産となった諸施設は自然の中にうずまっている

**銅の道(8)**　目出度町　対岸の木部の集落跡を眺めながら山腹を幾つか枝谷を渡ると旧別子の中心　目出度町
明治になるとこの目出度町から銅山越へ牛車道が開通する
大山神社や重任局がおかれ、別子山村の役場　住友の接待場
街には学校・郵便局・料亭が軒を並べ、病院もあったという。

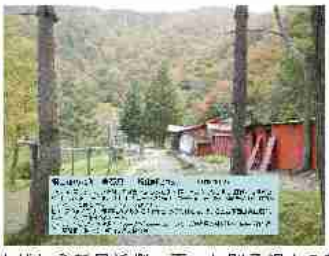
**銅の道(9)**　目出度町から銅山越下の牛車道へ　林の中の目出度町跡を抜け、送電鉄塔沿い尾根筋に登ってゆくと視界が開けてくる
登ってきた谷筋の紅葉が美しく、周囲の山々が遠くまで見晴らされる。
そして　不意に広い牛車道に合流した

**銅の道(10)**　銅山越下の牛車道　登ってきた美しい谷筋の景色を眺めながら牛車道を登る
旧別子銅山の産業遺産ががこの紅葉した谷筋の森の中にうずまっている

## 3.　別子山頂上稜線　銅山越

**銅の道(11)**　別子山　銅山越

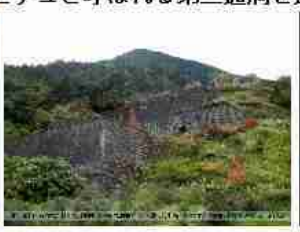
## 4．銅山越から馬の背を下って東洋のマチュピチュと呼ばれる「東平」旧別子銅山跡へ



**銅の道（12）角石原**　銅山越から新居浜側へ下った別子銅山の新居浜側中心地のひとつ　今は広場に銅山ヒュッテが建つ
明治になると角石原を通って　右西赤石山の山腹から　御谷川の谷の上方を石丈ケ山へ下る牛車道が開通し、
さらに第一通洞が開通すると角石原と石丈ケ山を結ぶ上部鉄道が開通する

**銅の道（11）**　新太平坑坑口に立寄ったあと馬の背・泉屋道を旧別子銅山「東平」に下る

## 5．　東洋のマチュピチュと呼ばれる第三通洞を通じた旧別子銅山輸送の中心「東平」地区



**銅の道（12）東平〈1〉第三通洞・かご電車**　鉱床がどんどん深くなり、この東平から第三通洞が別子山村側日浦まで通じた。
また、ここから索道で下に鉱石を輸送する新しい輸送システムが開通。
一般の人をも乗せるかご電車も走り、別子山村側と新居浜を結ぶ大動脈となった

**銅の道（13）**　東平〈2〉今の中心　東平歴史資料館・駐車場・マイン工房
現在　新居浜と別子山村を結ぶ別子ラインの県道鹿森ダムの横から行き違いが厳しいが、
東平へ登る車道が通じ、車だと気楽に???　東平まで、はいれるようになっている。

**銅の道（14）**東平の豪徴旧別子銅山の産業遺産群　　インクライン・索道停車場・貯鉱庫

## 6.　東平からかつての生活道　旧道を鹿森ダム遠登志登山口に下る

**銅の道（15）**　東平から旧道を鹿森ダム遠登志登山口に下る

**銅の道（16）**鹿森ダム　遠登志登山口周辺

**銅の道（16）**鹿森ダム　遠登志登山口周辺

**銅の道（17）**新居浜駅　　新居浜駅まで戻った時はもう
夕闇　別子の山のシルエットが駅の向こうにみえました

*前回別子を訪れたときには　交通事情の心配で、銅山越の道をたどれなかった念願の別子山銅山越。*
*ここに有名な別子銅山が本当に会ったのかと疑うほどに、その集落跡・諸施設産業遺産が、紅葉した別子の自然の中に溶け込んで、新しい景観を作っていました。*
*当初　天候と交通手段の不安一杯のスタートでしたが、*
*いろんな人にも出会え、楽しい銅山歩き*
*前回もビックリしたのですが、別子山村・銅山越の紅葉は素晴らしい。*
*へとへとになりましたが、満足の銅山越Walkでした。*

*2012. 10.27.夕　　別子ラインを新居浜へ*
*帰りのタクシーの中で*

【参考】Country Walk・風来坊　2005年11月
「四国北岸を東西に貫く大断層「中央構造線」Walk
－ 赤石山系 別子銅山の山郷　別子山村 －
http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/walk/4walk10.pdf

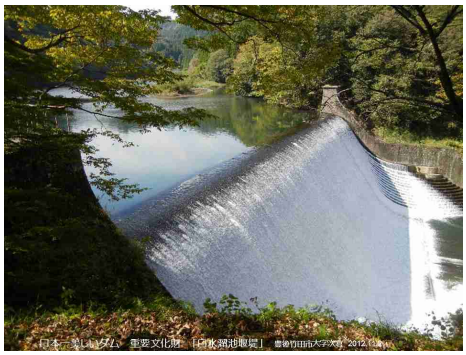
# 23. 私の阿蘇谷　古代の製鉄原料???「阿蘇黄土」　2012.11.1.&11.2.　by　Mutsu Nakanishi

**阿蘇谷にベンガラの原料・「阿蘇黄土」を訪ねました　また、帰りに日本一美しい姿ダム　豊後竹田　白水ダムへも**

阿蘇谷の中央にどっしり座す阿蘇五岳　仏の姿にみえる　阿蘇北の外輪山　大観望より　2012.11.1.

阿蘇谷の北側の壁近く狩尾地区を覆いつくす阿蘇黄土（渇鉄鉱）　卑弥呼の赤とも???

阿蘇谷に大量に埋蔵されている渇鉄鉱ベンガラ原料の「阿蘇黄土」
これが日本での製鉄の開始と関係していないか???
阿蘇谷に出現した大量の鉄を保有する村の出現は証拠こそないが、
それを示すのでは???
是非　一度阿蘇谷に行って　「阿蘇黄土」に出会いたいと・・・・・



日本一美しいといわれる白水溜池堰堤

弥生時代後期　卑弥呼の時代の前夜　先進材料であった鉄器を大量に集積した集落が山深い阿蘇谷に出現し、古墳時代が始まると忽然と消えていった。
同時期　淡路島にも大鍛冶工房集落五斗長垣内遺跡が出現し、同じように古墳時代が始まると忽然と消えてゆく。　謎の鍛冶工房村の盛衰??
実用鉄器が広く使われ始　める幕開の時代である。　弥生時代の末から古墳前期　日本の幕開けの時代に「日本でも小規模ながら製鉄が始まったのではないか??」と推察する研究者もいる

2011.10 月　愛媛大学東アジア古鉄文化センター歴史講演会「弥生時代の小さき製鉄か工具たち　阿蘇・下扇原遺跡の出土品から」で熊本県教育委員会　宮崎敬士氏から阿蘇谷　下扇原遺跡&小野原 A 遺跡の発掘調査の話を聞き、鍛冶工房を含む数多くの住居・鉄器・鉄滓が出土し、住居の床敷きやあちこちに大量にベンガラがあったと。
愛媛大村上恭通教授の話では「1000℃を越える高温で焼かれたと考えられる謎の鉄滓も出土しているが、
でも　炉跡からは粒状の鉄など製鉄が行われたという証拠は何一つ見つかっていない」とお聞きした。

阿蘇谷に大量に埋まっていて　今も採掘が行われていると聞く渇鉄鉱「阿蘇黄土」
この黄土を焼けば　簡単に真っ赤な「ベンガラ」が得られるといい、比較的低温度の 900℃程度以上で、溶け始め、凝集が起こると聞く。　是非とも一度　現物を見て　弥生の鉄に思いをはせたいと・・・・・
阿蘇の帰りに道がわからず不安でしたが、立寄った本当に美しい豊後竹田の山中にある「白水溜池堰堤」も紹介したい

【参考 1】　2010.11.5.　和鉄の道 10Iron11.pdf　http://www.infokkkna.com/ironroad/2010htm/2010iron/10iron11.pdf

# この秋　二つの弥生時代後期の製鉄関連遺跡の講演会を聞いて

「阿蘇谷 大量の鉄を集積した集落 下扇原遺跡　と　淡路島　西日本最大級の鍛冶工房村 五斗長下記内遺跡」

2010.11.5.　by Mutsu Nakanishi より

熊本県阿蘇谷にも　弥生時代後期　鉄を大量に集積した鍛冶工房を持つ集落が出現し大和王権の成立過程で消えていった
その出現と衰退は　淡路島に出現した西日本最大級の鍛冶工房村　五斗長垣内遺跡とよく似ている

弥生後期　大量の鉄を集積した集落群があった阿蘇谷

弥生後期の大鍛冶工房村　淡路島五斗長垣内遺跡

弥生時代後期　阿蘇山の外輪山の内側の山裾 阿蘇谷のベンガラ産地に下扇原遺跡など鉄を大量に集積した
鍛冶工房を持つ集落が幾つも出現し、大和王権の成立過程で　なぜかよく判らないが、一斉に消えて行った。
なぜ　こんな山深い阿蘇谷に大和をしのぐ鉄の集積があったのか??

もう　一つ　私のひそかな興味　「大量にこの地に存在するベンガラ原料・黄土が古代製鉄の原料になった可能性」
弁柄・黄土を還元すれば　鉄が取れる。　この数多くの鍛冶工房のどこかで、製鉄をやっていた痕跡がないだろうか???と聞いてみましたが、この阿蘇谷では見つからないと。　やっぱり　ベンガラをそのまま製鉄原料に使う軒無理なのでしょうか‥‥
（ただし、昭和の世界大戦　鉄不足の時　ベンガラが製鉄原料として　北九州に送られたと別の機会・資料で聞いたことがありました。）

## 10月9日　久しぶりに松山　愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター第6回　アジア歴史講演会へ

■ 10月9日　愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター第6回　アジア歴史講演会
「弥生時代の小さき鉄製加工具たち―阿蘇・下扇原遺跡の出土品から―」

愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター第6回　アジア歴史講演会

阿蘇谷　下扇原遺跡の位置

いつも新しい鉄の知見を教えてもらえる楽しみな愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センターの講演会。
第6回アジア歴史講演会「弥生時代の小さき鉄製加工具たち―阿蘇・下扇原遺跡の出土品から―」を聴講させてもらった。
あまり知らなかった北部九州以外の製鉄関連遺跡のシンポ。
　知らぬことばかりで、　阿蘇山の外輪山の中　阿蘇谷はベンガラの産地だと知っていましたが、弥生時代後期大量に鉄を保有した遺跡群があったこと初めて知りました。

弥生時代後期　阿蘇山の外輪山の内側の山裾　熊本県阿蘇谷のベンガラ産地に下扇原遺跡など鉄を大量に集積した鍛冶工房を持つ集落が幾つも出現し、大和王権の成立過程で　なぜかよく判らないが、一斉に消えて行った。

このベンガラ産地の村がなぜ　大量の鉄を持っていたのか
また、なぜ　大和王権の成立過程で　これらの村が阿蘇谷から消えて行ったのか　はまだよく判らないと聞きました。

また、手のひらに入る天草の砥石が大量に出土していることから、この地周辺の交易品として天草の砥石があったこと。
砥石を握って　砥石の方を動かして鉄製品を磨いていたことも興味深い
ベンガラの産地　阿蘇谷で出土した鍛冶工房　やっぱり　ベンガラの採取生産に大量の鉄工具が必要で、その供給基地だったのだろうか・・

## 【参考 2】阿蘇谷の「阿蘇黄土」と鉄分を大量に含む透明な湧水「赤水」（採取地　日本リモナイト）の実験

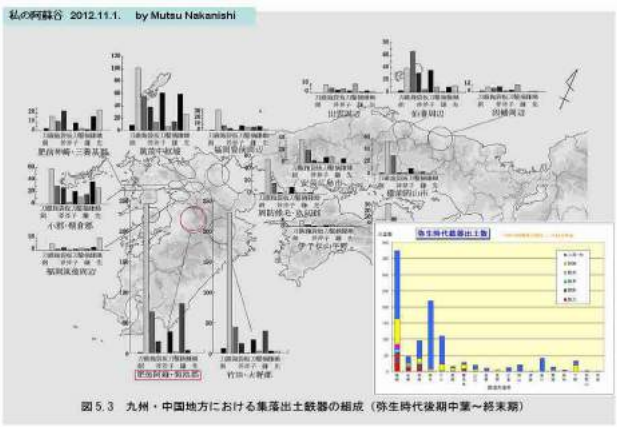
阿蘇黄土と鉄分を大量に含む湧水「赤水」　2012. 11. 1　日本モンサントで採取

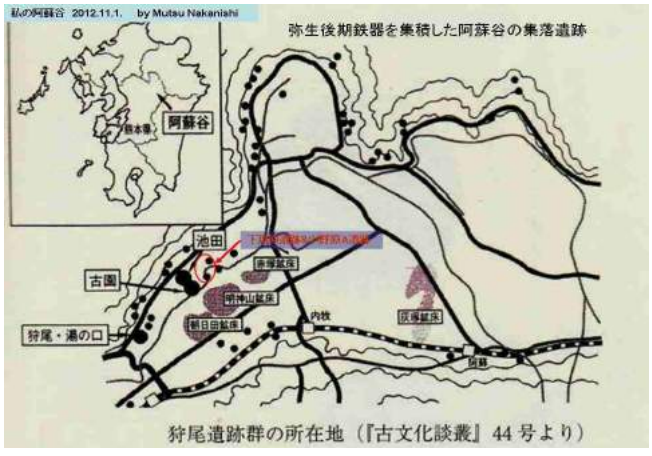
露天掘りしている日本モンサントで「阿蘇黄土」を分けてもらって、阿蘇谷狩尾地区田園地帯で「阿蘇黄土」を露天掘りしている日本リモナイトで「阿蘇黄土」と鉄分を大量に含む透明な湧水「赤水」を分けてもらって、持ち帰り実験してみました。こんなに簡単にベンガラに変化するのにビックリ。

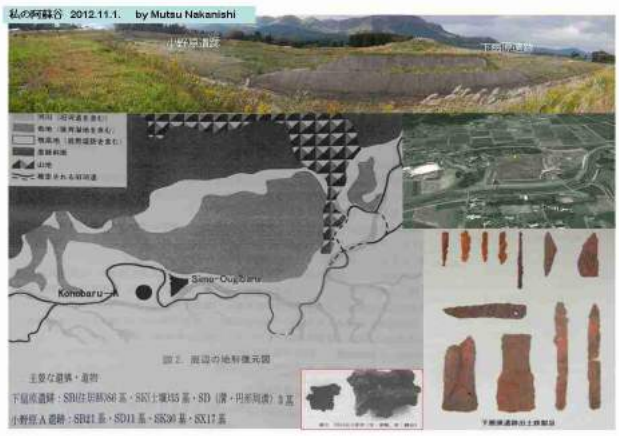
ますます、還元雰囲気で１０００℃ほどに焼いて、鉄滓と共に、鉄が凝集するのか??? やってみたいと。

# 【保存用写真スライド資料】　私の阿蘇谷　古代の製鉄原料???「阿蘇黄土」を訪ねて

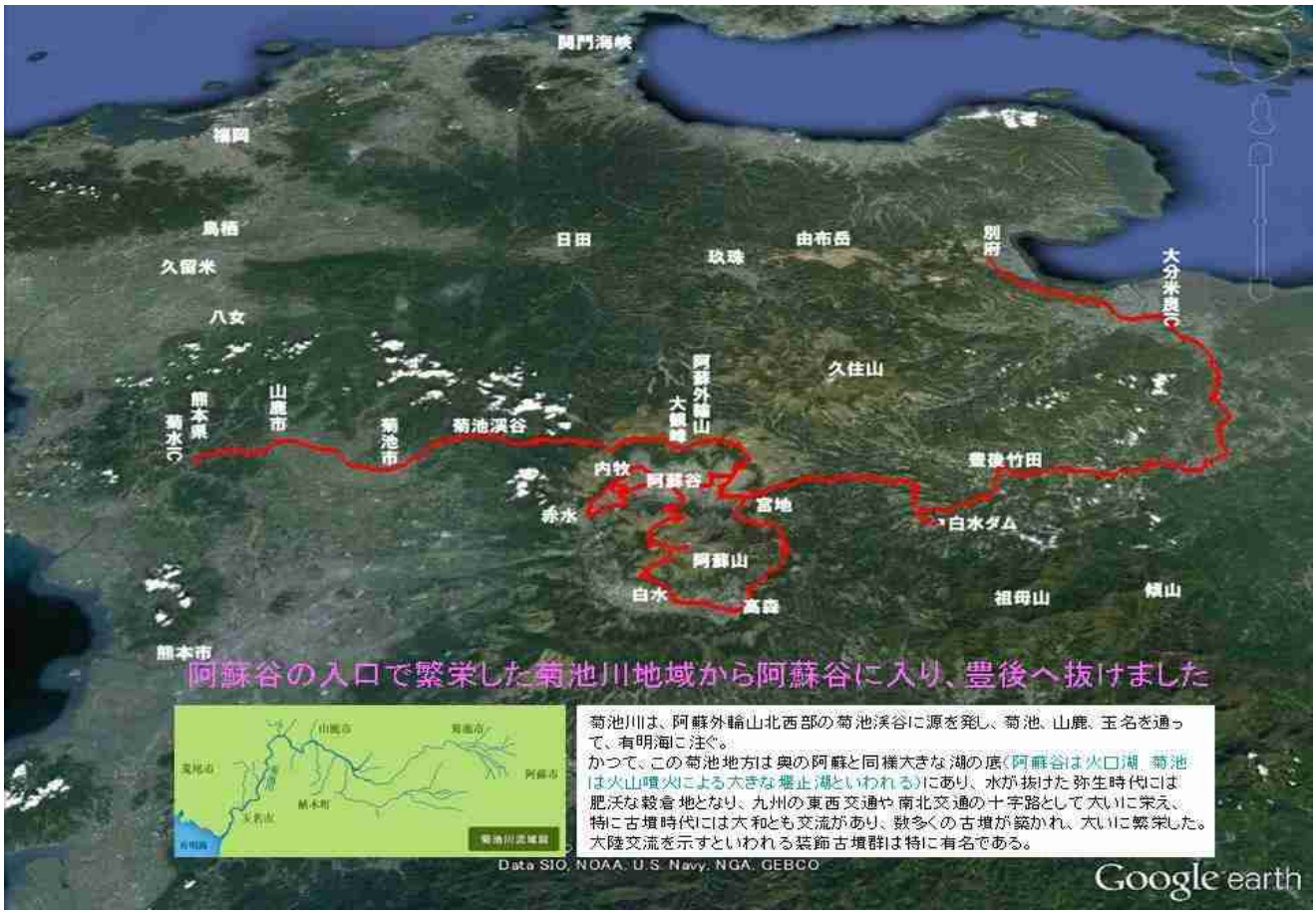
## 1.　私の阿蘇谷　阿蘇黄土と阿蘇谷の鉄　概説



## 2. 菊池渓谷から阿蘇へ　阿蘇谷から阿蘇五岳が見渡せる北側外輪山　大観望へ



山鹿から菊池の町への入り口で　2012. 11. 1.

菊池温泉の町並みより抜けて阿蘇へ
日田方面と菊池渓谷から阿蘇への道の分岐　2012.11.1.

菊池渓谷から阿蘇への道　2012.11.1.

スカイラインを外輪山の上に登って　日田からの道の合流点北山周辺　2012.11.2.

北山展望所周辺より　阿蘇谷の向こうに阿蘇五岳展望　2012.11.2.

# 阿蘇五岳

Five Peaks of Mt. Aso

阿苏五岳　阿蘇五岳

"아소 고가쿠"

根子岳、高岳、中岳、烏帽子岳、杵島岳の５つの山を阿蘇五岳と呼び、ここからの眺めは涅槃像に例えられます。

初秋の早朝は雲海が発生することもあります。年間で30日程度しか見ることができない貴重な現象です。

Mt. Aso consists of five peaks. The view of the peaks from here is likened to Buddha lying down to die (Nehan-zo).

阿苏山由5座山峰构成。从这里放眼望去，山峰的形状恍若释迦牟尼的卧像。在初秋的清晨有时还能看到云海景象。

阿蘇山由5座山峰構成，從這裡放眼望去，山峰的形狀恍若釋迦牟尼的臥像。初秋的清晨有時還能看到雲海景象。

"아소" 산은 5개의 산으로 구성되어 여기에서의 조망은 열반상으로 비유할 수 있습니다.

초가을의 이른 아침은 구름바다가 발생할 때가 있습니다.

大観峰より阿蘇谷の向こうに阿蘇五岳　　2012.11.1.
阿蘇五岳が 涅槃の姿で 阿蘇谷の中央に横たわっている

大観峰
Google earth

大観峰
大観望より内牧・狩尾の阿蘇谷をバックに　　2012.11.1.

大観峰より 阿蘇谷南東側の展望　2012.11.1.

大観峰より阿蘇谷西側　家の緑の下に広がる黒川・狩尾方面　2012.11.1.

やまなみハイウェイ城山展望所より 阿蘇谷一宮・阿蘇五岳の展望 2012.11.1.

## 3.　大観望から阿蘇谷に入って、一宮から根子岳の肩を越えて阿蘇谷南側の高森・白水へ

お店の裏側からはごつごつした根子岳が杉林越しにみられた　2012.11.1.

高森　らくだ山公園から眺める阿蘇五岳　　2012.11.1.

高森から白水水源に出て　南から北へ阿蘇ハイウェイを阿蘇山から阿蘇市に戻り
阿蘇黄土の露天掘り・弥生時代後期鉄器を溜め込んだ阿蘇谷の集落遺跡を見に行く

## 4.　白水から阿蘇山ドライブウェイで　阿蘇頂上を経て内牧へ　阿蘇谷を横断

県道111　阿蘇山ドライブウェイ南側　白水登り口　2012.11.1.

阿蘇中岳噴火口壁　2012.11.1.

草千里を経て阿蘇町へ下る　2012.11.1.

阿蘇草千里　2012.11.1.

草千里から眺めた阿蘇中岳　2012.11.1.

阿蘇山ハイウェイから北側の阿蘇谷・外輪山を眺める　2012.11.1.

阿蘇山ハイウェイから北側の阿蘇谷の中央部 阿蘇町を眺める　2012.11.1.

この阿蘇谷阿蘇町の中央左側　三久保から狩尾の田園表土をめくる
とその下には阿蘇黄土(褐鉄鋼)が層を成しているという

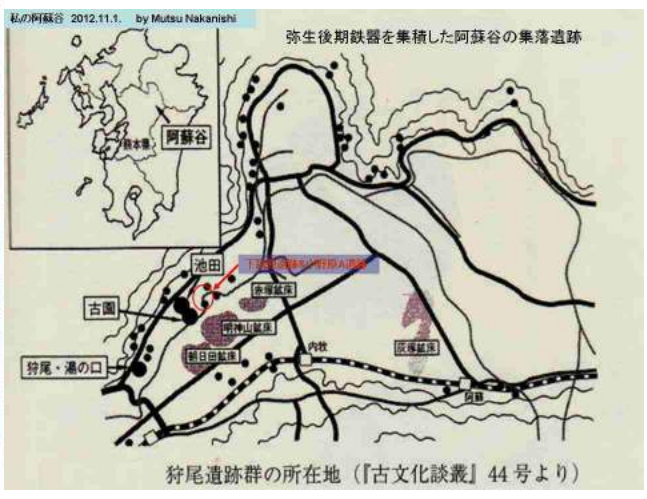
米塚周辺で

頭の部分がぽっかりへこんでいる

2012.11.1.

## 5.　阿蘇谷の北西部　狩尾地区に黄土・弥生の後期　鉄を集積した狩尾集落遺跡群を見に行く

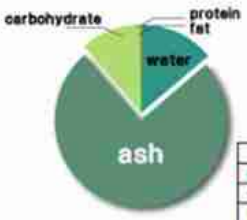
内牧から西へ曲がって大観峰のすぐ下　阿蘇谷の北崖　山裾を三久保・狩尾地区へ向かう　2012.11.1.



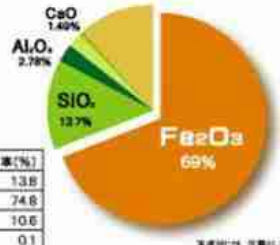
狩尾地区の田園のまっ真ん中　阿蘇黄土を露天掘りしている日本リモナイト工場を西側より望める　2012.11.1.

# 阿蘇黄土・リモナイト

リモナイトの成分



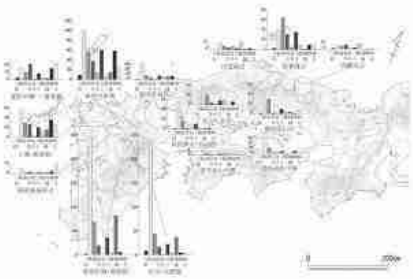

| 成　分 | 含有率[%] |
|---|---|
| 水　分 | 13.8 |
| 灰　分 | 74.8 |
| 炭水化物 | 10.6 |
| 粗脂肪 | 0.1 |
| 粗たんぱく質 | 0.6 |




| 成　分 | 化学式 | 含有率(%) |
|---|---|---|
| 鉄 | $Fe_2O_3$ | 69.08 |
| 珪　酸 | $SiO_2$ | 13.7 |
| リン | P | 0.094 |
| カルシウム | CaO | 1.49 |
| マグネシウム | MgO | 0.51 |
| ナトリウム | Na | 0.015 |
| カリウム | K | 0.2 |
| マンガン | Mn | 0.029 |
| イオウ | S | 0.579 |
| アルミニウム | $Al_2O_3$ | 2.76 |

阿蘇黄土・リモナイトを焼くと容易にベンガラが出来る。このベンガラを産する阿蘇谷の集落で弥生終末期大量に鉄を集積する集落が現われる。 阿蘇黄土は鉄を約**70%**含む褐鉄鉱で、製鉄原料になりうる。

日本で本格的なたたら製鉄が始まるのは**5**世紀後半。 このたたら製鉄に先立って 入手が容易な褐鉄鉱を原料に製鉄が始まったのではないか・・・ そんな痕跡がこの阿蘇谷にもあるのではないか・・・・と。
現在 この阿蘇谷にその痕跡は見られないが、弥生の末期 この阿蘇谷に鉄を大量に保有する集落が幾つも出現した。 これは何を意味するのか 不思議である。



狩尾遺跡群の所在地（『古文化談叢』44号より）

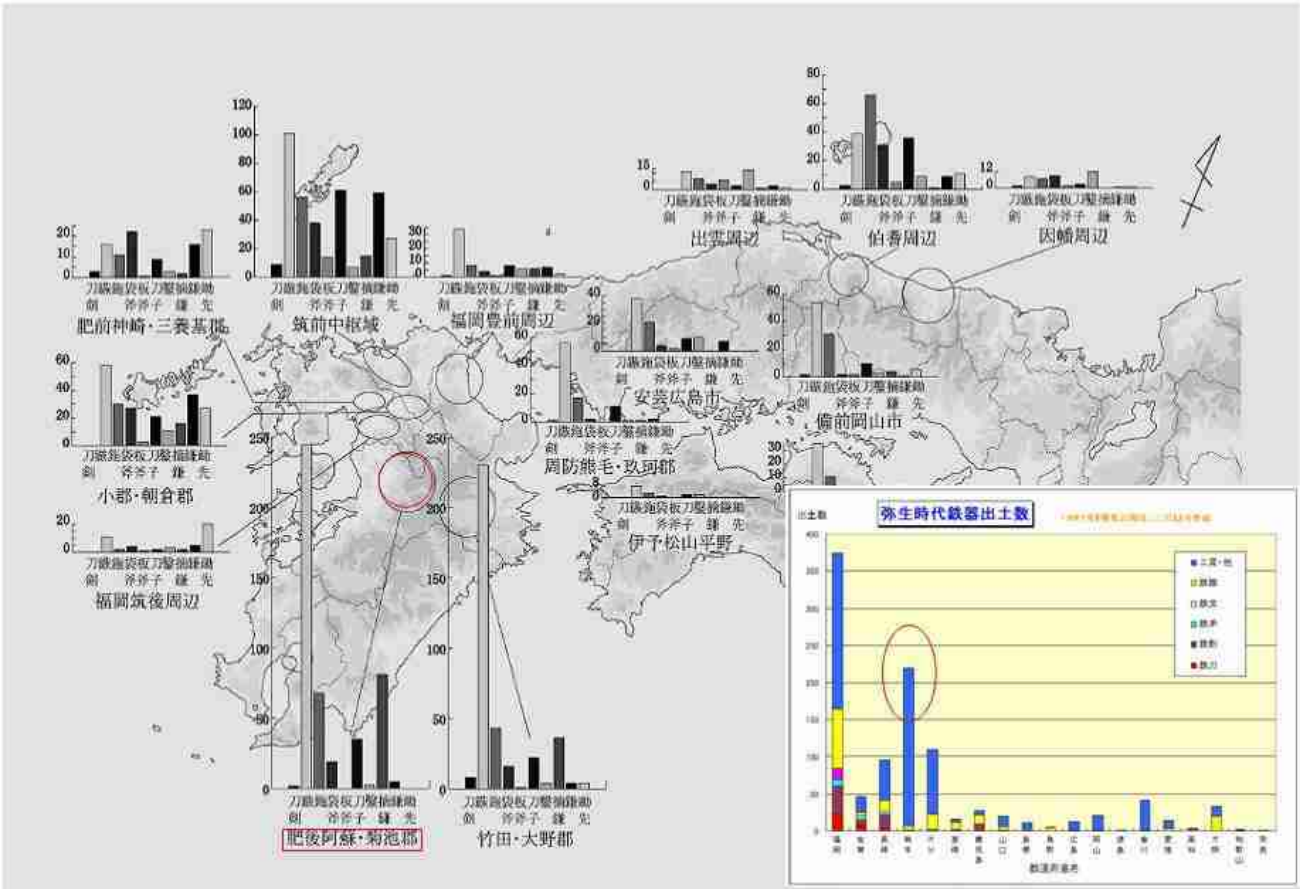
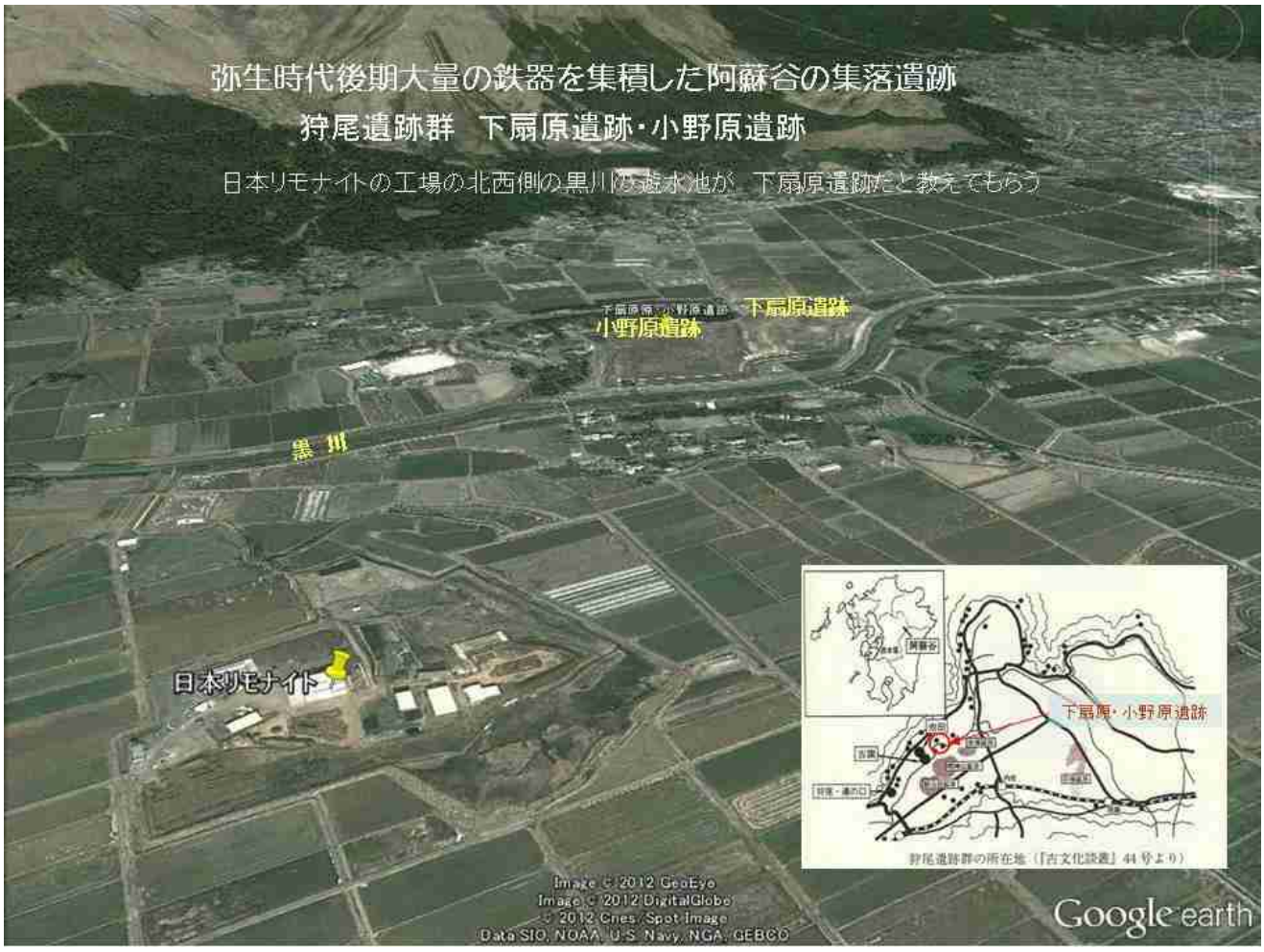



図 5.3　九州・中国地方における集落出土鉄器の組成（弥生時代後期中葉～終末期）

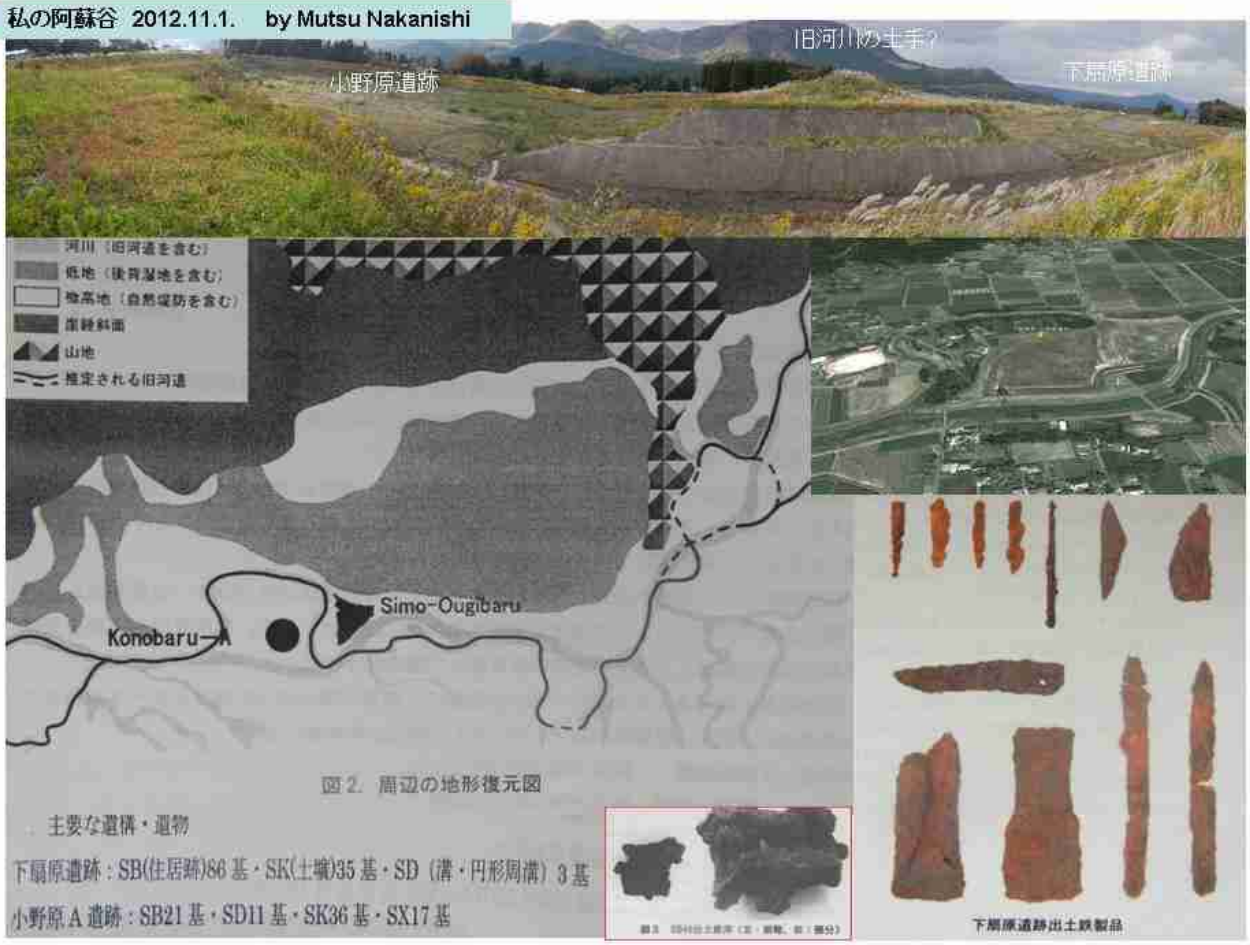


黒川　　小野原遺跡　　旧河川の土手??　　下扇原遺跡

**黒川の旧河川を改修して出来た遮水地　下扇原・小野原遺跡をつなぐ水路　2012.11.1.**

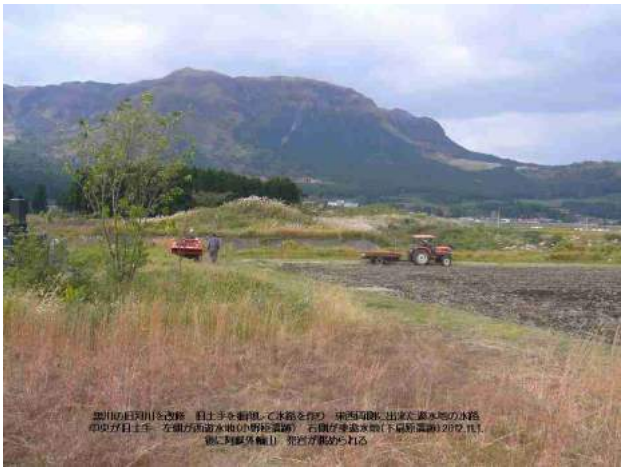
下扇原・小野原遺跡の縁を東西に流れる黒川　2012.11.1.

私の阿蘇谷 2012.11.1. by Mutsu Nakanishi



下扇原・小野原遺跡が出土した遮水地をつなぐ黒川の旧河川水路 2012.11.1
正面中央が旧河川の土手と推察される

小野原遺跡 南東端より 2012.11.1


黒川の旧河川を改修 旧土手を掘削して水路を作り 東西両側に出来た遮水地の水路
中央が旧土手 左側が西遮水地（小野原遺跡） 右側が東遮水地（下扇原遺跡）2012.11.1
後に阿蘇外輪山 弥百が眺められる

遮水地をつなぐ水路東側の奥に 下扇原遺跡 2012.11.1

狩尾 黒川沿いのこの周辺も弥生の集落遺跡だと土地の人が教えてくれた 2012.11.1.

夕暮れ近く 明日朝 もう一度狩尾地区を通って 中通古墳群から阿蘇神社のある一宮へ行くことにして 赤水のホテルへ向かう 2012.11.1.

## 6.　翌朝　１１月２日　鉄を集積した狩尾集落遺跡群から阿蘇町の中通遺跡群・阿蘇神社へ

小野原遺跡　西南側から眺める

小野原遺跡　東側から眺める

下扇原遺跡を南東側から眺める

川の岸のよどみには褐色の鉄分が堆積している

中通古墳群　　車塚1号墳　　2012.11.2.

奉献
銘水 神の泉

めざそう!
阿蘇世界文化遺産
～ 阿蘇の文化資産を世界遺産に ～

## 7. 帰路は日本で一番美しいという豊後竹田　白水溜池堰堤をへて別府へ

### 「日本一美しいダム　白水溜池堰堤」

高速道路のSAでもらったMapに素晴らしい堰堤の写真
その美しさに家内と二人　帰りに是非立寄りたいと。

場所は豊後竹田　阿蘇からの帰りに行ける

地図を見ると　場所は記されているが、道がない。
ナビに名前を入れるが出てこない。　住所は2つ　右岸・左岸の
両方が記載されていて、道が細いので　運転に注意とある。

ナビに住所を入れると道のない祖母山塊の山中に旗が立つ。
大きな地図帳の大野川の川筋に白水ダム・白水溜池溜池堰堤
の名がある。

案内が掲載されているのだから行けるはず。
豊後竹田へ向いて走って、途中で道を聞こう。
阿蘇から国道57号線を走って　途中　一番近そうなJR豊肥線の駅がある豊後荻町駅に立寄ればはっきり出来る。
是非立寄ろうといつになく二人の意見が一致。

阿蘇神社の参拝を済ませ、阿蘇谷の予定を全部済ませたのが、朝10時。
「時間はたっぷりある」と予定通り、白水溜池堰堤へ向かって　阿蘇を後にする。

全く土地感のない場所ですが、流れ落ちる水の美しさに　気持ちはもう阿蘇から白水堰堤に向いている。

国の重要文化財ということも全く知りませんでしたが、　途中　教えてもらいながら、ナビ併用で行き着きました。

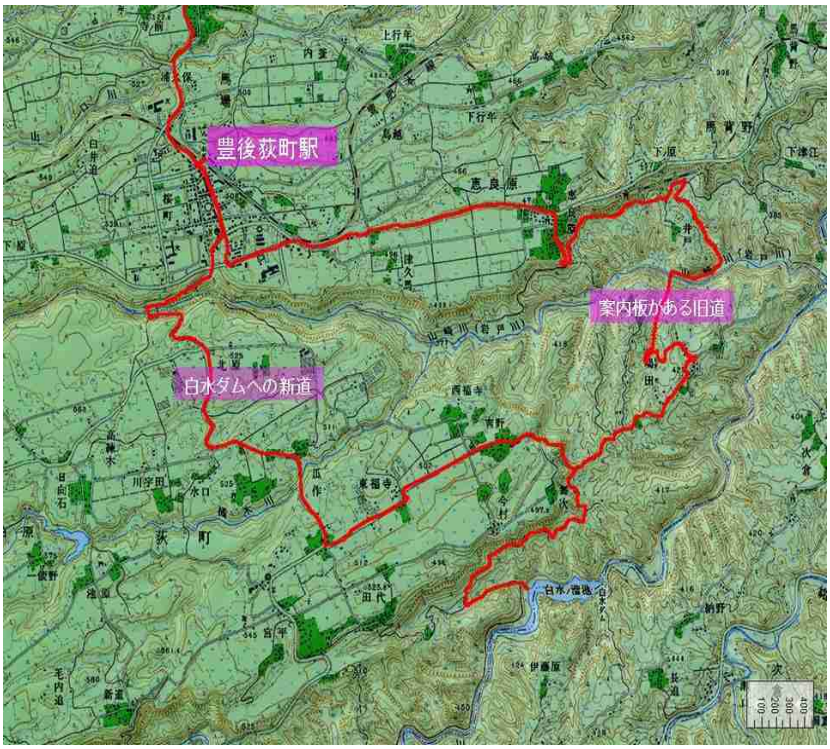
掛け値なしに素晴らしい　水の流れ落ちる姿の美しさは　やっぱり日本一

ダムサイトの左岸・右岸どちらにも　道はok　なのですが、反対側へ行くにはダムサイトの下を通り、堰堤の端の手すりのない急な狭い石段をよじ登らねばならず、要注意。(近くに橋はない)

### ⑤白水溜池堰堤（はくすいためいけえんてい）

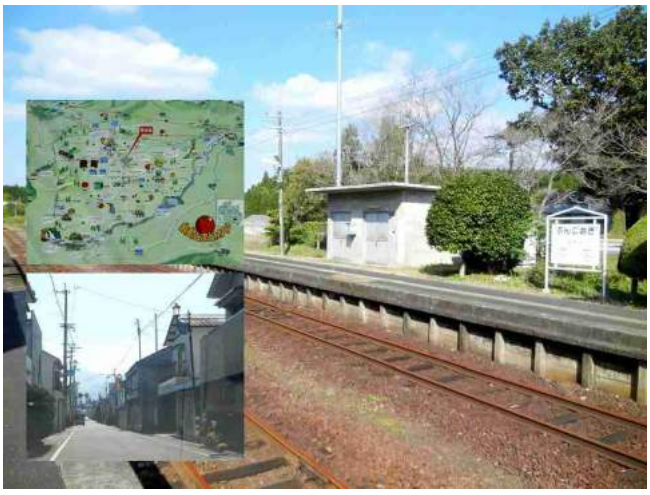
阿蘇の外輪山を水源として、大分県を東西に流れる大野川に設置された堰堤。国の重要文化財に指定されており、「日本一美しいダム」として広く知られる。通称白水ダムと呼ばれ、流れる水が白いレースのような模様を作り落ちていく姿は、時が経つのを忘れるほどの美しさ。これは火山灰土で地盤が弱い土地のため、水の流れを緩やかにする工夫から生まれたもの。また、右岸と左岸では石の積み方にも違う工夫があり、角度によって変わる眺めを楽しめるのも魅力。

●アクセス：大分自動車道 大分米良 IC から車で約 100 分
右岸：竹田市大字次倉 3732-2、3732-5
左岸：竹田市荻町嘴田 6225-3、6225-4



阿蘇谷を後にして、宮地駅前から
国道57号線豊後竹田方面へ外輪
山を越えて行く
2012.11.2.

荻町駅へ向かう道で「白水ダム」の標識を見つけて　ほっとする　2012.11.2.
また、知らなかったのですが、荻町はトマトの名産地　おいしいトマトが箱で買えました

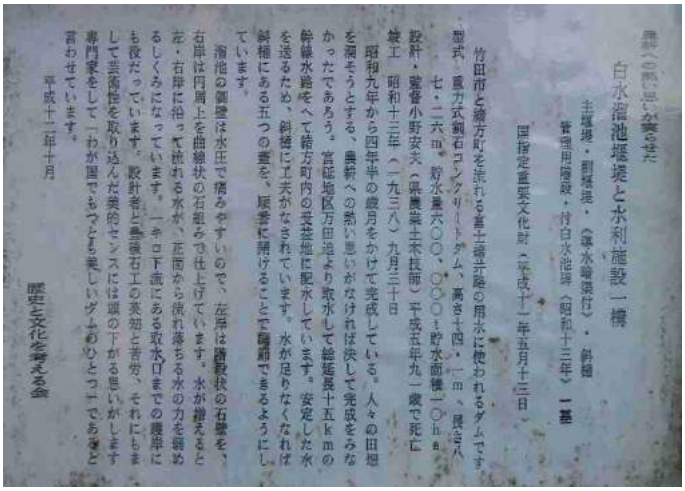


日本一美しいダム　重要文化財　「白水溜池堰堤」　豊後竹田市大字次倉　2012.11.2.

駅の案内所とは違う道と思いつつも　しっかりした案内標識があるのでなんですが、　谷を幾つも越えてゆく細い道　やっぱりすごいなあとどんどん山の中へ入ってゆく。途中谷を越えると小さな集落もあり、これ別に道がありそうと……　でも　駅町から30分足らずで山深い白水ダムのダムサイトへ。

帰りに寄ったのですが、標識があるのは旧道　ダムの上流側に行けば、集落（舞次）のある広い道があって　スムーズに駅町に帰り着きました。

白水堰堤へ行く途中　祖母山の山並が眺められました　2012.11.2.


農耕への熱い思いが実らせた

白水溜池堰堤と水利施設一構

主堰堤・副堰堤・（導水暗渠付）・斜樋

管理用施設・付白水池碑（昭和十三年）一基

国指定重要文化財（平成十一年五月十三日）

竹田市と緒方町を流れる富士緒井路の用水に使われるダムです。型式　重力式割石コンクリートダム、高さ十四・一m、長さ八七・二六m。貯水量六〇〇、〇〇〇t貯水面積一〇ha。設計・監督小野安夫（県農業土木技師）平成五年九一歳で死亡。竣工　昭和十三年（一九三八）九月三十日

昭和九年から四年半の歳月をかけて完成している。人々の田畑を潤そうとする、農耕への熱い思いがなければ決して完成をみなかったであろう。宮砥地区万田迫より取水して総延長十五kmの幹線水路をへて緒方町内の受益地に配水しています。安定した水を送るため、斜樋に工夫がなされています。水が足りなくなれば斜樋にある五つの壷を、順番に開けることで調節できるようにしています。

溜池の側壁は水圧で痛みやすいので、左岸は階段状の石壁を、右岸は円周上を曲線状の石組みで仕上げています。水が増えると左・右岸に沿って流れる水が、正面から流れ落ちる水の力を弱めるしくみになっています。一キロ下流にある取水口までの護岸にも役だっています。設計者と豊後石工の英知と苦労、それにもまして芸術性を取り込んだ美的センスには頭の下がる思いがします。専門家をして「わが国でもっとも美しいダムのひとつ」であると言わせています。

平成十二年十月

歴史と文化を考える会

日本一美しいダム　重要文化財　「白水溜池堰堤」　豊後竹田市大字次倉　2012.11.2.

日本一美しいダム　重要文化財「白水溜池堰堤」　豊後竹田市大字次倉　2012.11.2.

日本一美しいダム　重要文化財「白水溜池堰堤」　豊後竹田市大字次倉　2012.11.2.

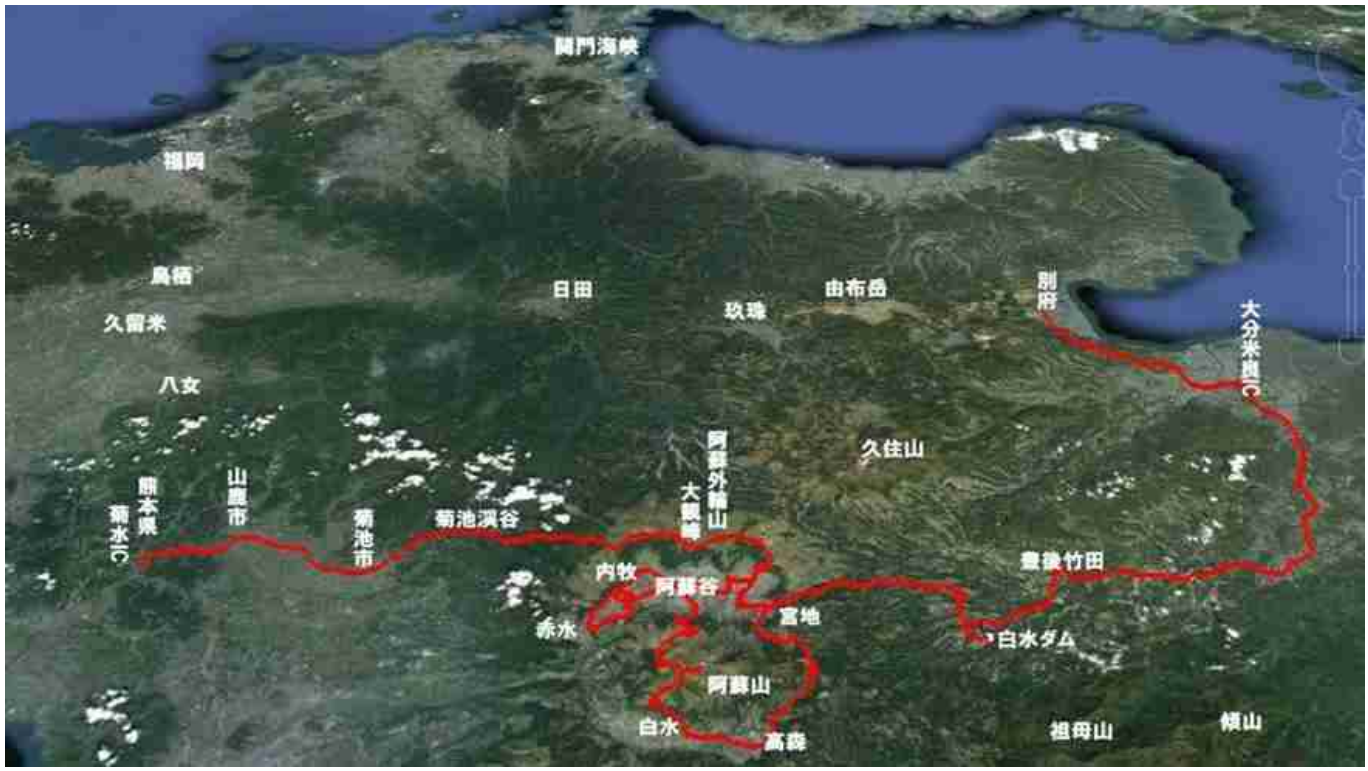
日本一美しいダム　重要文化財「白水溜池堰堤」　豊後竹田市大字次倉　2012.11.2.

日本一美しいダム　重要文化財　「白水溜池堰堤」　豊後竹田市大字次倉　2012.11.3

白水ダムの谷筋から尾根道にでると祖母山の山並が眺められました　2012.11.2.

東九州ドライブウェイ　左から由布岳　鶴見岳　高崎山　20102.11.2.

修学旅行で行った別府坊主地獄の記憶がないという家内のため途中下車　2012.11.2.




## 【参考した資料】


1 愛媛大学東アジア古代鉄文化センタ 第6回アジア歴史講演会「弥生時代の小さき鉄製加工具たち」
宮崎敬士氏「下扇原遺跡・小野原A遺跡」 村上恭通氏「中九州における弥生時代鉄製品研究の論点」ほか

2 日本リモナイト home page http://www.limonic.co.jp/

3 【和鉄の道】 1 第6回アジア歴史講演会を聞いてより 「阿蘇谷 大量に鉄を集積した集落 下扇原遺跡」 2010.11.5

4 【和鉄の道】 2 九州の縄文・古代文化を訪ねて 1. 熊本県菊池川流域の装飾古墳群 2004.10.6

5 【和鉄の道】 3 九州 古代の豊の国から阿蘇へ 鉄の国「豊(豊前・豊後)」臼杵石仏を作らせたのは炭焼き長者 ???

和鉄の道・iron road　風来坊 Country Walk

水行末　雲来末　風来末　和鉄の道 風来坊

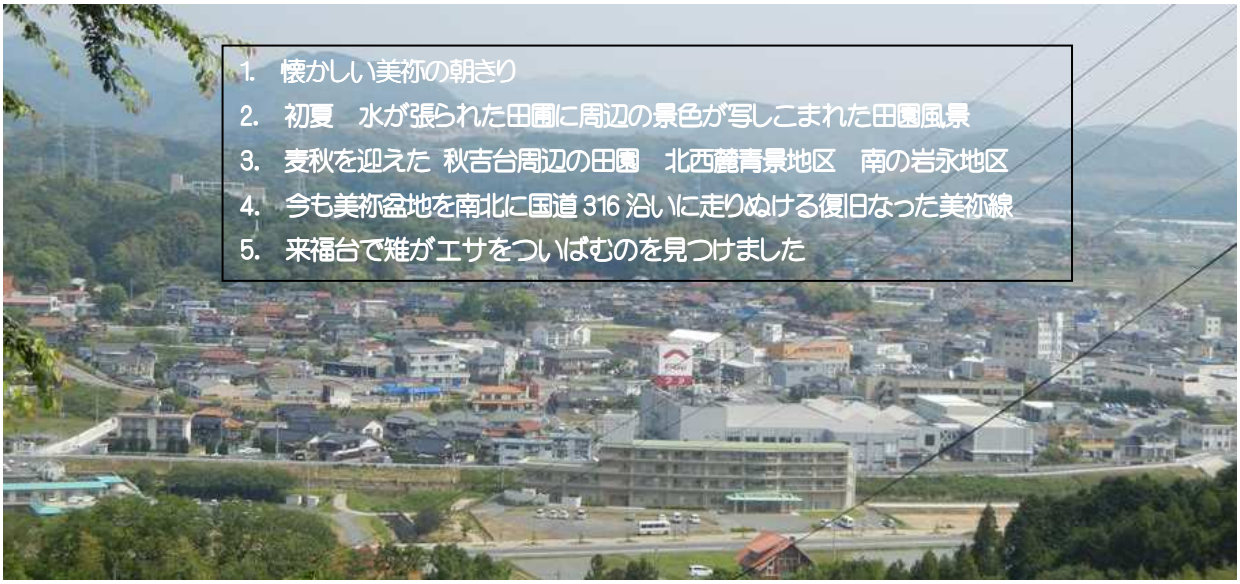
# 山口・美祢・長門の四季【10】2012

1. 2012 初夏の山口美祢【1】
   【スライド動画&写真】 **私の心に残る風景 初夏 美祢の田園風景** 2012.5.25.～5.29.
   誰にも 記憶にとどめておきたい心の風景がある　美祢の初夏は そんな私の心に残る風景
2. 2012 初夏の山口美祢【2】
   【スライド動画&写真】 **森に包まれた美祢湖 初夏の野の花 walk** 2012.5.26.
3. 2012 初夏の山口美祢【3】
   【スライド動画&写真】 **初夏の秋吉台カルスト 野の花 walk** 20012.5.26
   アザミなど 初夏の野草を見たくて 久し振りに
   カルスト台地内の散策路を 展望台から若竹山・剣山までぶらぶら歩きました

2012　初夏の美祢【1】

# 私の心に残る風景　初夏　美祢の田園風景　　2012.5.25.～5.29.

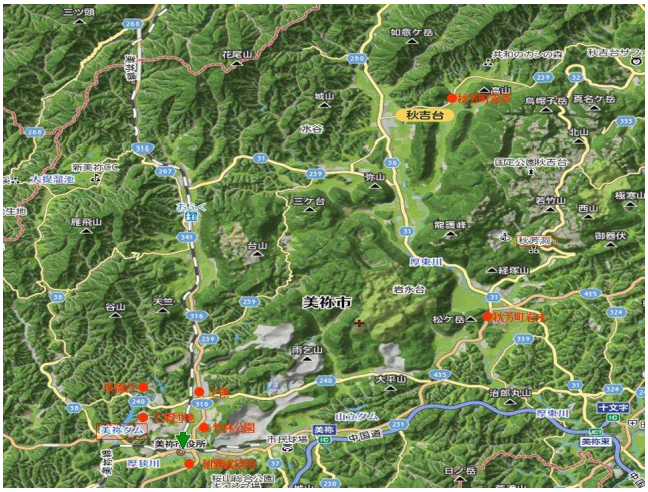
雨上がり 朝霧の中　田圃に水が入り　美祢の田園が一番美しいとき
この時期　美祢を訪れる楽しみのひとつ　とほっとする一番好きな景色のひとつである




国道 316　朝霧展望所から見る美祢の街　　2012. 5. 28.

もう恒例になりましたが、梅雨の始まる初夏と晩秋と 2 回/年　美祢の家の庭の草むしりを兼ねて今年もまた、5 月 24 日早朝に神戸をでて、半年ぶり振りに山口県美祢へ行ってきました。
庭の草むしりもさることながら、毎度　美祢周辺の田園風景を見るのと美祢時代の知人と再会できるのが楽しみ。
もう毎度同じ景色を期待して出かけるのですが、この時期の美祢の田園風景。　やっぱり美しい。気持ちをなごませ、ほっとする景色で、今年も「もう　今度いつ見られるか・・・・」と思いながら　デジカメでバチバチ。
そんな　この初夏　美祢周辺で眺めた美祢の景色を写真アルバムにまとめました。

1. **懐かしい美祢の朝きり**　　美祢の街は山口県の中央　周囲を山々に囲まれた盆地で雲海が素晴らしい霧の街
   美祢に赴任していた頃　雨上がりの早朝　一面　背の高さほどの霧が埋める野っ原の中をつききって出勤したものでした。　そんな野っ原の朝霧に出会えました
2. **初夏　水が張られた田に周辺の景色が写しこまれた美祢の田園風景**
   梅雨まじか　田植えが始まって　その田圃に周囲の田園風景が写しこまれて映える。
   美祢のシンボル　セメント工場の巨大煙突も。　今年は国道 316 号脇の竹林公園の丘の上に登って東側から　美祢の街や田圃を眺めました
3. **麦秋を迎えた秋吉台周辺の田園風景　北西麓青景地区　南の岩永地区**
   毎年気になる初夏の美祢周辺の麦秋　　今年も収穫期を迎えた麦が一面に広がる光景が見られました
4. **美祢盆地を南北に国道 316 沿いに走りぬける復旧なった美祢線**
   2010 年の大水害で長らく不通になっていた美祢線　やっと昨年秋全線復旧　元気に気動車が走っていました
5. **来福台で雉がエサをついばむのを見つけました**
   「ケ～ン」と鋭い雉の鳴声　来福台の住宅地の雑草地で　えさを探す雉を見つけました




美祢　雲海公園からの街の眺め　&　美祢周辺関係図

## 1.　懐かしい美祢の朝きり

美祢の街は山口県の中央　周囲を山々に囲まれた盆地で雲海が素晴らしい霧の街

美祢に赴任していた頃　雨上がりの早朝　一面　背の高さほどの霧が埋める野っ原の中をつききって出勤したものでした。　そんな野っ原の朝霧に出会えました

美祢市工業団地造成地の野っ原にただよう朝霧　2012.5.26.　早朝

## 2. 初夏　水が張られた田に周辺の景色が写しこまれた美祢の田園風景

梅雨まじか　田植えが始まって　その田圃に周囲の田園風景が写しこまれて映える。
美祢のシンボル　セメント工場の巨大煙突も。　今年は国道 316 号脇の竹林公園の丘の上に登って
東側から　美祢の街や田圃を眺めました

国道 316 号横　竹林公園の丘から眺める美祢の街と市街地　　2012.5.26.

## 3.　麦秋を迎えた秋吉台周辺の田園風景　北西麓青景地区　南の岩永地区

毎年気になる初夏の美祢周辺の麦秋　　今年も収穫期を迎えた麦が一面に広がる光景が見られました

【　秋吉台の南麓　秋吉町岩永地区　　2012.5.26　】.

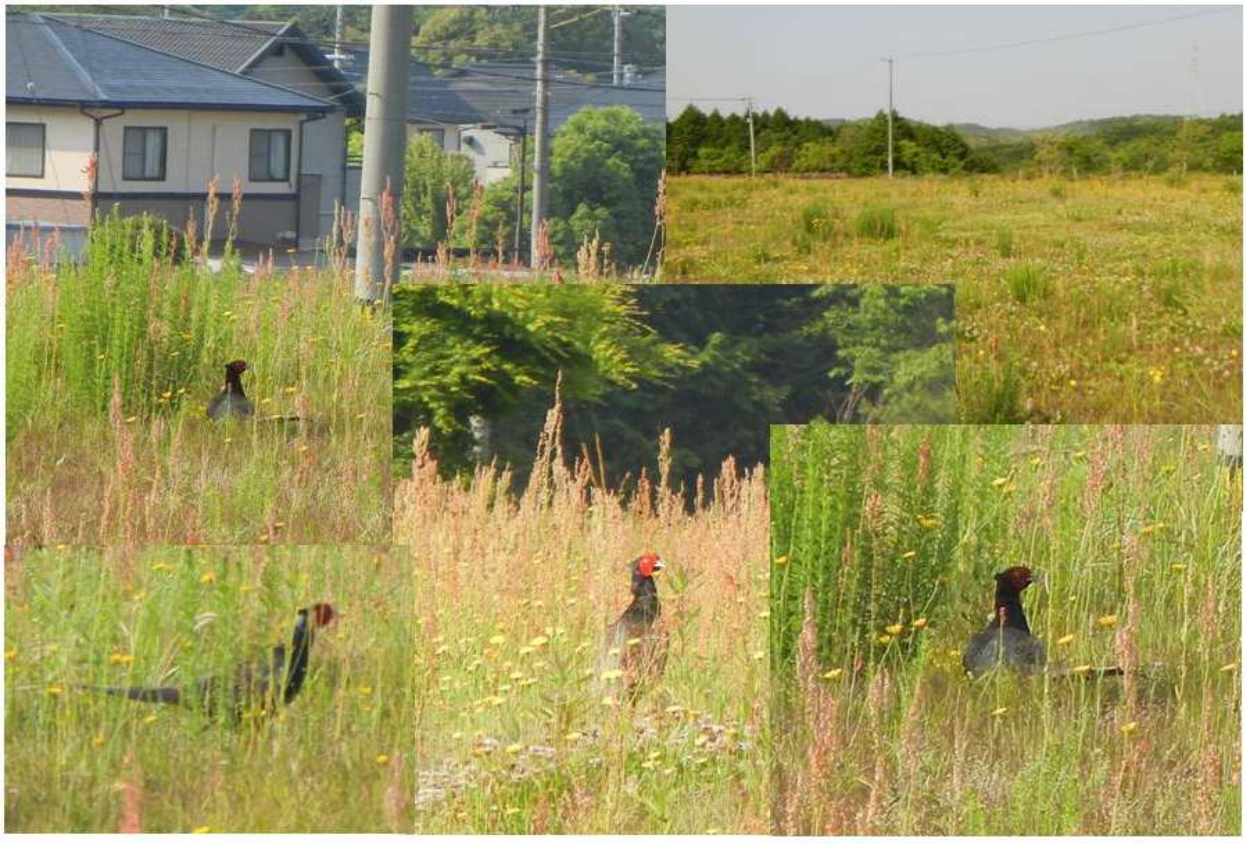
秋吉台南麓　秋芳町岩永地区で　2012.5.26.

## 4.　美祢盆地を南北に国道 316 沿いに走りぬける復旧なった美祢線

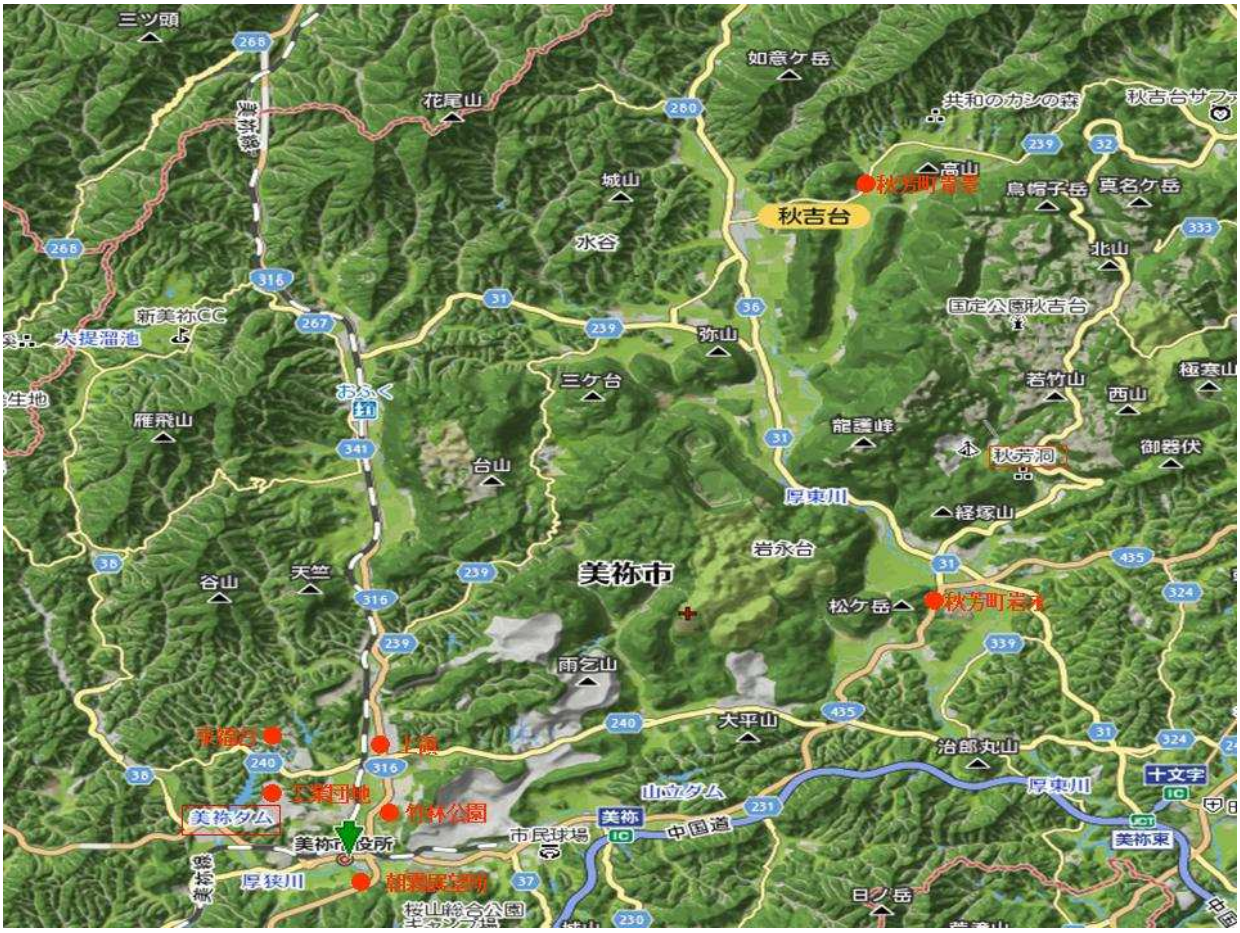
2010 年の大水害で長らく不通になっていた美祢線　やっと昨年秋全線復旧　元気に気動車が走っていました

## 5.　来福台で雉がエサをついばむのを見つけました

「ケ～ン」と鋭い雉の鳴声　来福台の住宅地の雑草地で　えさを探す雉を見つけました



来福台で　えさを探す雉をみつけました　　2012.5.29.



美祢市のシンボル　宇部興産の巨大煙突の風景

2012.5.26.　来福台への坂道で

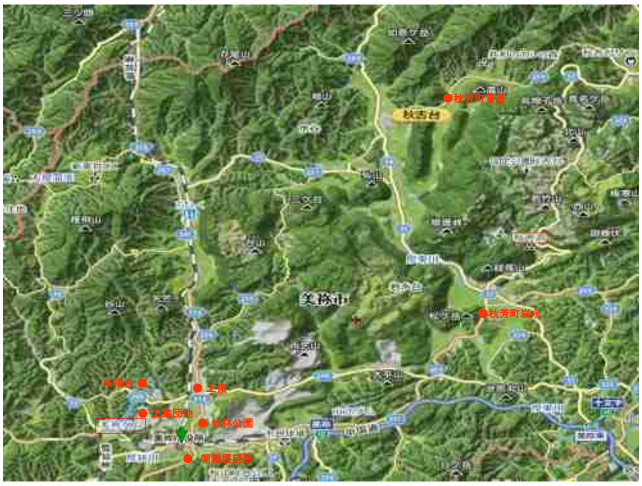
誰にも　記憶にとどめておきたい心の風景がある

美祢の初夏は そんな私の心に残る風景

国道316　朝霧展望所から見る美祢の街　　2012.5.28.

私の心に残る風景　初夏の美祢の田園風景
雨上がり 朝霧の中 田圃に水が入り　美祢の田園が一番美しいとき
毎年　この時期　美祢を訪れる楽しみのひとつであり
この景色を見るとほっとする　一番好きな景色のひとつである
1. 懐かしい美祢の朝霧
2. 初夏の美祢市街地周辺　水が入った田園風景
3. 麦秋を迎えた 秋吉台北西麓　青景地区
4. 今も美祢盆地を南北に国道316沿いに走りぬける復旧なった美祢線
5. 来福台で雉がエサをついばむのを見つけました
国道316　朝霧展望所から見る美祢の街　　2012.5.28.

なつかしい美祢の朝霧　2012.5.28.早朝
美祢の朝霧　美祢湖西に広がる広大な工業団地造成地に広がる朝霧　2012.5.26.朝
来福台の南に広がる広大な野原に　なつかしい朝霧が地を這って流れている　懐かしい美祢の景色
美祢に赴任していた頃　地を這う霧の中を掻き分け　通勤したものである


秋芳町青景
秋吉台
美祢市
秋芳町岩永
来福台
上領
工業団地
竹林公園
朝霧展望所

初夏の美祢市街地周辺　水が入った田園風景
2012.6.26.
国道316号線　美祢竹林公園からながめた西側に広がる市街地　2012.5.26.

美祢の朝霧　美祢湖西に広がる広大な工業団地造成地に広がる朝霧　2012.5.26.朝

国道316号線　美祢竹林公園からながめた西側に広がる市街地　2012.5.26.

美祢の朝霧　美祢湖西に広がる広大な工業団地造成地に広がる朝霧　2012.5.26.朝

水の張られた下領の田園の景色　2012.5.26.

田植えの真っ最中　美祢　国道316号線沿いで　　2012.6.26.

下領の厚狭川に架かる橋から南側を眺める　2012.5.26.

田植えの真っ最中　美祢　国道316号線沿いで　　2012.6.26.

上領から来福台への坂道　2012.6.26.

麦秋を迎えた 秋吉台北西麓　青景地区　　2012.5.26.

古い金属資源採取の地青景地区　今は麦生産の盛んなところ

毎年この時期　麦秋を迎え　田園は黄金色に染められる

秋吉台南麓　秋芳町岩永地区で　2012.5.26.

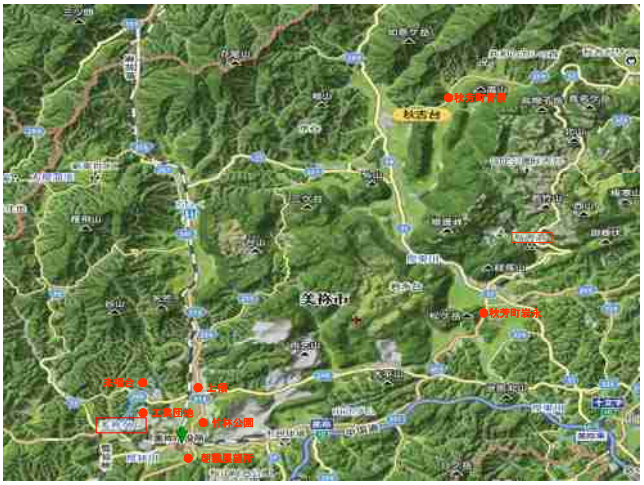
富校生の足　美祢線　美祢駅　2012.5.25.

**復旧なった美祢線**
**今も美祢盆地を南北に国道316沿いに走りぬける**

国道316と並行して走る美祢線　2012.5.24.

**来福台で雉がエサをついばむのを見つけました**
**2012.5.25.**
早朝　来福台の造成地で「ケ～ン」と鋭い泣き声
よく見ると草むらの中に　雉がえさを探していました

美祢駅北　吉則踏切　2012.5.25.



美祢市のシンボル　宇部興産の巨大煙突の風景
来福台への坂道で　2012.5.26.

誰にも　記憶にとどめておきたい心の風景がある
美祢の初夏は　そんな　私の心に残る風景

来福台で　えさを探す雉をみつけました　2012.5.29.

初夏の山口美祢【2】 Mine-2

# 森に包まれた美祢湖　初夏の野の花 walk　2012.5.26.

美祢市の中心部　来福台のすぐ南に接して、美祢の工業用水をまかなう美祢湖があり、
周囲は森に包まれ、公園として整備され、湖を巡る周回路がある。
でも　美祢の人の動きが減少したり、新しい道が通じたりで、
この周回路も忘れられた存在に……
人の手が行き届かずか、静かな森と湖面が織り成す野鳥や野の草花の宝庫で、
美祢の住人もほとんど知らないが、どこにも負けない隠れた森の散策コースです。
5月末、仲間の花の山の便りを聞いて、美祢へ出かけるのを機会に
今年は美祢湖･秋吉のカルストの野の草花散策にを歩こうと…。
初夏の美祢湖周辺　5月26日朝ふらっと美祢湖周辺を歩いて撮った写真をスライドにしました。

初夏の野の花散策Walk

森に包まれた美祢湖の周回路walk 2012.5.26.
初夏の野の花散策Walk
美祢ダム堰堤から見た来福台 20121.6.26.

美祢ダム

来福台
美祢湖
美祢ダム
工業団地造成地
美祢市立病院
美祢駅
(c) 2012 Cnes / Spot Image
Google earth

美祢湖　周回路でみつけた野の花　2012.6.28

美祢湖　周回路でみつけた野の花　2012.5.26

森に包まれた美祢湖の周回路walk　2012.5.26.
初夏の野の花散策Walk

森に包まれた美祢湖の周回路walk　2012.5.26.
初夏の野の花散策Walk
美祢ダム堰堤から見た来福台　20121.6.26

美祢ダム

美祢ダム堰堤から見た来福台　20121.6.26.

美祢市立病院前　こんな洒落たバスが通うようになりました　2012.5.26.

美祢湖横の工業団地横の野原　2012.5.26.

森に包まれた美祢湖の周回路walk　2012.5.26.
初夏の野の花散策Walk
【おわり】
美祢湖集回路でみつけた野の花　2012.6.26.

2012 初夏の美祢 【3】 Mine-3

# 初夏の秋吉台カルスト　野の花　walk　20012.5.26.

5 月 26 日の午後　庭の草抜きも所用も予定よりすんで　フリーになった午後、 野草に包まれた美祢湖の周回路の道脇にピンクのアザミや白い花がきれいに咲いているのを見たこともあって、「秋吉台の中の散策路　アザミやほかの初夏の野の花がきれいに咲いているはず。　秋吉台の中の散策路の地形もゆっくり眺めたい」と　急に思い立って　家内と二人秋吉台カルストの散策路を展望台から若竹山・剣山までぶらぶら野の花を眺めながら歩きました。

　緑の草原に咲く紅色のアザミが美しく、バラ系の白い花や名前の知らない野の花にいくつも出会えました。

また、石灰石がこんなに沢山顔を出しているのも記憶がなく、緑の草原に映えて　重なるように山の斜面に 漏斗状の形をした窪地（ドリーネ）が沢山見られたのにも驚き。

野の花や花の蜜を吸いに来た昆虫にカメラを向けたり、ドリーネの中を覗き込んだり、草原の丘に座り込んで、秋吉台の地形を楽しんだりしながら　若竹山から北に見える剣山まで登って往復　約 2 時間　戻ってきました。

秋吉台の自然や地形の散策には初夏が一番と。

この初夏秋吉台の自然と野の花を写真アルバムにまとめました。

山腹に漏斗型のドリーネがいくつもみえる　　秋吉台の中の散策路で　　2012.6.26.

展望台から若竹山を経て剣山のルート　2012.5.26.　上段左奥　剣山　下段中央　若竹山

展望台正面より北側　右手奥をカルスト道路が走る　2012.5.26.

検山の頂上から今まで見たことのない秋吉台北西側の景色　2012.5.26.

誰もいない検山の頂上で自動シャッターをかってみました　2012.5.26.

カルストロードを走るのも久し振り　博物館で秋吉台の野の花の本が新たに出ていると教えてもらって、トロン温泉へ行って　カルストの北側から山裾の田園地帯を眺めながら美東大田の道の駅へ
久し振りの初夏のカルストの散策路　　私のイメージとはずいぶん違っていて本当に新鮮な楽しいwalkでした。

初夏の野の花がいっぱい　秋吉カルスト**Walk**【おわり】
2012.5.26.

秋吉台博物館前の広場で　地球に大量の酸素を発生させたシアノバクテリアが堆積した縞状の石灰岩「スト路的ライト」を見ました

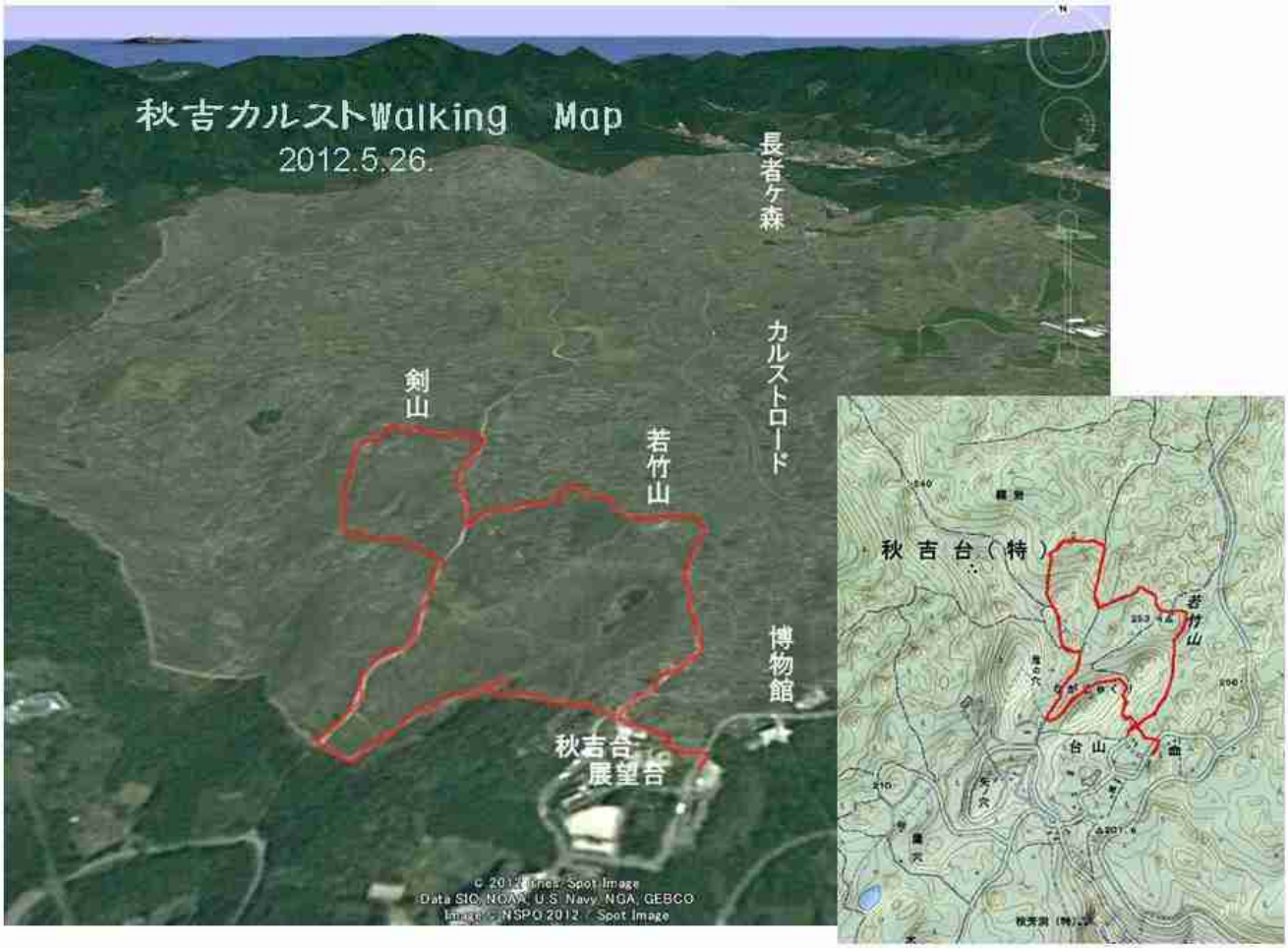
「鉄の惑星　地球」　光合成を行うシアノバクテリアが大量の酸素を発生し、海中の鉄イオンを酸化し、縞状の鉄鉱床を形成した。

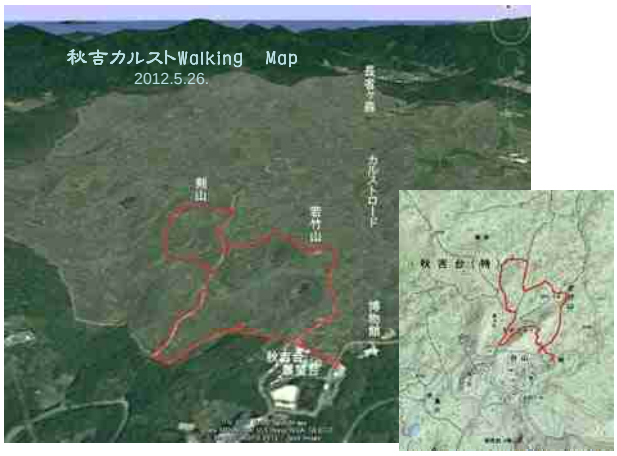
そのシアノバクテリアの死骸がこの縞状の石灰石となって堆積し、今目の前にある

話は本で読んで知っていましたが、やっと「鉄の惑星　地球」が頭の中に入りました。

このシアノバクテリアのシステムが現在も海中のプランクトンに引き継がれ

「海と生命と鉄」が連動し、地球環境「気候」にも大きな影響を与え続けているという。






初夏の野の花がいっぱい
秋吉カルストWalk
2012.5.26.

初夏の秋吉台　2012.5.26.

アザミなど秋吉台　初夏の野草を見たくて　久し振りにカルスト台地の散策路を若竹山から剣山まで、
ぶらぶら散策路を歩きました。

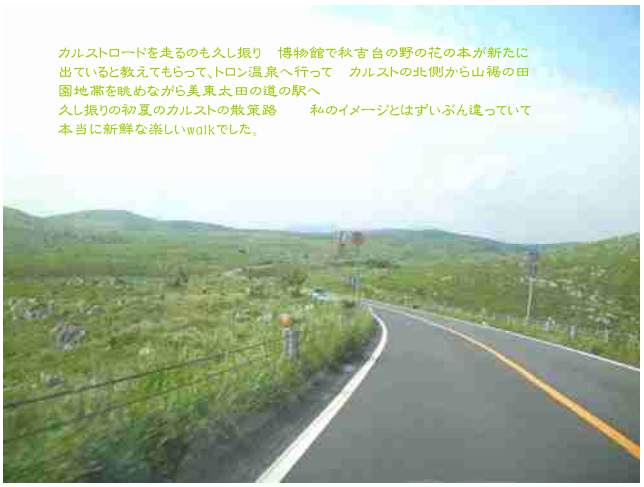
緑の原の中に咲く紅色のアザミが美しく、 石灰石がこんなに沢山見られたのにも驚きました。

また、数多くのカルスト地形「ドリーネ」がくっきりと多数眺められたのも記憶になく、
秋吉台の眺望は今が一番美しい時と。

検山の頂上から今まで見たことのない秋吉台北西側の景色　2012.5.26.

誰もいない検山の頂上で自動シャッターをやってみました　2012.50.26.

カルストロードを走るのも久し振り　博物館で秋吉台の野の花の本が新たに出ていると教えてもらって､トロン温泉へ行って　カルストの北側から山裾の田園地帯を眺めながら美東大田の道の駅へ
久し振りの初夏のカルストの散策路　　私のイメージとはずいぶん違っていて本当に新鮮な楽しいwalkでした。



**初夏の野の花がいっぱい　秋吉カルストWalk【おわり】**
2012.5.26.

秋吉台博物館前の広場で　地球に大量の酸素を発生させたシアノバクテリアが堆積した縞状の石灰岩「スト路的ライト」を見ました

「鉄の惑星　地球」 光合成を行うシアノバクテリアが大量の酸素を発生し、海中の鉄イオンを酸化し、縞状の鉄鉱床を形成した。

そのシアノバクテリアの死骸がこの縞状の石灰石となって堆積し、今目の前にある。

話は本で読んで知っていましたが、やっと「鉄の惑星　地球」が頭の中に入りました。

このシアノバクテリアのシステムが現在も海中のプランクトンに引き継がれ、

「海と生命と鉄」が連動し、地球環境「気候」にも大きな影響を与え続けているという。